

2025年6月12日（理事会）
2025年6月27日（評議員会）

令和6(2024)年度

事業報告書

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

目次

I	2024年 事業報告	1
II	事業 経 営	7
	1. 保育支援系施設の経営	7
	2. 高齢者支援系施設の経営	28
	3. 障害者支援系施設の経営	66
	4. 児童・女性支援系施設の経営	84
	5. 医療事業施設の経営	96
	6. 収益事業の経営	100
	7. 社会貢献事業	101
	8. 人材育成事業	102
III	職員福利厚生制度	103
IV	理事会、評議員会及び評議員選任・解任委員会	104
V	事務局主要業務	110
VI	施設長会及び各種委員会	116
VII	業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要	136
VIII	事業報告の付属明細書	137

I 2024年度 事業報告

2024年度は、介護報酬、障害福祉サービス等報酬、診療報酬の同時改定がありました。全体としてはプラス改定ではあったものの、施設基準や各種基準の要件が厳しく、物価高騰や人件費の上昇等もあり、厳しい経営環境にありました。全国的に人手不足が顕在化している中、本会でも、養成校にアプローチし、施設実習の学生を積極的に受け入れ採用につなげるなど、本会を取り巻く環境の変化に対応しながら、2024年度も中長期計画に沿って、持続的成長を達成するべく経営を行ってまいりました。

事業関連につきまして、2024年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、これに伴い、婦人保護施設「いこいの家」は、女性自立支援施設「自立ホームいこい」として新たな一歩を踏み出しました。児童養護施設「双葉園」は、8月1日に小規模グループケア地域型ホーム「りんどう」と「わかば」を開設しました。杉並区南部の地域ニーズへの対応として、都用地を活用して建設中であった障害福祉施設「リーフぽけっと」が竣工し、3月21日に開所式が執り行われました。利用者が、障害の有無によって分け隔てられることなく社会の一員として安心して生活が送れる施設を目指し、2025年4月1日より事業を開始いたします。昭島病院におきましては、地域のニーズに合った病棟再編を行い、2つあった急性期病棟のうち1棟を「地域包括医療病棟」に転換しました。養護老人ホーム「万世敬老園」は、2025年3月12日に最後の利用者の転園が完了し、3月31日付で事業を廃止しました。

今年度より、業務の効率化を目指しデジタル化を推進するため、専門部署（デジタル推進担当）を新設しました。また、法人にDX推進委員会を立ち上げ、各支援系グループにもDX推進委員会を組織することで、一体的かつ重層的に活動を展開することができました。その成果として、新たにAI議事録作成ソフトを採用し、全事業所で活用できるようサポートするとともに、特別養護老人ホーム「ひかり苑」では、センサー付き見守りカメラの導入を支援しました。

財務状況につきましては、万世敬老園の事業廃止や物価高騰などのマイナス要因がありましたが、各事業所における地道なサービス・支援の提供と予算管理の徹底により、多くの事業所で収支は良好に推移しました。その他、集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業は安定的に収益を確保し、本会における財務基盤の下支えとなりました。その結果、2024年度の本会全体の当期活動増減差額は1億3,518万円を計上することができました。一方で昭島病院においては、入院・外来ともに患者数が伸び悩み、1億3,824万円の赤字となっています。

地域社会への取組みとして、同援子ども学習室「ラ・スク」をはじめ、地域見守り配食「サンホーム給食」や認知症カフェ「さくらカフェ」、地域の子育て相談事業「子育て仲間づくり・くじらっこ」等を行いました。なお、同援子ども学習室は2024年度末で終了し、10年間で延べ1,642名の地域の子どもの学習を支援しました。

人材の育成と職場環境の整備につきましては、法人全体では新規採用職員27名、正規転換11名（計38名）を確保しました。人材育成について、各支援系グループで分野別専門研修を実施したほか、施設長等の人事考課の考課者を対象に、職場環境の改善や職員との面談技法の習得を目的として、施設マネジメントに関する研修を隔月で実施しました。また、管理職員等に対してDX推進の目的とその意義についての理解を促すための研修を行いました。職員処遇に関しては、各種報酬等の単価に組み込まれた給与引き上げ分や加算をもとに各種手当を見直し、賃上げによる確実な処遇改善を行いました。昭島病院においても就業規則を改正し、労働環境の改善に取り組みしました。

2024年度の最後の時期に、本会の施設内にて職員の利用者に対する虐待行為が複数発覚しました。一つは利用者の身体拘束であり、もう一つは暴力により重傷を負わせるなど、過去に例を見ない深刻なものでした。本会がこれまで築いてきた信頼を深く裏切るものであり、その存立を揺るがせかねない重大な事態と受け止めています。こうした、あってはならない虐待の再発を防ぐために、法人本部にも全体を統括するための虐待防止委員会を設置し、虐待予防に特化した研修計画を作成しました。2025年度は、本会のサービスのあり方のみならず、その体質も含めて見直し、改善する覚悟で全力を尽くしてまいります。

今年度も中長期計画の着実な実行に努めてまいりました。さらに、次年度とその先の未来を見据え、同援施設整備10ヵ年計画（2026～2035年度）の作成に着手しました。限られた財源を最大限有効に活用し、本会の歴史、伝統を継承しながら将来にわたって発展させていくために、計画をとりまとめ、その実施に邁進いたします。施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

社会福祉法人 恩賜財団東京都同僚援護会
理事長 飯山 幸雄

令和6(2024)年度 施設利用状況報告

2025年3月31日現在

グループ名	種 別	施設名	利 用 状 況								備 考
			定 員	(3 月 利用 実 績 数)	利 1 用 日 者 平 均	年 間 (延 利 用 者 数)	年 間 実 施 延 日 数	(年 間 利 用 率)	(年 間 利 用 率)	年 間 利 用 率 前 年 対 比	
保 育 支 援 系 施 設	保 育 所	むさしの保育園	169	154	156.1	45,718	293	92.3%	92.8%	-0.5%	
		本園	140	129	130.4	38,195	293	93.1%	96.1%	-3.0%	
		方南分園	29	25	25.7	7,523	293	88.5%	77.2%	11.3%	
		昭和郷保育園	100	114	112.9	33,076	293	112.9%	114.7%	-1.8%	
		大山保育園	130	130	130.5	38,227	293	100.4%	100.6%	-0.2%	
		昭和郷第二保育園	190	193	187.6	54,961	293	98.7%	99.0%	-0.3%	
		みなと保育園	63	56	51.1	14,984	293	81.2%	74.0%	7.2%	
		同援みどり保育園	125	130	127.8	37,442	293	102.2%	102.3%	-0.1%	
		つつじが丘保育園	110	119	117.0	34,270	293	106.3%	108.8%	-2.5%	
		同援さくら保育園	110	108	109.0	31,942	293	99.1%	99.4%	-0.3%	4/1定員変更
		同援はいじま保育園	50	57	57.1	16,726	293	114.2%	113.0%	1.2%	
		同援いぐさ保育園	60	48	48.4	14,184	293	80.7%	69.6%	11.1%	
	保育施設計		1,107	1,109	1,097.5	321,530	—	99.1%	98.6%	0.5%	
高 齢 者 支 援 系 施 設	救護施設	昭島荘	100	99	101.9	37,201	365	101.9%	100.1%	1.8%	
	養護老人ホーム	万世敬老園	90	4	36.3	13,238	365	40.3%	80.9%	-40.6%	4/1定員変更 3/31事業廃止
	軽費老人ホーム	サンホーム	50	50	49.4	18,035	365	98.8%	98.2%	0.6%	
	小 計		240	153	187.6	68,474	—	78.2%	91.2%	-13.0%	
	特別養護老人ホーム (短期入所生活介護事業含)	フジホーム	104	100.1	100.6	36,723	365	96.7%	96.1%	0.6%	
		ニューフジホーム	104	94.3	95.1	34,696	365	91.4%	95.0%	-3.6%	
		原町ホーム	52	50.9	49.1	17,939	365	94.5%	93.3%	1.2%	
		ゆたか苑	54	50.9	51.1	18,640	365	94.6%	93.3%	1.3%	
		ひかり苑	54	52.2	52.9	19,294	365	97.9%	95.8%	2.1%	
	小 計 (介護施設)		368	348.4	348.8	127,292	—	94.8%	94.9%	-0.1%	
	認知症対応型老人 共同生活援助事業 (グループホーム)	グループホームかえで	18	16.7	16.1	5,889	365	89.6%	88.8%	0.8%	
		原町グループホーム	18	17.5	17.4	6,350	365	96.7%	98.4%	-1.7%	
	通所介護(予防)事業	フジ・デイサービスセンター	25	10.7	12.3	3,778	308	49.1%	53.6%	-4.5%	
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	12	5.3	5.7	1,762	308	47.7%	45.9%	1.8%	
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター	—	833件	33.2件	10,182件	307	—	—	—	
		昭島市中部地域包括支援センター あいぽつく	—	486件	19.5件	5,689件	292	—	—	—	
	居宅介護支援事業所	フジホーム	—	—	—	2,103	243	—	—	—	
		原町ホーム	—	—	—	1,016	294	—	—	—	
		ゆたか苑	—	—	—	384	245	—	—	—	
	小規模多機能型 居宅介護事業	原町小規模多機能居宅介護センター	25	23	22.5	8,210	365	90.0%	89.7%	0.3%	
		昭和郷小規模多機能居宅介護センター	25	22	21.5	7,843	365	86.0%	88.0%	-2.0%	
	定期巡回・ 随時対応型訪問介護看護	昭和郷訪問介護センター	—	19	15.7	5,727	365	—	—	—	
	小 計 (介護在宅)		123	114.2	111.2	43,062	—	—	—	—	
	公益事業	フジホーム診療所	—	—	—	—	—	—	—	—	
		介護職員初任者研修事業	—	—	—	—	—	—	—	—	
		さくらガーデン (サービス付き高齢者向け住宅)	49	47	45.3	16,549	365	92.5%	96.4%	-3.9%	
	高齢者施設計		780	662.6	692.9	255,377	—	87.1%	91.6%	-4.5%	

注1 定員については母子支援施設は世帯数で他施設は人数。

注2 地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。

グループ 名	種 別	施設名		利 用 状 況									備 考
				定 員	(3 利 用 実 者 績 数)	利 1 用 日 者 平 均	年 (延 間 利 用 者 数)	年 間 実 施 日 数	(年 '24 年 利 用 率)	(年 '23 年 利 用 率)	年 間 利 用 率 前 年 対 比		
障 害 者 支 援 系 施 設	障害者支援施設(入所)	さやま園(居住)	施設入所支援	96	100	93.0	89.2	32,556	365	92.9%	96.9%	-4.0%	
	障害福祉サービス (通所)	さやま園	生活介護	(96)		93.9	90.5	24,338	269	94.2%	97.7%	-3.5%	
			短期入所	4		0.1	0.6	213	365	14.6%	5.6%	9.0%	
		小茂根福祉園	生活介護	40	70	29.2	30.6	7,395	242	76.4%	76.3%	0.1%	
			就労継続支援B	30	20.6	21.1	5,099	242	70.2%	73.3%	-3.1%		
		立川福祉作業所	生活介護	30	80	24.1	24.7	6,023	244	82.3%	75.0%	7.3%	
			就労継続支援B	44	42.4	43.4	10,594	244	98.7%	107.6%	-8.9%		
			就労移行支援	6	0.8	1.3	307	244	21.0%	5.1%	15.9%		
		東村山生活実習所	生活介護	30	40	26.5	28.2	6,965	247	94.0%	98.6%	-4.6%	
			就労継続支援B	10	8.5	8.8	2,185	247	88.5%	87.2%	1.3%		
			短期入所		2	0.1	0.3	106	365	14.5%	17.5%	-3.0%	
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ			—	215	7.4	2,706	365	—	—	—	
	心身障害者福祉センター	さいわい福祉センター			—	469	17.1	6,240	365	—	—	—	
	共同生活援助事業 (知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見		6	5	5.7	2,069	365	94.5%	100.0%	-5.5%		
		グリーンハイツ		6	5	5.0	1,831	365	83.6%	83.6%	0.0%		
		フレンズ・モエ		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		パル		6	6	6.0	2,190	365	100.0%	87.1%	12.9%		
		それいゆ小川		7	6	6.0	2,190	365	85.7%	100.0%	-14.3%		
		ファーム竹丘1		6	5	4.7	1,718	365	78.4%	68.4%	10.0%		
		ファーム竹丘2		7	6	5.1	1,870	365	73.2%	91.6%	-18.4%		
		風のね		10	10	10.0	3,650	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		レヂオンス巣鴨		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		はなみずき		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		ユーカリ		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		夢オハナ		6	6	5.8	2,133	365	97.4%	100.0%	-2.6%		
		結オハナ		6	6	6.0	2,190	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		特定相談支援事業	さやま園		—	18	—	164	—	—	—	—	
			立川福祉作業所		—	15	—	274	—	—	—	—	
			さくらんぼ		—	2	—	48	—	—	—	—	
		障害者施設計				368	1,129.2	433.5	130,894	—	88.6%	91.1%	-2.5%
児 童 ・ 女 性 支 援 系 施 設	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野		20	18	17.1	6,234	365	85.4%	79.4%	6.0%		
		緊急一時保護事業		1	0	0.2	62	365	17.0%	18.3%	-1.3%		
		サンライズ万世		20	19	17.9	6,533	365	89.5%	94.2%	-4.7%		
		緊急一時保護事業		2	0	0.3	121	365	16.6%	16.1%	0.5%		
	児童養護施設	双葉園		50	48	47.3	17,278	365	94.7%	90.8%	3.9%		
		(小規模グループケア地域型ホーム)	双葉園	(28)	(28)	29.5	10,772	365	94.2%	90.2%	4.0%		
			りんどう	(6)	(5)	5.8	1,399	243	96.0%	—	96.0%	8/1事業開始	
		(小規模グループケア地域型ホーム)	わかば	(6)	(5)	5.8	1,419	243	97.3%	—	97.3%	8/1事業開始	
			高嶋の家	(6)	(6)	5.8	2,106	365	96.2%	94.8%	1.4%		
		(地域小規模型グループホーム)	くすのき	(4)	(4)	4.3	1,582	365	92.8%	90.5%	2.3%		
		(地域小規模型グループホーム)	昭島市子どもトワイライトステイ事業	2	2	—	26	365	—	—	—		
	女性自立支援施設	自立ホームいこい		40	13	14.9	5,434	365	37.2%	42.4%	-5.2%		
	児童厚生施設	昭島市児童センターばれっと		—	143.8	97.4	31,848	327	—	—	—		
	児童・女性施設計				135	243.8	195.1	67,536	—	74.8%	74.7%	0.1%	
施設合計				2,390	3,144.6	2,419.0	775,337	—	91.5%	93.4%	-1.9%		
医 療	病 院	昭島病院		199	11,962	470.6	142,226	365	—	—	—		
		入院		199	5,098	159.6	58,256	365	80.2%	80.6%	-0.4%		
			外来		—	6,864	311.0	83,970	270	—	—	—	
		昭島病院訪問看護ステーション			—	287.0	14.5	3,710	257	—	—	—	
収 益	印 刷	事業局		—	—	—	—	—	—	—	—		
	不動産賃貸	不動産賃貸事業・病院駐車場事業		—	—	—	—	—	—	—	—		
合 計 (福祉施設拠点数29、病院1、事業局1ほか)				2,589	15,393.6	2,904.1	921,273	—	—	—	—		

令和6(2024)年度 職員配置状況報告(職員実人員数)

グループ名	種 別	施設名	2025年3月31日				24年度	2024年3月31日				23年度	備 考
			正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間常勤換算平均)	正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間常勤換算平均)	
保育支援施設	保 育 所	むさしの保育園	39	2	20	61	48.9	33	2	20	55	46.8	調理委託(本園)
		昭和郷保育園	18	8	14	40	36.3	20	7	15	42	34.6	調理委託
		大山保育園	28	1	18	47	40.9	23	0	16	39	35.4	
		昭和郷第二保育園	30	5	29	64	51.4	26	7	21	54	45.1	調理委託
		みなと保育園	17	1	9	27	21.6	14	1	10	25	21.0	
		同援みどり保育園	26	3	14	43	36.4	22	3	16	41	34.7	
		つつじが丘保育園	22	0	21	43	36.5	22	0	22	44	35.9	調理委託
		同援さくら保育園	26	1	18	45	36.1	26	1	19	46	34.9	調理委託
		同援はいじま保育園	12	2	12	26	22.2	13	0	19	32	20.7	調理委託
		同援いぐさ保育園	11	0	14	25	19.0	9	1	10	20	17.2	
	保育施設計		229	23	169	421	349.3	208	22	168	398	326.3	
高齢者支援施設	救護施設	昭島荘	32	6	13	51	44.9	34	7	8	49	44.9	調理委託
	養護老人ホーム	万世敬老園	12	3	7	22	21.2	12	7	10	29	24.9	調理委託
	軽費老人ホーム	サンホーム	11	4	5	20	17.5	12	3	6	21	16.8	
	特別養護老人ホーム (短期入所生活介護事業含)	フジホーム	38	7	18	63	61.0	42	8	21	71	62.2	調理委託
		ニューフジホーム	38	9	19	66	59.9	43	4	19	66	60.9	調理委託
		原町ホーム	17	9	8	34	33.9	18	8	8	34	32.9	調理委託
		ゆたか苑	25	2	12	39	31.1	25	0	10	35	30.1	調理委託
		ひかり苑	19	9	15	43	35.5	18	10	13	41	34.4	
	認知症対応型老人 共同生活援助事業 (グループホーム)	グループホームかえで	2	5	6	13	11.4	2	4	10	16	13.7	
		原町グループホーム	7	6	4	17	15.5	8	5	5	18	15.6	
	通所介護(予防)事業	フジ・デイサービスセンター	2	0	12	14	10.5	2	0	9	11	8.7	
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	1	3	2	6	4.7	1	4	2	7	4.6	
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター	9	1	1	11	10.7	9	0	2	11	10.4	
		昭島市中部地域包括支援センター あいぽっく	3	1	3	7	6.1	3	0	4	7	6.2	
	居宅介護支援事業所	フジホーム	3	1	1	5	4.9	3	1	1	5	4.9	
		原町ホーム	2	0	0	2	2.0	2	0	0	2	2.0	
		ゆたか苑	1	0	0	1	1.0	1	0	0	1	1.0	
	小規模多機能型 居宅介護事業	原町小規模多機能居宅介護センター	5	2	7	14	12.9	5	1	8	14	12.0	
		昭和郷小規模多機能居宅介護センター	3	6	5	14	12.8	3	5	5	13	12.3	
	定期巡回・ 随時対応型訪問介護看護	昭和郷訪問介護センター	5	3	2	10	9.3	5	3	2	10	9.3	
	公益事業	フジホーム診療所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		介護職員初任者研修事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		さくらガーデン (サービス付き高齢者向け住宅)	1	0	15	16	7.8	1	0	12	13	6.6	
	高齢者施設計		236	77	155	468	414.6	249	70	155	474	414.4	

グループ名	種 別	施設名	2025年3月31日				24年度	2024年3月31日				23年度	備 考
			正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間常勤平均換算)	正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間常勤平均換算)	
障害者支援施設	障害福祉サービス	さやま園	58	20	47	125	106.8	56	18	45	119	98.2	
		小茂根福祉園	29	2	3	34	32.4	26	3	3	32	31.6	
		立川福祉作業所	12	5	14	31	26.7	12	4	14	30	24.6	調理委託
		東村山生活実習所	15	2	16	33	26.4	15	6	11	32	26.3	調理委託
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ	16	0	17	33	26.1	20	0	17	37	31.1	調理委託
	心身障害者福祉センター	さいわい福祉センター	20	0	14	34	26.2	22	0	14	36	27.2	
	共同生活援助事業 (知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		グリーンハイツ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		フレンズ・モエ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		パ ル	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		それいゆ小川	—	(2)	—	0	—	—	(2)	—	0	—	
		ファーム竹丘1	—	(2)	—	0	—	—	(2)	—	0	—	
		ファーム竹丘2	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		風のね	4	3	6	13	10.3	5	2	6	13	10.7	
		レヂオンス巣鴨	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		はなみずき	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		ユーカリ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		夢オハナ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
		結オハナ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—	
	特定相談支援事業	さやま園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		立川福祉作業所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		さくらんぼ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	公益事業	豊島区東部・西部障害支援センター	—	—	—	—	—	(4)	—	(4)	(8)	—	
	障害者施設計		154	32	117	303	254.9	156	33	110	299	249.7	
児童・女性支援施設	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	10	2	9	21	13.5	8	2	8	18	12.2	
		サンライズ万世	12	1	3	16	14.2	12	1	3	16	14.2	
	児童養護施設	双葉園	32	1	8	41	61.1	46	3	6	55	61.3	
		(小規模グループケア地域型ホーム) りんどう	5	0	0	5		—	—	—	—		
		(小規模グループケア地域型ホーム) わかば	6	0	0	6		—	—	—	—		
		(地域小規模型グループホーム) 高嶋の家	5	0	0	5		6	0	0	6		
	(地域小規模型グループホーム)	くすのき	6	0	3	9		5	0	0	5		
	女性自立支援施設	自立ホームいこい	13	0	0	13	13.3	11	0	0	11	11.0	調理委託
	児童厚生施設	昭島市児童センターぱれっと	1	2	10	13	6.9	1	3	13	17	8.1	
	児童・女性施設計		90	6	33	129	109.0	89	9	30	128	106.8	
	施設合計		709	138	474	1,321	1,127.8	702	134	463	1,299	1,097.2	
医療	病 院	昭島病院	233	8	109	350	273.4	212	0	119	331	257.1	
		訪問看護ステーション	5	0	2	7	5.9	5	0	2	7	4.8	
収益	印 刷	事業局	14	1	0	15	15.0	14	1	0	15	15.0	
	土地・建物賃貸	不動産賃貸事業 病院駐車場事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計			961	147	585	1,693	1,422.1	933	135	584	1,652	1,374.1	

注1 嘱託医等の業務委託や派遣職員は算入していない。

注2 共同生活介護・共同生活援助(風のね除く)の職員配置は、委託事業のため職員数および常勤換算には含まない。

Ⅱ 事業経営

1. 保育支援系施設の経営

認可保育所10園を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・保育グループにおけるミライ委員会の取組みとして、具体的方策の10項目を実践しました。各園の保育に反映することで良い点や課題点が見つかり、継続的な取組みの重要性を再認識しました。
- ・事業継続計画(BCP)と安全計画を見直し、適宜実地訓練と机上訓練を行い、実効性を高めました。
- ・全園第三者評価を受審し、結果を公表しました。いただいた意見や結果を振り返り、今後の保育の改善につなげていきます。
- ・子どもたちの健やかな成長のために、関係機関と連携を図るとともに、グループで「保育に活かす権利条約」というテーマで研修を受け、実践へとつなげました。

◆ 地域社会への取組み

- ・関係機関と連携を取りながら育児困難家庭・要配慮児・医療的ケア児等、それぞれの状況に合わせて対応しました。
- ・育児講座を開催し、地域の親子の交流や子育てに関する相談の場を提供するなど、地域子育て拠点としての取組みを発信するためホームページをリニューアルし、積極的に活用しました。ホームページを準備中の園は次年度中に整備を進めます。
- ・各自治体や地域のニーズに応じ、誰でも通園制度の試行や一時預かり事業を実施しました。令和8年度から本格的に始まる誰でも通園制度に関しては、先行して実施している園の情報を共有し、柔軟に対応できるよう準備をしていきます。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員の特性を生かせるような育成計画のもと、園内外の研修に参加し、学びを深めました。
- ・「目指す保育」の実践の事例の発表と意見交換会をグループで行いました。自園の保育を振り返り他園のやり方を参考にすることができた有益であったため、引き続き行っていきます。
- ・業務時間内の「ノンコンタクトタイム」に取り組みしました。グループ内で進捗状況を共有し、定着に向けて引き続き取り組んでいきます。
- ・保育士養成機関である各種学校が減少しており、実習生の確保が困難な中で、様々な機会に各園での取組みをアピールし、実習生の獲得と、さらには採用へとつなげました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・昨年度に続き、定員の未充足が続く園が増えてきました。その一方で大規模マンションの建設により、園児の受け入れ増を求められる地域もありました。各地域の動向を把握しながら、特別事業の取り組みや定員数の変更等も視野に入れ、引き続き検討していきます。
- ・多様な働き方のニーズを踏まえつつ、安定した運営が行えるよう様々な媒体を活用し、人材確保に努めました。
- ・制度や補助金の情報を共有し、各市区の物価高騰対策のための補助金や、乳幼児の豊かな心の育ちを支援する東京都の「すくわくプログラム推進事業補助金」等を活用して経費削減につなげました。
- ・DXを活用し、業務の効率化と経費削減に努めました。

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 むさしの保育園

定員 169 名

【事業実績】

施設利用率 92.3 % *施設入所支援目標利用率 96.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・小規模保育や縦割り保育の課題点やセクシャリティの取り組みについて、会議にて振り返りを行いながら実践しました。
・BCPと安全計画をもとに机上訓練を含む様々な訓練を行いました。水害訓練は水嚢を準備するなど実効性を高めて実施しました。
・利用者の安全と安心のために、見守りカメラで怪我が起きた経緯や保育を振り返りました。重要な場面は、動画をDropBoxに保管することで事後の検証と他の職員への注意喚起に役立てました。
・保育参加を勧めることで、個別面談の要望が増えました。ドキュメンテーションの配信や子どもの発達の情報共有をこまめに行うことで、保育園と家庭が一緒に子どもの育ちを支援することができました。
・第三者評価で行事の度にアンケートを取り、保育園の課題や現状を速やかに利用者に公開することで、満足度の高い結果が得られました。

◆ 地域社会への取り組み

・学区域や中核園で行われる懇談会に出席し、地域のさまざまな組織と意見交換を行うことで、つながりを深め、顔の見える連携・協働を行いました。
・未就園児に対して、育児休業取得者が増えていることによるニーズの変化を踏まえ、保育園が子どもを保育して保護者がリフレッシュする地域活動を取り入れました。利用者からは好評を得たため、引き続き内容を増やして実施していきます。
・分園では「誰でも通園制度」の試行的事業を実施しました。2歳児の空き定員を利用する余裕型は、幼稚園へ入園する前の一時的な定期利用となりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・園内研修やキャリアアップ研修を含む外部の研修参加を進めました。着実に質の向上につながっていますが、園全体の成果として現れていないため、引き続き研修の参加と一人ひとりの学びを周囲の職員と共有し、実践へとつなげていきます。
・階層別会議、チューター面談、ベテラン職員への1on1の中では個人の意見が活発に聞かれるようになりました。大人も認め合える保育園のテーマを具体化するために1on1を全職員に広め、仕事のやりがいにつなげていきます。
・保育学生のアルバイト採用や中高生の職場体験を再開しました。その反面、SNSの更新が滞ったため、担当を決め、配信の頻度を上げて人材確保につなげていきます。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

・計画通りの施設整備を実施し、施設の安全確保と省エネ対策に取り組みました。
・0歳児は年度の早い時期に充足しましたが、2歳児以上の欠員が次々とあり、1年を通して未充足でした。特色のある保育としてインクルーシブ保育や地域活動を実施し、利用者には満足いただけましたが、ホームページのバージョンアップが再び次年度に持ち越しとなり、地域へのアピール不足となりました。
・保育サービス推進事業や各種自治体の補助金を積極的に活用し、保育の充実とともに収入の維持に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
園庭盛り土修繕	4,323	園庭盛り土修繕	4,323
購入等合計	4,323	購入等合計	4,323
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
防犯カメラ取替工事	1,005	防犯カメラ取替工事	1,177
		1Fエアコン修繕	4,620
購入等合計	1,005	購入等合計	5,797
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
1Fエアコン修繕	4,620	玄関自動ドア故障部品取替工事	522
エアドッグ×2	660	エアドッグ×2	735
購入等合計	5,280	購入等合計	1,257
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	10,608	年間合計	11,377

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	82	84	86	87	88	90	88	85	84	84	84	84	1,026
女児	71	69	70	70	70	71	72	71	71	70	69	68	842
合計	153	153	156	157	158	161	160	156	155	154	153	152	1,868

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	22	31	32	27	26	27	165
R05(2023)年度	23	30	29	25	26	23	156
R06(2024)年度	23	31	25	24	24	25	152

令和6(2024)年度 事業報告(保育所)

施設名 昭和郷保育園

定員 100 名

【事業実績】

施設利用率 112.9 % *施設入所支援目標利用率 114.0%

◆利用者支援サービスの充実

・園児の食育計画の一環として園庭の畑の整備を行いました。子どもたちが野菜の苗を育て、収穫し調理して食べる食育活動を行いました。収穫した大豆で味噌づくりを行うなどの体験と学びが、食事の残食を減らすことにつながりました。

・幼児クラスは子ども自らがやりたいことを選ぶ選択式保育を行いました。様々な経験や体験を通して個性を伸ばし自己肯定感を育む、一人ひとりを尊重した保育を実践しました。

・乳児クラスは少人数制保育を行い、一人ひとりの成長に合わせた応答的保育を取り入れました。

・保護者と日頃よりコミュニケーションを取り、保育システム(コドモン)を活用し日々の保育をドキュメンテーションで発信することで、昭和郷保育園の保育の理解へつなげました。

・貸し出し図書コーナーは常に整理・整頓を心がけ、いつでも利用できるように努めました。絵本を介して親子の会話や楽しみが増え、多くの親子に利用していただきました。

・要支援児の入園希望もありましたが、産休・育休代替の職員の確保に苦慮していたため入園の間口を広げることができず、昨年の稼働率を上回ることができませんでした。

◆地域社会への取組み

・病後児保育室は、保護者が安心して働くことができるように受け入れ態勢を整え、利用者も増加しました。昭島市の病後児保育室として紹介されていますが、利用者は固定化傾向にあるため、今後はより広く地域に周知していく取組みが課題となっています。

・東日本矯正医療センター准看護養成所の実習生の受入れや、矯正展のイベントにも参加し地域の国立施設との交流に努めました。

・現在、昭島市は1、2歳児の待機児が増加していることもあり、態勢を整え一時保育の受入れを柔軟に行いました。

・地域に向けて当園の栄養士による講座や、保育士によるコンサートなどを開催しました。非常に好評で入園につながる例もありました。また昭島病院主催の健康サロンにおいても演奏を披露し大変好評でした。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・「保育について話そう」をコンセプトに、会議では、保育について職員間で話す機会を多く設けました。職員が自分の意見を言える風通しの良い職場環境づくりを目指しました。

・保育実習生や高校生、中学生の職場体験を積極的に受け入れ、そのまま採用へとつながった実習生もいました。

・年数に合わせてキャリアアップのための研修参加を積極的に勧めました。より意欲やりがいを持つようになり、職場の活性化につながりました。

・ノンコンタクトタイムについて、職員全体で意識して、時間内に業務を完了できるよう取り組みました。

・園の行事に職員の得意を活かす機会(楽器演奏・絵画・裁縫)を設けることで、やりがいを持って取り組むことができました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・職員の適正配置に努め、定員を超えて園児を柔軟に受け入れることで稼働率を上げました。

・地域活動事業などに積極的に取り組み、補助金の増につなげました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
給食室ガス台交換	526	給食室ガス台交換	402
給食室業務用冷凍・冷蔵庫	1,100	給食業務用冷凍・冷蔵庫	1,100
2歳児保育室床改修	942	2歳児保育室床改修	942
		ノートPC×3	505
購入等合計	2,568	購入等合計	2,949
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
ホームページ開設	747	ホームページ開設	666
購入等合計	747	購入等合計	666
年間合計	3,315	年間合計	3,615

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	55	55	55	55	56	57	57	57	57	57	57	57	675
女児	55	56	57	57	57	57	56	57	57	57	57	57	680
合計	110	111	112	112	113	114	113	114	114	114	114	114	1,355

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	11	16	23	23	22	23	118
R05(2023)年度	11	16	22	22	23	22	116
R06(2024)年度	9	16	22	22	22	23	114

令和6(2024)年度 事業報告(保育所)

施設名	大山保育園
定員	130 名

【事業実績】

施設利用率 100.4 % *施設入所支援目標利用率 100.0%

◆利用者支援サービスの充実

・「同援保育グループが目指す保育」を実践し、子どもたちの興味・関心に寄り添い、子どもたちも保育士もワクワクドキドキする保育を心がけました。乳児クラスは少人数保育を始め、常に振り返りを行い、課題に対して検討しながら取り組みました。その中で、継続的に取り組むことの重要性を再認識しました。

・子どもの人権や主体性を尊重し、一人ひとりの成長に応じた適切な養護と教育を行いました。

・災害訓練を行い、防災・減災、事業継続計画(BCP)の充実に取り組みました。

・第三者評価を受審し概ね良好の結果を得ましたが、今後も継続できるよう、結果をもとに見直しを行っていきます。

・関係機関と連携を図るとともに、研修を受講し、子どもたちの健やかな成長のための保育を実践しました。

◆地域社会への取り組み

・関係機関と連携し、育児困難家庭・要配慮児等それぞれの状況に応じて対応しました。

・子育ての相談等、地域社会の子育ての拠点としての活動を再開しました。地域と在園児との関わりを大切に、今後も地域の育児拠点となれるよう取り組んでいきます。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・多様なサービスを提供できる人材の育成のため、園内外の研修に積極的に参加し職員のキャリアアップに努めました。「乳児クラスの少人数保育」の実践に向けて園内研修で「環境」をテーマに話し合い、意見交換をする中で理解を深めていきました。

・子ども一人ひとりに丁寧な保育を提供していくために、否定語ではなく肯定語を使うよう、また最初から答えを伝えてしまわず、子どもたち自身が考えられるような声掛けに努めました。

・業務改善に向けノンコンタクトタイムを推進し保育事務や行事の見直しなどに取り組み、働きやすい環境づくりに努めました。

・実習生が学びやすい環境を整え、採用につながるよう取り組みました。

◆財務基盤の強化へ向けた取り組み

・物価高騰に対し補助金は出たものの、施設の経営には影響がありました。

・無駄を省くよう節電等を心がけ、財務基盤の強化に努めました。また補助金を活用し、蓄電池を購入しました。

・高層マンションが建設され地域住民は増加していますが、近隣に新規園も開園しているため、今後も地域のニーズを把握しながら対応していきます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
小規模保育用パーテーション ノートPC(×4)	1,080 680		
購入等合計	1,760	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
ノートPC(×6)	1,020		
購入等合計	1,020	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		モバイルPC(×5) 災害用可搬型蓄電池	913 650
購入等合計	0	購入等合計	1,563
年間合計	2,780	年間合計	1,563

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	60	60	60	60	61	61	61	61	61	61	61	61	728
女児	71	71	71	71	70	70	69	69	69	68	68	69	836
合計	131	131	131	131	131	131	130	130	130	129	129	130	1,564

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	15	20	21	25	24	22	127
R05(2023)年度	15	20	22	25	25	24	131
R06(2024)年度	15	20	22	23	25	25	130

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 昭和郷第二保育園

定員 190 名

【事業実績】

施設利用率

98.7 %

* 施設入所支援目標利用率 100.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・理念・方針・保育グループが「目指す保育」を職員会議で共有し、保育を進めていくうえで目標とすることで、全職員が高い意識を持って、保育の質の向上を目指して取り組みました。

・マッピングを使って子どもたちの思いを様々な形で経験・体験できるように保育を組み立てました。その中で子どもの自主性・主体性が育まれている姿を見ることができました。

・子どもたちの健やかな成長のために、新たに児童養護マニュアルを作成し、職員の不適切な関わりに対する認識の強化に努めました。

・保育園に係る全ての人の安全と安心を守るために、災害に対する実効性のある事業継続計画（BCP）と安全計画を見直し、訓練を行いました。安全計画はまだ根付いていないため、周知を徹底していきます。

・保育システムの機能の使用をさらに充実させ、効率的な情報の共有と保護者満足につなげました。

◆ 地域社会への取組み

・待機児童対策として定期一時保育や一時保育（一般型）の間口を広げ、より地域のニーズに応えられるようにしたことで、延べ360名の予定が、実際には延べ1,302名の利用者数となりました。リピーターも増え、そこから入園につながるケースもありました。

・障がい児や育児困難家庭へのサポートを行うために積極的に専門分野の学びに努め、臨床心理士・公認心理師や発達支援アドバイザーによる巡回指導を通じて連携、協働する中で、保育園の役割を果たすとともに、保護者に寄り添いながらニーズに合った支援を行うことで、保護者との信頼関係の構築につなげました。

・園庭開放や育児講座などの地域活動を充実して行い、利用者満足につなげました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

「目指す保育・職員像」の実現に向けて、会議、研修にて保育の見直しと充実を図りました。また、キャリアに合わせた資格試験・認定試験に積極的にチャレンジできるよう働きかけ、職員の意識向上につながりました。

・職員育成計画に基づき、内外の研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めました。結果、職員の「得意を活かした」保育の充実につながりました。

・時間外労働については、保育の充実とのバランスが難しいこともありました。次年度はワークライフバランスの適正化を目指して取り組みます。

・実習生の受け入れを積極的に行い、採用につなげられるよう努めましたが、採用には至りませんでした。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・安定した経営のため稼働率の維持に取り組むとともに、職員の適正人数の配置を行いました。

・待機児童減少による定員未充足の解消に努め、収入の安定につなげました。

・資源の節減・節約を心掛け、経費削減に努めました。（SDGs）

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
見守りカメラ	847		
北園舎防水、室内天井材交換工事	684		
購入等合計	1,531	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
業務用食器洗浄機	1,485	業務用食器洗浄機	1,351
		マックスハブ	1,200
		鉄棒	521
購入等合計	1,485	購入等合計	3,072
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		見守りカメラ	978
		PC(×3)	610
		非常用電源	410
		1歳児保育室用棚	806
購入等合計	0	購入等合計	2,804
年間合計	3,016	年間合計	5,876

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	92	96	97	99	101	103	103	105	105	104	104	104	1,213
女児	85	85	86	86	87	87	87	86	86	86	89	89	1,039
合計	177	181	183	185	188	190	190	191	191	190	193	193	2,252

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	26	30	34	36	33	37	196
R05(2023)年度	21	31	33	34	36	33	188
R06(2024)年度	24	30	33	34	36	36	193

令和6(2024)年度 事業報告(保育所)

施設名 みなと保育園

定員 63 名

【事業実績】

施設利用率

81.2 %

*施設入所支援目標利用率 87.0%

◆利用者支援サービスの充実

・昨年度に引き続き「受け止める」をテーマに園児や保護者の支援を心がけ、さらにその取組みを充実させるために会議の中で個別事例を共有しながら意見交換を行い、実践に活かすことができました。

・少人数保育の中で、職員みんなで保育しているという家庭的な温かさを大切に、子ども一人ひとりの発達や興味に合わせ、気持ちに寄り添いながら丁寧な関わりを持つことができました。また、異年齢児との交流を持つ機会を多く持つことで、子ども自身の成長を促すよう努めました。

・「遊びながら学べる英語」を取り入れて2年目という事で、週一回の英語指導が子どもたちにも定着し、覚えた英語を使って楽しむ姿が見られました。

・事業継続計画や安全計画に沿って訓練を実施し、その都度振り返りを行うことで、計画や訓練の見直しと強化を図りました。

◆地域社会への取組み

・育児講座は対面で数回実施しましたが、昨年度と同様参加者が少なかったため、今後は改めて地域の子育て世代のニーズの把握と内容の検討を行い、育児講座開催のPR方法を工夫します。

・地域へ向けて毎月実施している和太鼓指導では、継続して参加される方は決まっており、年間を通して定員が充足しませんでした。次年度は地域活動の内容を見直し、より地域に根差した保育園となるよう取組みをさらに強化します。

・昨年に引き続き、港区社会福祉協議会を通じて応援企画(フードパントリー)に参加し、手作り品の寄付を受けるなど、地域とのつながりを深めることができました。

・育児困難家庭の状況把握に努め、子ども家庭支援センターや児童相談所などの関係機関と連携し、それぞれの家庭に合った支援を行いました。

・余裕型一時保育・夏季一時保育を実施し、地域の子育て支援に役立てました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・「目指す保育・職員像」の実現に向け、グループ研修に参加するなど、様々な会議の中で意見交換を行い学びを深め、保育の実践につなげました。

・法人研修・キャリアアップ研修・区研修などに計画的に参加し、学びを共有し実践することで保育の質や専門性の向上につなげました。

・業務改善に向けノンコンタクトタイムの推進やAI議事録などを導入し、保育に係る事務や行事の見直しなどに取り組みました。職員とともに働きやすい職場環境を整え、職員の定着に努めました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・各年齢未充足での4月のスタートでしたが、0歳児は10月に、2歳児は1月に充足することができました。

・物価・光熱水費の高騰等を意識し、節電や節水、消耗品の節約に努めました。

・保育材料・教材などの必要なもの以外の諸経費を抑え、経費削減に努めました。

・少人数保育や「遊びながら学べる英語」の実践を園見学などでPRし、園の利用につなげることができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	31	31	32	32	31	33	35	36	36	37	37	37	408
女児	14	15	16	15	16	18	18	19	19	19	19	19	207
合計	45	46	48	47	47	51	53	55	55	56	56	56	615

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	6	9	10	12	4	12	53
R05(2023)年度	6	8	11	7	10	4	46
R06(2024)年度	6	9	12	11	8	10	56

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 同援みどり保育園

定員 125 名

【事業実績】

施設利用率

102.2 %

* 施設入所支援目標利用率 104.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・これまで乳児クラスは待機児童解消のため、定員を弾力して受け入れてきましたが、育休の取得が定着してきたため、0歳児は年度当初は未充足でスタートとなり、年度途中の充足となりました。

・保育グループの理念・方針・目指す保育の実現に向けて、安心して過ごせる生活の場・子どもたちが主体的に活動できる場の創出に取り組みました。乳児クラスは、少人数保育を実施していく中で課題について話し合いを重ね、幼児クラスでは子どもからの発信を大切に保育に取り入れることで、子どもたちが主体的に活動できるように努めました。子ども主体の保育の理解に向けて、今後も職員間で保育について語り合い、日々の実践につなげていきます。

・保育士体験を実施し、園の取組みや子どもたちの様子を理解してもらい、家庭との情報の共有を図りました。

・第三者評価を受審しました。いただいたご意見を参考に職員で話し合い、改善点を次年度につなげていきます。

・安全計画をもとに様々な訓練を実施し、見直し等を行いました。また園児や職員の安全のために事故の検証や保育の振り返りに見守りカメラを活用しました。

◆ 地域社会への取組み

・遊ぼう会や育児講座、職場体験など、地域社会の子育て拠点として活動を行いました。特に卒園児の職場体験やボランティアについては、小学生を中心に柔軟に受け入れました。

・各家庭の背景を考慮し保護者の気持ちを受け止め、各関係機関と情報を共有して保護者支援を行いました。

・次年度はホームページを完成させて、地域に向けた活動に活かしていきます。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・園内外の研修に積極的に参加し、職員のスキルアップ・キャリアアップに努めました。また不適切な保育・虐待防止に向け、オレンジリボン委員会を中心に非常勤職員を含めた園内研修を実施し理解を深めました。

・一人ひとりに合わせた人材育成を行い、安心して働くことのできる職場環境・職場風土を目指し、改善に努めました。しかし年間を通して正規職員が採用できず、定期的なノンコンタクトタイムの取得が難しい点もありました。ICT・DXを推進し、業務改善を積極的に行っていきます。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・今後の施設整備を意識し、園内の整理と片づけを実施しました。現在あるモノを活用し、経費削減へとつなげていきます。

・予定外に、設備の老朽化により給湯器が故障しました。今後の施設整備に向けて修繕は最低限に抑えていますが、処遇に影響するため、新たに購入し設置しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
ホームページ作成	700		
購入等合計	700	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		給湯器	624
購入等合計	0	購入等合計	624
年間合計	700	年間合計	624

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	63	65	66	67	67	67	67	69	68	68	68	68	803
女児	57	59	59	60	62	62	62	62	62	62	62	62	731
合計	120	124	125	127	129	129	129	131	130	130	130	130	1,534

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	12	19	24	25	24	23	127
R05(2023)年度	12	19	24	25	25	24	129
R06(2024)年度	12	19	19	27	27	26	130

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 つつじが丘保育園

定員 110 名

【事業実績】

施設利用率

106.3 %

* 施設入所支援目標利用率 108.1%

◆ 利用者支援サービスの充実

・保育所保育指針に沿った全体的な計画をもとに保育目標の達成に努めました。
・待機児童解消対策として緊急1歳児年度限定保育事業を実施し、地域に貢献するとともに、培ってきた専門知識を活かして保育所の役割を果たしました。
・保育グループの目指す保育に関する取組みについて、保護者へ向けて日々ドキュメンテーション配信や懇談会等で伝え、保護者の保育参加を多く受け入れることで、本園の保育への理解につなげました。
・事業継続計画（BCP）について、昨年度の反省を活かし、具体的かつ変化をつけた訓練を実施しました。
・日頃の保育の実践とSDGsのつながりを食育活動等に取り入れました。

◆ 地域社会への取組み

・見学にきた地域の方に情報を発信し、育児相談などを行いました。ホームページの活用によって、保育園への興味や理解のきっかけとなり、入園や、実習生・ボランティアの受入れにつながりました。
・育児困難家庭への対応や障がい児の積極的な受入れを行うにあたり、昭島市子ども家庭センターや保健センター等の関係機関との連携の強化に努め、専門機関（療育施設や市内通所支援事業所等）につながるケースが増えました。そのため実践力を高める園内外研修を引き続き行いました。
・防災に関する連携も含め、地域の高齢者施設や自治会との関わりが増えました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・研修計画に基づき、様々な研修を受講し、多様なニーズに対応できるよう努めました。その他必要に応じて園内研修を行い、目指す保育について理解を深めました。
・働きやすい職場環境の整備では、ICT化を進め書類の形態や記録の取り方などを検討し業務改善に努めました。重複している書類や業務がないか、少しでも改善できないかを常に考え取り組みました。
・保育について、職員の提案を取り入れ主体的に参画させることで、自分たちで考えて実行する姿勢が身につくよう取り組みました。
・保育以外の業務に取り組める時間（ノンコンタクトタイム）を確保できるようルール化を徹底しました。また業務分担を見直し、保育業務が円滑に進められる体制を整えました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

・安定経営のために、必要なものかどうかを見極めつつ、省エネ対策や経費削減に努めました。
・園児数に応じた適正な職員配置を行いました。
・あらゆるリスクに備え、安全・安心に過ごせる環境を整備する一方で、非常食を無駄にしないよう給食に活用するなど、強いコスト意識を持って取り組みました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
電解水生成装置	1,181	電解水生成装置	1,110
配膳カート	976	非常用倉庫設置工事	532
ノートPC(×3)	551	ノートPC(×3)	551
給水ポンプ修繕工事	719	給水ポンプ修繕工事	719
プレハブ倉庫内改修工事	1,049	プレハブ倉庫内改修工事	1,049
購入等合計	4,476	購入等合計	3,961
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
非常用倉庫設置工事	704	配膳カート	977
購入等合計	704	購入等合計	977
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
門扉引き戸修繕工事	719	門扉引き戸修繕工事	1,216
園舎廊下床面研磨塗装工事	1,948	園舎廊下床面研磨塗装工事	1,948
購入等合計	2,667	購入等合計	3,164
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	7,847	年間合計	8,102

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	70	71	71	71	71	71	72	73	73	73	73	73	862
女児	43	44	44	45	46	45	45	46	46	46	46	46	542
合計	113	115	115	116	117	116	117	119	119	119	119	119	1,404

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	15	20	20	19	23	23	120
R05(2023)年度	16	20	20	20	22	23	121
R06(2024)年度	12	23	20	20	23	21	119

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 同援さくら保育園

定員 110 名

【事業実績】

施設利用率

99.1 %

* 施設入所支援目標利用率 100.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・保育グループが目指す保育の一つとして、子どもの人権や主体性を尊重しました。乳児クラスではさまざまな形で小グループでの保育を実践し、一人ひとりに丁寧に対応することができました。
- ・利用者の安全・安心を守るために、計画的に避難訓練や不審者訓練を行いました。特に9月の引き取り訓練では、BCPを意識した訓練を実施しました。防災会議では、訓練でスムーズにできなかったことを話し合い、改善策を検討し、次の訓練に活かしました。
- ・室内に見守りカメラを設置したことで、保育士の死角で起きた出来事（怪我等）の検証が可能になりました。
- ・保育システムを有効に使い、保護者に向けて子どもたちの日々の写真や動画を配信することで、情報の共有と保育の理解につなげました。
- ・乳児用洗面台を交換して清潔に保てるようにしました。またテラスデッキのメンテナンスを行い安全に過ごせるよう環境を整備しました。
- ・第三者評価受審後の結果を受けて、指摘された部分の処遇改善に努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、地域の方の利用が増えました。園庭開放・育児講座・一時保育等を通して遊びの場を提供しました。また、地域の保護者からの子育てへの不安や悩み関する相談に対応しました。
- ・引き続き障がい児や育児困難家庭への支援を行いました。
- ・年度末にホームページが完成しました。次年度は有効に活用していきます。
- ・本園の施設環境の良さ、特別事業や保育内容の特色をアピールすることで、園の利用につなげることができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・保育グループの目指す職員像の実現に向けて、正規職員全員が園内研修に参加し、保育環境について話し合い、内容を深めることができました。
- ・職員育成計画に基づいた研修に計画通り参加することができました。また、要件に合わせたキャリアアップ研修にも各自積極的に参加しました。
- ・非常勤職員へ向けて園内研修(OJT)を定期的の実施し、業務の標準化を図りました。
- ・働きやすい職場環境を作るために、議事録作成ソフトを導入しました。徐々に職員も使い方に慣れ、生まれた時間を別の事務時間(ノンコンタクトタイム)に活用できるようになりました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・物価が高騰するなか、できる範囲で省エネ対策や経費の削減に努めました。
- ・効率的に働くとともに適切な職員配置を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
園庭門扉交換工事	1,331	共用駐車場縦送りチェーン交換 PC(×4)	600 619
購入等合計	1,331	購入等合計	1,219
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
クロス補修腰板貼り工事 扇風機入替工事	880 458		
購入等合計	1,338	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
幼児洗面台交換工事	6,713	保育室・一時保育室腰パネル張替工事 幼児保育室洗面台更新工事 園庭門扉交換工事	815 3,638 1,351
購入等合計	6,713	購入等合計	5,804
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
幼児便所・病後児保育室洗面台更新工事	2,927	幼児便所・病後児保育室洗面台更新工事 PC付大型モニター ホームページ作成	2,927 1,441 666
購入等合計	2,927	購入等合計	5,034
年間合計	12,309	年間合計	12,057

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	55	54	55	55	55	55	54	54	54	54	54	54	653
女児	53	55	55	55	55	55	55	55	55	54	54	54	655
合計	108	109	110	110	110	110	109	109	109	108	108	108	1,308

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	12	18	19	20	20	19	108
R05(2023)年度	12	18	18	20	20	20	108
R06(2024)年度	12	18	19	20	19	20	108

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 同援はいじま保育園

定員 50 名

【事業実績】

施設利用率

114.2 %

* 施設入所支援目標利用率 116.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・園の定員は50名で園全体の床面積が小さく、特に1歳児・2歳児は定員以上の受入れができないため、目標利用率には届きませんでしたが、安定した運営ができました。
・チーム力の強化に向けて、職員同士がお互いを理解し合うための研修を、主任・副主任が講師となって取り組みました。その結果、コミュニケーションが円滑になり、子どもに対しての人的環境が良いものとなりました。
・保育グループで取り組んでいる「目指す保育」について職員間（非常勤職員も含め）で認識を深め、子ども中心の保育に努めました。また、保護者に保育内容の動画や写真を配信し共有することで、取り組みへの理解が強まるとともに、声をかけてくださる保護者が増え、家庭と一緒に子どもの育ちを支援する一体感が生まれました。
・防犯マニュアル、BCPの見直しを行い、より安全で継続可能な保育環境（体制）を整えられるように努めました。
・安全に保育ができるように、3階保育室の壁を張り替えました。

◆ 地域社会への取り組み

・1・2歳児は定員ぎりぎりの床面積のため一時保育の利用をなかなか受け入れることができませんでしたが、散歩先の公園での育児相談や行事には多くの地域の親子が参加し、保育園を知ってもらう機会となったことで、入園へとつなげることができました。
・行事の際に近隣の方々に挨拶に行ったときなど、家庭にある使用しないものを保育に役立てて欲しいと声をかけていただくことが増え、園が地域に定着してしてきたことを感じることができました。
・ボランティアや職場体験を受け入れ、社会貢献を果たすことができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・一人ひとりに丁寧な保育と環境を提供するために、年に2回、子どもたちの発達支援や発達障害を含めた多様な子どもの発達への理解と支援についての学びの機会を設け、取り組むことができました。その結果、一人ひとりの子どもに対して否定的な言葉をかけることが減り、職員がお互いに学んだことや意見を伝え合える環境が少しずつ整ってきました。
・リーダーを中心に「目指す保育」に対しての園内研修を行い、話し合いを重ねることで、各自の動きや役割・責任の理解が深まりました。
・ノンコンタクトタイムを皆が取れるように表を作って管理し、意識の向上に努めました。さらに意識の浸透が図られるよう、継続して取り組みます。
・キャリアアップ研修に参加しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

節電・節水を心がけ、ムダをなくすように努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
ホール張替工事	630		
購入等合計	630	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		ホール張替工事	630
購入等合計	0	購入等合計	630
年間合計	630	年間合計	630

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	34	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	35	415
女児	24	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	270
合計	58	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	685

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	—	11	12	12	11	13	59
R05(2023)年度	—	11	10	12	13	11	57
R06(2024)年度	—	10	11	11	12	13	57

令和6(2024)年度 事業報告（保育所）

施設名 同援いぐさ保育園

定員 60 名

【事業実績】

施設利用率 80.7 % *施設入所支援目標利用率 75.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・BCP(事業継続計画)・安全計画をもとに訓練を実施し、見直しを行いました。園児数の増加に合わせ、備蓄品や防災品を補充しました。
・保育を進める中で、園児一人ひとりの気持ちを受け止めていくことを大切にしました。特に子どものありのままの姿を受け止められるように、園の目標にも掲げている「遊ぶ」ことについてアンケートを実施し、職員間で話し合いを重ね、当園の保育への思いを深めてきました。継続して当園の保育の確立を目指します。また、保護者の保育への理解が深まるよう、実際に保育に入ってもらえる機会として、保護者参加の保育体験に力を入れました。
・乳児クラス・幼児クラスともに、一人ひとりの興味や関心に合わせた遊びや活動が充実するよう努めました。従来のやり方にとらわれずに、当園らしさを活かした無理のない内容で取り組みました。
・延長保育の利用が年度後半から増加し、保護者の就労支援につながりました。
・第三者評価の保護者の声に応え、一番意見の多かった防犯対策に速やかに対応しました。

◆ 地域社会への取り組み

・地域の様々な施設や組織と連携を取り、小学校や他園との交流を行いました。
・園周辺にポスターを掲示し冊子を配布するなど地域とつながりを持ち、LINEの公式アカウントから情報発信を行いました。今後はホームページも有効に活用します。
・保育所体験や育児講座等を実施しました。保護者同士の憩いの場にもなり、地域の未就園児の育児相談や入園にもつながりました。
・地域と関わり、災害時に助け合えるよう地域の催し物にも積極的に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・外部研修への参加があまりできませんでした。園内研修では「目指す保育・職員像」の実現に向けて、「園として大切にしていくこと」を繰り返し行い、不適切保育・虐待の防止に関する研修も行いました。合わせて職員の自己チェックや振り返りの時間を設けています。職員間のコミュニケーションの促進のために、非常勤職員も交え、意見交換や情報と意識の共有を図りました。
・AI議事録を導入し、業務省力化を進めました。ノンコンタクトタイムの導入も定着し始め、事務作業や保育の振り返りをする時間を確保するために、職員間で協力して取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

・年度途中の入園もありましたが、年度末に転居による転園等があり稼働率は微増でした。今後の園児獲得に向けてホームページをさらに活用していきます。
・物価高騰対策・安全対策補助金を活用しました。
・物品を購入する際は必要性を見極めながら慎重に検討し、節約や節電を心掛けました。保育材料や備品の補充も行いましたが、「使う責任」が持てるよう意識しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
屋上遮光ネット(オーニング)	1,980	屋上遮光ネット(オーニング)	117
購入等合計	1,980	購入等合計	117
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	1,980	年間合計	117

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	27	27	27	26	26	26	26	25	25	25	25	25	310
女児	18	20	22	22	23	23	24	24	24	24	24	23	271
合計	45	47	49	48	49	49	50	49	49	49	49	48	581

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R04(2022)年度	—	12	10	3	3	1	29
R05(2023)年度	—	13	12	9	3	4	41
R06(2024)年度	—	12	13	12	8	3	48

2. 高齢者支援系施設の経営

救護施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、その他事業（認知症対応型共同生活介護、通所介護、地域包括支援センター、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護施設、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、サービス付き高齢者向け住宅）を経営しました。なお、建物の老朽化、措置入所の減少により、年度末をもって養護老人ホーム「万世敬老園」を閉園しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の人権に配慮しながら、個々の有する能力に応じた生活を提案し、介護及び支援に取り組みましたが、グループホームかえでにおいて介護職員による身体拘束・身体的暴行の事案が発生してしまいました。昭島市に報告、警察へ通報し、利用者本人と家族への謝罪とともに、その他の利用者とその家族に説明しました。グループ内でも情報共有し再発防止に向けて取り組みながら、職員派遣を実施し事業所の再建に努めました。
- ・利用者の生活環境改善のため、物品購入や施設整備、修繕を行い、快適な生活空間づくりに努めました。
- ・感染症のクラスター発生時には、グループの協力体制のもと、利用者サービスの維持と感染症対応に努めました。
- ・利用者の安全・安心を守るため、防災マニュアル、災害時における事業継続計画（BCP）の随時見直しを行い、防災訓練や地域防災に活かしました。
- ・DX及びICT機器の活用を推進し、生産性向上と支援の充実に取り組みしました。

◆ 地域社会への取組み

- ・各事業所が自治体や地域と協力しながら、介護が必要となっても地域で暮らし続けられるよう、介護・医療・福祉の連携を図りました。
- ・感染症対策を講じながら、各地域においてイベント等を開催しました。（さくらガーデン・原町ホーム・原町高齢者複合施設での認知症カフェ、フードパントリー等）
- ・昭和郷においては、今年度も本会の児童女性グループの事業をサポートし、同援こども学習室「ラ・スク」の活動に協力しました。
- ・各地区において、社協等の関係機関と協力し地域貢献活動に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・業務改善、職場環境の見直しを進め、全施設で1日8時間勤務・公休120日を実施しました。
- ・可能な限り実習生を受け入れました。施設・事業所見学についても積極的に受け入れ、人材育成や福祉職の理解につながるよう働きかけました。
- ・法人研修のほか、高齢グループ研修を企画し、フレッシュマン研修にて高齢者体験、虐待予防、中堅研修にて仕事を続けるモチベーションについて学びました。
- ・ミライ委員会では年間を通じて講師を招き、組織開発、マネジメントについて学びました。
- ・介護職員初任者研修を実施し、法人職員6人が修了しました。
- ・特定技能制度等を活用し、外国人人材の積極的な雇用につなげ、国際的な福祉人材の育成に貢献しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・毎月のグループ会で随時財務状況を確認し、稼働率向上のために取り組みましたが、感染症の影響や諸々のコスト増加により、高齢系グループとして厳しい事業経営となりました。
- ・グループ全体で業務改善や作業効率化等の生産性向上に多角的に取り組み、安全・安心の運営及び健全経営を目指しました。

1 救護施設

身体や精神に障害があり、経済的理由も含めて居宅で日常生活を送るのが困難な人たちが健康に安心して生活できるよう、生活扶助、医療扶助を行いました。

2 養護老人ホーム

65歳以上であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅において継続的な日常生活が困難な方を養護しました。 ※令和7年3月31日をもって事業廃止

3 軽費老人ホーム

60歳以上で生活費に充てることのできる収入が定められた基準以下で、身寄りのない、あるいは家庭の事情によって家族との同居が困難な方に利用契約により無料又は低額な料金で、日常生活上必要な便宜を供与しました。

4 特別養護老人ホーム

65歳以上であって、身体上又は精神上著しい障害があるため常時介護を必要とし居宅において継続的な日常生活を営むのが困難な方を養護しました。

5 認知症対応型共同生活介護

65歳以上であって、認知症であるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、共同生活する住居で入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の援助を行いました。

6 老人デイサービスセンター

65歳以上であって、日常生活を営むのに支障がある方に、通所により入浴・食事の提供・機能訓練等各種のサービスを提供し、生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上並びにご家族の身体的・精神的な負担の軽減を図りました。

7 地域包括支援センター

地元区市からの委託により、高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らせるように、介護、福祉、健康、医療など様々な面から総合的な支援を行いました。

8 居宅介護支援事業所

介護を必要とする方が、自宅で適切にサービスを利用できるように、ケアマネージャー（介護支援専門員）が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプラン（居宅サービス計画）を作成したり、ケアプランに位置づけたサービスを提供する事業所等との連絡・調整などを行いました。その他の介護に関する専門的な相談に応じました。

9 小規模多機能型居宅介護事業

65歳以上で、身体上または精神上の障害があるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、自宅において、またはこのサービスの拠点へ通い、もしくは短期間宿泊することにより、居宅介護及び機能訓練等を提供しました。

10 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、定期的な巡回や随時通報への対応など、心身の状況に応じて、24時間365日必要なサービスを必要なタイミングで柔軟に提供しました。
サービスの提供にあたっては、訪問介護員だけでなく看護師などと連携しているため、介護と看護の一体的なサービスを提供しました。

11 サービス付き高齢者向け住宅

「高齢者住まい法（厚生労働省・国土交通省所管）」に基づく高齢者にふさわしいバリアフリー構造等の住まいを、安心して暮らせる見守りサービス（安否確認、生活相談等）を備えた賃貸住宅として提供しました。

令和6(2024)年度 事業報告(救護施設)

施設名 昭島荘

定員 100 名

【事業実績】

施設利用率	101.9	%	* 目標利用率 100.0%	
男女比率	1:1			
平均年齢	67.1	歳	(最高 95 歳	／ 最低 30 歳)
平均在所期間	12.4	年	(最長 65.6 年)	
手帳保持者	95	名	(愛の手帳:14名、身障手帳:12名、精神障害保健福祉手帳:76名、重複:11名)	
年間入所	3	名		
年間退所	4	名		
主な入所理由	在宅生活が困難になった方、退院後の在宅生活が難しい方			
主な退所理由	死亡、長期入院など			

◆利用者支援サービスの充実

・10月から個別支援計画の作成が法的に義務化され、各利用者の誕生月を基準に、アセスメント、計画作成、モニタリング、振り返りを順次実施しました。こうしたサイクルを続けていくことで、利用者との信頼感も今まで以上に育むことができました。

・昭和郷内の施設との交流や、地域から講師を招いたクラブ活動(華道や俳句の会等)などを実施し、利用者の活動の場を多く持つことができました。

・新型コロナウイルス感染症については、5類になって以降、館内の消毒、手洗い、マスク着用等の感染症対策を継続しつつも、利用者の活動(外出や行事)に対して制限をなくして対応する中で、年明けにクラスターが発生してしまいましたが、職員が一丸となって3週間で収束させることができました。

◆地域社会への取組み

・東京都社会福祉協議会救護部会の職員研修や利用者間の交流会(俳句会、レクリエーション)に参加しました。また、昭和郷各施設との交流やバザー等を通じ、昭島荘を知ってもらう機会を多く持つことができました。

・矯正研修所からの刑務官を主とした方の研修や福祉職員養成校からの学生実習などを積極的に受け入れました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・会議体の再編を行い、職員会議を中心に、運営会議・支援会議などに参加する職員や審議する内容などを精査し、決裁手順の見直しを図りました。より簡素にスムーズな運営を行うことができました。

・エルダー制度の導入を図り、就職1年～2年の職員を対象に、指導の担当者を配置しました。相談する職員が明確になり、安心して業務に取り組めるという声が聞けました。

◆財務基盤の強化に向けた取組み

・空床になった時点でスムーズに利用者が入所しており、利用率は年間を通じて安定しました。

・東京都のサービス推進費や新たな補助金制度(東京都保護施設物価高緊急対策事業等)の情報を的確に把握し、利用可能な助成金などの取得に努めました。

・設備の修繕についても、計画的に行うことができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
食堂空調機入替	869	食堂空調機入替	820
デジタルひかり電話	597		
購入等合計	1,466	購入等合計	820
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
介護支援システム	6,500	介護支援システム	5,821
網戸・サッシ修理	827	デジタルひかり電話	598
電動ベット(×30)	12,000	電動ベット(×30)	11,737
購入等合計	19,327	購入等合計	18,156
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
1Fトイレ改修	1,020	1Fトイレ改修	1,092
		網戸・サッシ修理	821
		PC×5	1,089
購入等合計	1,020	購入等合計	3,002
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		ナースコール呼び出し通話	614
購入等合計	0	購入等合計	614
年間合計	21,813	年間合計	22,592

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	53	53	53	53	53	52	53	52	51	52	52	51	628
女性	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	576
合計	101	101	101	101	101	100	101	100	99	100	100	99	1,204

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	102			2	1		2	3	94
R05(2023)年度	101			1	2		2	3	93
R06(2024)年度	99				3	1	2	2	91

令和6(2024)年度 事業報告（養護老人ホーム）

施設名	万世敬老園
定員	90 名 (R6年4月1日120名から定員変更)

【事業実績】

施設利用率	40.3	%	* 目標利用率 92.5%
男女比率	0:0		
平均年齢	0.0	歳	(最高 0 歳 / 最低 0 歳)
平均在所期間	0.0	年	(最長 0 年)
年間入所	0	名	
年間退所	73	名	
主な入所理由	新規措置は無し		
主な退所理由	措置替えによる他施設移管、死亡、長期療養入院、介護保険施設入所		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の主体的な生活を尊重する中で、転倒による骨折事故が2件発生してしまいました。
- ・インフルエンザ、新型コロナ、その他の感染症の発症もなく、保育園の見守り隊や、昭和郷内の行事に可能な限り参加できました。
- ・利用者の減少はあるものの感染症や発災のリスクはあるため、防災マニュアル等を見直し、研修を実施しました。
- ・年度末の事業廃止へ向け、まずは利用者が安心して転居できるよう年間を通した転居計画を立案し、ほぼその通りに転居支援ができました。
- ・園内活動やクラブ活動は、可能な人数まで実施し、最後の一人まで無事に支援を遂行することができました。

◆ 地域社会への取り組み

- ・昭和郷第二保育園の園児の見守り隊は、対象利用者が退所する11月まで実施しました。
- ・人数は少なかったですが、昭和郷で開催する合同防災訓練や昭和郷フェスティバルへ参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・年度末の閉園のため、職員が最後まで安心して働けるよう配慮し、また次年度に異動先での働き方に不安がなく意欲的に働けるよう、情報提供や、事前に業務を体験できる機会をつくりました。また合わせて、年度途中での非常勤職員の異動も実施しました。
- ・職員1名が本会主催の介護職員初任者研修に参加し、無事に修了しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

- 事業の廃止に伴い、固定資産物品について、昭和郷内の施設だけでなく、次年度に事業の開始を予定している「リーフぽけっと」へも移管を行いました。また積立金を含む残りの全ての資産が本部へと継承されました。万世敬老園が遺した財産は、今後も本会のために活用されます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	36	34	29	26	23	17	17	15	7	2	2	1	209
女性	37	37	34	33	27	20	18	12	6	6	5	3	238
合計	73	71	63	59	50	37	35	27	13	8	7	4	447

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳						
		～64	～69	～74	～79	～84	～89	90～
R04(2022)年度	108		3	13	25	27	24	16
R05(2023)年度	73		2	9	13	18	18	13
R06(2024)年度	0							

令和6(2024)年度 事業報告 (軽費老人ホーム)

施設名 サンホーム

定員 50 名

【事業実績】

施設利用率	98.8	%	* 目標利用率 100.0%	
男女比率	13:37			
平均年齢	85.9	歳	(最高 98 歳 / 最低 74 歳)	
平均在所期間	6.2	年	(最長 29 年)	
年間入所	8	名		
年間退所	9	名		
主な入所理由	独居不安・住宅及び家族事情			
主な退所理由	自己都合・転居・特養入所・逝去			

◆利用者支援サービスの充実

・年間を通じて21～23名が介護認定を受けました。その他重度者加算対象者は8名、認知症の症状のある方も複数名おり、家族等の協力のもと介護を要する方への支援を行いました。入退所は入所8名、退所9名でした。
 ・年間行事や介護予防活動は計画通りに実行し、好評を得ました。
 ・コロナ禍以前のような食事を伴う行事や外出、また地域でのサークル活動に参加し、生活の潤いや刺激を受ける機会を設けました。
 ・利用者参加の定例会や生活向上委員会、その他アンケートなど利用者の意向を聞く場を数多く設け、その声を生活に反映させるよう取り組みました。

◆地域社会への取り組み

・年3回の雑学交流会の開催、近隣学校との交流、地域との懇談会や合同防災訓練に参加しました。
 ・町内、市内事業所との連絡会での社会資源の共有や情報交換、またフードドライブに参加しました。
 ・小平市からの受託配食事業として小平給食を週5日、年間計188食を提供し、独自配食事業としてのサンホーム給食も週5日、年間計1,746食の提供を行いました。2事業の合計食数は1,934食でした。また、配食弁当の試食会を開催しました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・人事考課・目標管理に基づき、職員一人ひとりの知識の向上を図るため、施設内研修を12回実施し、法人研修を含む施設外の研修に13回参加しました。
 ・法人で開催している介護職員初任者研修事業に講師を派遣し、これからの福祉人材の育成に取り組みました。
 ・毎月の衛生推進委員会にて職場環境を見直し、労働災害、感染症状況について対策を行いました。

◆財務基盤の強化へ向けた取り組み

・年間を通して17名(9名退去、8名入居)が入れ替わる中、入所待機者の減少により稼働率に関しては100%の保持ができませんでした。また、物価高騰、人件費増もあり、サービス活動増減差額がマイナスとなりました。インターネットの入居者紹介サイトへの登録や地域の事業所へ営業に伺うことで、減少する入所待機者の確保に取り組みました。
 ・物価高騰の対応として食材や日用品の変更等、コストの削減に努めました。
 ・東京都に対し、都内の軽費老人ホームで、運営費・処遇改善についての要望書を提出しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
エアコン交換工事(×5)	588	エアコン交換工事(×1)	118
電気温水器交換工事(×4)	599	電気温水器交換工事(×1)	150
		食器消毒保管庫	546
		配食事業用車輛	1,156
購入等合計	1,187	購入等合計	1,970
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
食器消毒保管庫	811	電気温水器交換(×1)	150
		事務所複合機	554
購入等合計	811	購入等合計	704
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
配食事業用車輛	1,437		
購入等合計	1,437	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
エアコン交換工事(×5)	588	エアコン交換工事(×1)	118
電気温水器交換工事(×4)	599	電気温水器交換工事(×1)	156
スチームコンベクションオープン	3,395	スチームコンベクションオープン	3,377
購入等合計	4,582	購入等合計	3,651
年間合計	6,019	年間合計	3,651

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	13	13	13	12	12	12	12	13	13	13	14	14	154
女性	37	36	36	37	37	37	37	37	37	36	36	36	439
合計	50	49	49	49	49	49	49	50	50	49	50	50	593

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳						
		～64	～69	～74	～79	～84	～89	90～
R04(2022)年度	49			2	9	12	14	12
R05(2023)年度	49			1	7	13	16	12
R06(2024)年度	49			3	3	19	10	14

令和6(2024)年度 事業報告（特別養護老人ホーム・短期入所）

施設名 フジホーム

定員 100 名

短期入所専用
空床利用

4 名
6 名

【事業実績】

施設利用率	96.7	%	* 目標利用率 97.1%
特養	96.3	%	
短期入所	108.4	%（空床利用含む）	
男女比率	1:4		
平均年齢	87.8	歳	（最高 104 歳 / 最低 70 歳）
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	3.4	年	（最長 16.2 年）
年間入所	21	名	
年間退所	19	名	
主な入所理由	在宅介護困難なため		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・感染症予防に留意しながら、その有する能力に応じた自己決定に基づく日常生活を営むことができるように介護・支援しました。また、虐待防止を中心とした人権研修を実施しました。
- ・リスクマネジメントの観点から利用者の安全・安心を守るために、感染症予防対策や防災マニュアル、災害時における事業継続計画(BCP)を随時更新しました。
- ・看取り委員会を中心に、各部署、各担当が適切な連携を实践し、尊厳を持った9名の看取り介護を实践しました。
- ・利用者が住みやすく、職員が働きやすい環境づくりのため、エレベーターの制御盤交換工事ははじめとした、必要箇所の修繕や物品の購入を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・短期入所生活介護にて、自治体や地域と協力しながら、介護が必要となっても地域で暮らし続けられるよう介護・医療・福祉を一体で提供するとともに、地域のニーズを把握し、多くの利用者が地域で暮らし続けられるよう、生活援助やリハビリ等の支援をしました。
- ・昭島病院総合支援センター、地域包括支援センターと連携し、短期入所生活介護事業が緊急時や在宅復帰までの調整のための受け入れ先として機能することで、地域に貢献しました。
- ・万世敬老園の利用者の移管先となるなど、地域において可能な限り利用者を受け入れる努力をしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・OJTや研修(eラーニング等)を通してサービスの質の向上と、現任職員のレベルアップ、育成を实践しました。
- ・新たに3名の特定技能実習生を受け入れ、計3か国の国際的な福祉人材の育成に貢献しました。
- ・4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)を中心に、継続して業務の効率化に取り組むことで、120日休日の実現を達成しました。
- ・感染症予防を徹底しながら実習生を受け入れました。
- ・議事録作成ソフト、勤務表作成ソフトを導入することで業務のICT化に取り組み、業務の効率化を図りました。
- ・事故防止の取組みでは、eラーニングの活用、理学療法士からのポジショニング指導を通して意識の向上を図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・目標利用率97.1%に対し、実績は96.7%（特養:96.3%/短期入所:108.4%）と、昨年より0.6%稼働が向上しましたが、目標にはわずかに届きませんでした。
- ・クラスター感染や光熱費、委託費の値上げもあり、厳しい施設経営となりましたが、収支差額はプラスとなりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
ノートPC(×5)	1,100	ノートPC(×5)	958
購入等合計	1,100	購入等合計	958
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
介護用ベッド(×3)	1,440	介護用ベッド(×5)	2,499
エレベーター 制御盤交換工事	21,120	エレベーター更新工事	21,120
車椅子2台	350	車椅子2台	310
購入等合計	22,910	購入等合計	23,929
年間合計	24,010	年間合計	24,887

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	20	19	18	18	20	20	20	20	19	20	18	18	230
女性	77	78	80	81	81	79	80	82	80	80	79	80	957
合計	97	97	98	99	101	99	100	102	99	100	97	98	1,187

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度				3	10	53	33	99
			120	91	227	758	512	1,708
R05(2023)年度				3	10	42	44	99
		6	106	96	327	563	575	1,673
R06(2024)年度				2	11	43	43	99
		19	43	167	309	329	715	1,582

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和6(2024)年度 事業報告（特別養護老人ホーム・短期入所）

施設名 ニューフジホーム

定員 100 名

短期入所専用 4 名
空床利用 6 名

【事業実績】

施設利用率	91.4	%	* 目標利用率 95.8%
特養	90.6	%	
短期入所	112.5	%（空床利用含む）	
男女比率	1:8		
平均年齢	88.0	歳	（最高 104 歳 / 最低 62 歳）
平均要介護度	3.8		
平均在所期間	4.1	年	（最長 15.3 年）
年間入所	30	名	
年間退所	27	名	
主な入所理由	在宅での生活が困難なため		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者への「丁寧な寄り添う介護」の実現のため、個別ニーズに応じた支援に努めました。年々重度化していく利用者に対応した車椅子の選定等の環境整備とともに、インカムを使用した生産性向上への取組みも継続して行いました。
- ・今年度は7月と8月、12月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、年間の入院者も1日当たり7.0名と、前年度より2.5名/日増加しており、稼働率低下の大きな要因となりました。
- ・看取りケアでは、病院と連携しながら家族の協力のもと3名実施することができました。新型コロナウイルス感染症への対応も継続しながら、家族の面会も前年度以上に緩和し、散歩や居室で一緒に過ごす時間を多く提供することができました。
- ・行事についてはフロア合同行事や保育園児との施設内交流の再開、歌やギターの演奏等、新たなボランティアを受け入れ、日々の生活の中で楽しんでいただく機会を多く提供しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、ボランティア活動の拡大を図りました。
- ・入院後のショートステイの受入れや施設入所の相談など、昭島病院との緊密な連携に努めました。
- ・ホームページを適宜更新し、地域への情報発信を行いました。
- ・家族へ毎月ニューフジホームだよりを送付し、情報提供に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・人材活用として子育て世代の女性の雇用に努め、育休明けの職員をはじめ、出産・育児で離職することなく働き続けることのできる環境整備に施設全体で継続して取り組み、成果を上げています。
- ・職場のOJT体制を整備し、新人職員には継続してチューターを付けると共に、施設内で産業医による面談の機会を設けるなど相談しやすい体制を整え、職員の育成に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症によるクラスターが3度発生しましたが、職員が少しでも安心して働けるようチームワークを大切にしながら感染予防に努め、離職者なく収束させることができました。
- ・震災を想定したBCP訓練を実施し、災害に向けた体制強化に努めました。
- ・インカムの購入や外部の生産性向上研修への参加などを通して業務のICT化と効率化に取り組みしました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・人件費を抑制しながら、非常勤職員などスポットで補える職員を積極的に活用し、稼働率向上に努めました。しかし、入院者が昨年に比べ2.5名多い7.0名となったことで、目標稼働率を大きく割り込み、91.4%という結果となりました。来年度に向け大きな課題を残しました。
- ・ショートステイの空床利用に努め、1・2階とも積極的に受け入れました。ショートステイから特養への入所の流れも継続して進めていたものの、3度のクラスター等の影響もあり、稼働率としては昨年比27%減の112.5%となりました。
- ・消耗品・日用品は、必要性を随時見直しながら購入方法を工夫することで経費の削減を図りました。また、節電・節水に努め使用量の大幅な増加は見られなかったものの、依然として物価と光熱水費の高騰で費用が高止まりしています。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
ボイラー交換工事	7,500		
購入等合計	7,500	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	7,500	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	12	11	11	11	11	12	11	10	11	12	12	12	136
女性	86	85	86	86	86	85	87	87	86	85	87	86	1,032
合計	98	96	97	97	97	97	98	97	97	97	99	98	1,168

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度			2	2	20	43	28	95
			176	130	624	606	260	1,796
R05(2023)年度			2	5	29	33	31	100
			97	364	822	498	260	2,041
R06(2024)年度			2	5	30	37	24	98
	4	64	161	159	535	576	143	1,642

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和6(2024)年度 事業報告（特別養護老人ホーム・短期入所）

施設名	原町ホーム		
定員	50	名	
		短期入所専用	2
		空床利用	4
			名

【事業実績】

施設利用率	94.5	%	* 目標利用率 96.4%
特養	94.1	%	
短期入所	105.6	%（空床利用含む）	
男女比率	1:5.5		
平均年齢	89.0	歳	（最高 99 歳 / 最低 67 歳）
平均要介護度	4.0		
平均在所期間	2.8	年	（最長 11 年）
年間入所	20	名	
年間退所	16	名	
主な入所理由	自宅での生活が困難になったため		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

・「やさしさを起点とした介護」を実践し、個々の利用者の状態に応じて自立への意欲を引き出し、ケアプランに反映させることでその人らしい生活を支援しました。
 ・認知症緩和療法（ハプティックセラピー）を通して、癒しのひと時を感じていただける生活を提供しました。特に看取り期の利用者への支援として、最期の時まで心地よく過ごせるよう努めました。
 ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、空調設備交換工事並びに無線LAN工事に影響し工事の多くが次年度に持ち越されました。
 ・新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行したことを受け、少しずつ面会の方法や回数を広げ、家族との交流の機会を増やしました。

◆ 地域社会への取組み

・新宿区高齢者支援課や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等と連携し、地域ニーズに対応し困難事例・緊急短期入所等に努めました。
 ・福祉避難所協定施設として、地域住民や近隣町会といった地域との連絡会に参加する等、連携を図りました。
 ・地域との交流事業については新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制限がありましたが、新宿区社会福祉施設連絡会によるフードパントリーなどの地域の活動に積極的に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・業務改善、職場環境の整備に取組み、1日8時間、公休120日を実現しました。
 ・コンプライアンスを核とした運営、利用者サービスの向上を目指し、各種研修、OJTを通して人材育成を行いました。
 ・感染症予防に対する環境整備として、消毒剤や不織布マスク、グローブ等の必要な衛生物品の確保と職員の動線に配慮した消毒剤の設置等を行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも安定した稼働を維持できるよう、各セクションの連携強化を行い稼働の向上に努めました。
 ・クラスター発生による稼働率の低下、光熱水費等の上昇により厳しい施設経営となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
		食器洗浄機	902
購入等合計	0	購入等合計	902
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
全館空調設備交換工事(特養) 無線LAN工事	20,071 3,633	全館空調設備交換工事(特養)	5,525
購入等合計	23,704	購入等合計	5,525
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
PC(×10)	1,518		
購入等合計	1,518	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		PC(×6)	959
購入等合計	0	購入等合計	959
年間合計	25,222	年間合計	7,386

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	8	8	7	8	8	8	8	8	9	9	9	7	97
女性	37	35	36	40	41	42	42	40	40	40	41	42	476
合計	45	43	43	48	49	50	50	48	49	49	50	49	573

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度					4	26	15	45
			99	37	331	192	477	1,136
R05(2023)年度					6	19	20	45
		10	4	35	444	97	359	949
R06(2024)年度				2	13	17	17	49
			36	136	275	48	276	771

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和6(2024)年度 事業報告（特別養護老人ホーム・短期入所）

施設名 ゆたか苑

定員 50 名

短期入所専用
空床利用

4 名
4 名

【事業実績】

施設利用率	94.6	%	* 目標利用率 97.0%
特養	97.2	%	
短期入所	61.4	%（空床利用含む）	
男女比率	1:7.3		
平均年齢	86.6	歳	（最高 102 歳 / 最低 64 歳）
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	3.0	年	（最長 16.8 年）
年間入所	14	名	
年間退所	9	名	
主な入所理由	在宅での介護困難、虐待等（措置入所）		
主な退所理由	死去、長期入院等		

◆ 利用者支援サービスの充実

・「虐待の目アンケート」を定期的実施し、虐待防止、接遇向上の取組みや業務改善にて職員の心理的負担の軽減につなげました。
 ・感染症対策による制限を段階的に緩和し、近隣外出、一時帰宅を行うなど面会方法の改善を図りました。また、夏まつり、敬老会への家族参加、家族会の再開等、利用者・家族の心情に寄り添いました。
 ・年々、医療的ニーズの高い利用者の受入れが重視される中で、経管栄養・バルーンカテーテルを使用する利用者の受入れについて、主治医や協力医療機関の協力を仰ぎ、実施しました。
 ・補助金を活用して生体センサー（呼吸・心拍数）の見守り機器を導入し、利用者の健康管理ならびに緊急時の迅速な対応に備えました。

◆ 地域社会への取組み

・地域交流事業（体操・栄養教室）は、家族懇談会をはじめ、小規模ながら近隣住民向けに実施しました。
 ・近隣施設、町会との防災応援協定に基づき、炊き出し訓練やAED操作訓練等を実施、町会主催の防災訓練には職員を派遣して車いすレクチャーを行うなど「顔の見える関係性」の構築に努めました。
 ・今年度も施設設備の有効活用として東京都モデル事業「豊島区短期集中予防サービス強化支援事業」に会場提供を行い、社会福祉法人としての使命を果たしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員の介護技術向上を目標に時間的制約の観点からオンライン研修を中心に実施しました。また、自治体の資格取得支援事業を活用する等、受験資格保持者の国家試験受験を後押ししました。
 ・職員がやりがいと希望を持ち続けられるよう、本人との面談を通じて計画的な研修参加を促しスキルアップを図り、人材育成に努めました。今後も働きやすい職場環境の醸成に努めます。
 ・「東京ジョブステーション」（生活困窮者支援事業）の職場体験実習を受け入れ、職員採用につなました。
 ・今後の社会福祉を取り巻く環境を見極め、社会福祉実習生の育成を引続き行うとともに、「特定技能実習生」を採用し、グローバル人材の確保に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・費用対効果を見据えた計画に沿って、老朽化した施設設備の改修を進めました。非常放送設備更新工事を実施し、合わせて豊島区補助金を活用してソーラーパネル付帯の蓄電池を導入しました。
 ・職員個々の水道光熱費等のコスト意識の醸成や、消耗品を厳選するなど経費削減に努めました。
 ・介護報酬の改定を受け、情報収集や体制整備に努め、新規加算取得に向けた準備を行いました。
 ・目標稼働率の達成に向け「速やかな入所」に努めましたが、度々の感染症の流行により入所調整がままならず、目標稼働率には至りませんでした。次年度も特養、短期の情報共有を図り、セーフティネットとしての使命を果たすとともにベッドコントロールによる安定稼働を目指します。
 ・区と協働して豊島区特養入所待機者システムの見直しに取組み、稼働率の改善に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
		洗濯機ベアリング修理	687
購入等合計	0	購入等合計	687
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
非常放送設備更新工事	1,705	防災蓄電池(×2)	1,243
購入等合計	1,705	購入等合計	1,243
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
		体動センサ(×12)、センサ用PC(×2)	1,214
購入等合計	0	購入等合計	1,214
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		非常放送設備更新工事	2,200
購入等合計	0	購入等合計	2,200
年間合計	1,705	年間合計	5,344

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	6	68
女性	40	40	43	44	44	44	45	45	45	45	44	42	521
合計	45	45	49	50	50	50	51	51	51	50	49	48	589

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度					8	23	17	48
			84	222	319	382	187	1,194
R05(2023)年度					8	21	18	47
	1		231	285	63	189	214	983
R06(2024)年度					7	22	19	48
			38	145	257	79	378	897

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和6(2024)年度 事業報告（特別養護老人ホーム・短期入所）

施設名	ひかり苑		
定員	50	名	
		短期入所専用 空床利用	4 5
			名 名

【事業実績】

施設利用率	97.9	%	* 目標利用率 99.0%
特養	96.7	%	
短期入所	113.2	%（空床利用含む）	
男女比率	1:4		
平均年齢	86.8	歳	（最高 101 歳 / 最低 54 歳）
平均要介護度	3.5		
平均在所期間	2.1	年	（最長 17 年）
年間入所	23	名	
年間退所	24	名	
主な入所理由	在宅生活困難なため、老健や病院・ショートステイ、自宅からの入所		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・常に法人の理念と方針、高齢者支援系グループの方針を遵守し、業務を遂行しました。
- ・利用者の人権を尊重した自己決定に基づくケアプランを立案し、豊かな日常生活を送ることができるよう支援しました。
- ・「親切」「丁寧」「誠実」をモットーに個別サービスを心がけ、安全で安心な「持ち上げない介護」を実践しましたが、接遇や言葉遣いに課題が残っています。
- ・厨房機器の更新等、計画的に施設整備を行いました。利用者に快適な住環境の提供（新規ベッド10台購入）とインカムやタブレット、見守り機器を使用したICTの活用を続けています。建物の老朽化への対策として、空調やエレベーター設備の更新は引き続き慎重に検討します。
- ・感染症への対策を含めたBCPを見直し、新型コロナウイルス感染症対策も継続しながら安全と安心の確保に努めました。
- ・当初は計画していませんでしたが、補助金を利用して、見守りカメラと赤外線センサーを各ベッドと共用部に設置しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・感染症の影響はありましたが、東村山市富士見町福祉施設連絡会と連携し、デイサービスと協力しながら地域の防犯・防災に向けた「富士見町あいさつ運動」や「東村山市フードドライブ事業」を実施しました。また富士見町地域の総合防災訓練のホスト施設として訓練を実施しました。
- ・東村山市福祉避難所連絡会に参加し、東村山市と連携を続け福祉避難所としての役割を果たせるよう取り組みました。
- ・地域包括ケアシステムの構築と定着へ向けて、やむを得ない措置入所者計3名の受入れや認知デイ・短期入所などの包括的利用など、地域の中で必要とされる事業所としての役割を果たしました。
- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、市役所と連携し、緊急性や必要性の高い短期入所を受け入れました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員が安心して働ける環境づくり（年間休日120日）に取り組み、課題は残るものの一定の離職防止と定着につなげました。
- ・職場体験学習は感染症対策によりやむなく中止しましたが、矯正研修所等から昨年より多くの実習を受け入れました。
- ・法人内外の研修については計画的に参加することにより、サービスの質の向上と職員のスキルアップを図り、福祉人材の育成に努めました。
- ・情報共有ツールの活用や、人事考課面接(期初・期末)等を実施し、職員とのコミュニケーションを深めました。
- ・ホームページを刷新し随時更新しながら広報活動を進め、人材確保に努めました。議事録作成ソフトの導入により記録業務の負担軽減につながりました。
- ・4S活動と労働災害の防止について主に職員会議で周知し、取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・補助金は減少しましたが費用の削減と収益の増に努め、3年連続で収益が費用を上回る結果となりました。
- ・昨年以上の光熱費や物価の高騰、人件費増の影響もあり資金留保ができませんでしたが、経営基盤の安定と事業継続のため、次年度は施設整備等積立金の積立てを行えるように努めます。
- ・健全な経営を行うための正規職員と契約職員、パート職員の適正な配置に努め、一定の成果を得ることができました。
- ・稼働率向上のため、入院者の減少や新規入所者の入所までの期間の短縮、空床のショートステイ利用、積極的な措置受入等に常時取り組みましたが、年間目標稼働率(99%)を達成することができませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
		食器消毒保管庫	598
購入等合計	0	購入等合計	598
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
食器消毒保管庫	810		
見守りカメラ	1,090		
購入等合計	1,900	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
厨房フライヤー	669	PC(×3)	613
PC(×4)	600	厨房フライヤー	576
購入等合計	1,269	購入等合計	1,189
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
見守りカメラ・赤外線センサー	5,896	見守りカメラ・赤外線センサー	5,869
センサー付きベッド(×10)	3,000	センサー付きベッド(×10)	3,000
購入等合計	8,896	購入等合計	8,869
年間合計	12,065	年間合計	10,656

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	12	12	12	12	11	10	12	12	10	11	11	10	135
女性	39	38	36	39	38	39	38	37	41	40	40	40	465
合計	51	50	48	51	49	49	50	49	51	51	51	50	600

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度			1	1	15	22	8	47
			306	219	1,152	131	298	2,106
R05(2023)年度			2	2	17	22	7	50
	7		178	449	1,135	48	42	1,859
R06(2024)年度			3	3	15	20	9	50
		19	94	354	835	323	27	1,652

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和6(2024)年度 事業報告（認知症対応型老人共同生活援助事業）

施設名	グループホームかえで
定員	18 名

【事業実績】

施設利用率	89.6	%	* 目標利用率 97.0%
男女比率	1:6		
平均年齢	88.2	歳	(最高 99 歳 / 最低 80 歳)
平均在所期間	4.2	年	(最長 13 年)
年間入所	6	名	
年間退所	8	名	
主な入所理由	在宅生活継続が困難であるため		
主な退所理由	医療ニーズの増加等		

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の自立した生活を支えるために、グループホームの目的である家事活動をはじめ、散歩などを積極的に取り入れました。さくらカフェ(地域交流事業)には利用者が主体的に参加することができました。

・昭島病院訪問看護ステーション、昭島病院、訪問歯科等医療系サービスと継続して連携し、利用者の健康管理に努めました。

・福祉サービス第三者評価受審を通してサービスの質の向上を図りました。

・運営推進会議では、市役所、地域住民の方と一緒に事業運営について意見交換を行いました。

・本事業所の介護職員による身体拘束・身体的虐待の事案が発生したことから、昭島市に報告し警察へ通報をしました。利用者本人と家族への謝罪とともに、その他の利用者とその家族に説明しました。行政の指導をもとに研修をはじめ、再発防止に向けた取組みを行っています。

◆ 地域社会への取組み

昭和郷複合施設として地域住民向けのさくらカフェを開催し地域交流を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

昨年度から引き続き人材確保が困難な状況の中で、安定した職員体制が整備できませんでした。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

職員体制が整わず利用者の新規受け入れに時間を要してしまったため、目標利用率を達成することができませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	90	93	90	88	62	60	62	60	62	62	56	61	846
女性	438	465	449	438	372	385	431	404	402	411	392	456	5,043
合計	528	558	539	526	434	445	493	464	464	473	448	517	5,889

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度			1	4	8	2	1	16
R05(2023)年度			2	8	6	1	1	18
R06(2024)年度			3	7	5	2		17

令和6(2024)年度 事業報告（認知症対応型老人共同生活援助事業）

施設名	原町グループホーム
定員	18 名

【事業実績】

施設利用率	96.7 %	* 目標利用率 98.5%
男女比率	1:8	
平均年齢	91.0 歳	(最高 101 歳 / 最低 83 歳)
平均在所期間	2.5 年	(最長 6.8 年)
年間入所	6 名	
年間退所	6 名	
主な入所理由	在宅生活が困難になったため	
主な退所理由	介護老人福祉施設入所	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・個々の利用者の有する能力を上手に活用しながら、自立した生活を送ることができるように支援しました。
- ・認知症ケアの一環として、時節にちなんだ行事を実施しました。また新宿のプロサッカーチームとコラボレーションし、ボールを使ったレクリエーションを行うなど、社会資源を活用して生活にバラエティを加えました。
- ・見守り機器の活用により、利用者が安心して生活できる環境をつくりました。
- ・「カフェメモリー（認知症カフェ）」を通して、原町拠点内やボランティアとの交流の場を作りました。
- ・利用者同士の交流の機会のひとつとして、併設の小規模多機能居宅介護センターとともに、新宿区主催の「打ち水大作戦」に参加しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・利用者が地域のさまざまな社会資源に触れる機会のひとつとして、明治大学の学生や地域住民のボランティアを積極的に受け入れました。
- ・「カフェメモリー」や新宿のプロサッカーチーム との交流行事を通して、地域とのつながりの構築に取り組みしました。
- ・透明で開かれた事業運営を遂行するための取組みとして、地域の関係者が参加する運営推進会議で事業所の取組みや福祉サービス第三者評価結果等の報告を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・事業所内の各種会議や日々のミーティング等を通して、チームケアの向上に努めました。
- ・業務の効率化を図り、見守り機器を導入しました。
- ・施設内に研修委員会を設置して、組織的に必要な研修を開催できる環境づくりを行い、職場内研修や勉強会の機会を通して、職員のスキルアップに取り組みしました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・長期入院などがあり、利用率については年度目標の98.5%を達成することができませんでした。
- ・電気・ガス・水道の適切な使用や消耗品の選定など、コスト意識をもって適正な支出に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	30	31	30	31	31	30	47	60	62	62	56	62	532
女性	474	496	480	505	520	474	491	480	496	490	433	479	5,818
合計	504	527	510	536	551	504	538	540	558	552	489	541	6,350

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度			1	7	6	3	1	18
R05(2023)年度			1	5	8	1	3	18
R06(2024)年度			3	3	7	2	2	17

令和6(2024)年度 事業報告（高齢者デイサービスセンター）

施設名 フジ・デイサービスセンター

定員 25 名(1日あたりの定員)

【事業実績】

施設利用率	49.1	%	* 目標利用率 60.0%
男女比率	1:2.9		
平均年齢	85.8	歳	(最高 100 歳 / 最低 62 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・感染症予防に留意しながら事業所の運営に努め、通年でクラスターを発生させることなく営業を継続することができました。
- ・居宅介護支援事業所と情報共有や連携を強化し、利用者満足を最優先にサービスの提供に努めました。
- ・市内に特殊浴槽を設置しているデイサービス事業所がほとんどないため、その強みを活かして利用者のニーズに応えました。
- ・昭島病院の理学療法士や、フィットネスジムのトレーナーなど専門職によるリハビリや体操を取り入れ、利用者のADL向上や機能維持に取り組みました。

◆ 地域社会への取組み

- ・昭島市地域福祉ネットワークの通所部会で開催される対面やオンライン会合に参加することで、他事業所との意見交換を行い、住民の方々の抱える課題やニーズに触れる機会を持つように努めました。
- ・併設している特別養護老人ホームとの協力を軸としてBCPを作成しました。
- ・社会福祉協議会を通じてボランティアを募り、活動の場を提供することで関係性を広げました。
- ・近隣の保育園の子どもたちとボッチャを通じた交流を図り、子どもたちに福祉に触れる機会を提供しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・適正な人員配置と事業経営のバランスを図りながら職場環境を改善し、職員の派遣等を利用することなく運営することができました。
- ・防災訓練の実施や、特養での研修への参加、eラーニングの活用などを通して、サービスの質の向上と職員のレベルアップ、育成に取り組みました。
- ・4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)を中心に、継続して業務の効率化に取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・各事業所回りやホームページの活用など、広報活動に力を入れましたが、利用者数の増加にはつながりませんでした。
- ・相談員の異動により、年度当初十分な集客ができませんでした。その後の営業活動により安定した新規の利用がありましたが、暑い時期、寒い時期のキャンセルが多く、平均利用人数は12.0人/日でした。目標稼働率60.0%でしたが、実績が49.1%と厳しい数字となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	72	77	81	92	81	79	92	91	82	75	80	76	978
女性	257	270	247	249	253	237	247	223	220	202	193	202	2,800
合計	329	347	328	341	334	316	339	314	302	277	273	278	3,778

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス 提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度	介護	37	167	1,201	1,038	410	401	684	3,938
	送迎	74	312	2,402	2,066	850	802	1,368	7,874
	食事	37	156	1,201	1,033	425	401	684	3,937
	入浴		75	730	479	247	283	399	2,213
	機能訓練								0
R05(2023)年度	介護	25	67	975	936	849	652	624	4,128
	送迎	50	134	1,950	1,872	1,698	1,304	1,248	8,256
	食事	25	67	975	936	849	652	624	4,128
	入浴		46	503	424	482	585	424	2,464
	機能訓練								0
R06(2024)年度	介護	11	38	961	910	785	514	559	3,778
	送迎	22	76	1,922	1,820	1,570	1,028	1,118	7,556
	食事	11	38	961	910	785	514	559	3,778
	入浴		38	309	557	486	380	383	2,153
	機能訓練								0

* 送迎、食事、入浴、機能訓練の人員数は介護と重複する / 入浴の人員数は一般浴と機械浴の合計

令和6(2024)年度 事業報告（認知症対応型高齢者デイサービスセンター）

施設名 東大和市ふれあいデイセンターひかり苑

定員 12 名（1日あたりの定員）

【事業実績】

施設利用率	47.7	%	* 目標利用率 55.0%
男女比率	2:3		
平均年齢	86.3	歳	（最高 97 歳 / 最低 72 歳）

◆ 利用者支援サービスの充実

・法人理念と高齢者支援系グループ方針を常に念頭におき業務遂行に努めましたが、稼働率は47.7%に留まりました。
 ・「個別ケア」を重点項目に掲げ、アセスメントに基づいた通所介護計画書を作成し、自立した在宅生活が継続できるよう支援しました。また、イベントや活動等を通し認知症状の緩和ケアを行いました。介護記録の入力においては、PCだけではなくタブレット端末を活用しました。
 ・レクリエーションを通じ、楽しみを持ちながらフレイル予防やADLの維持向上につなげました。また、毎日欠かさず消毒・清掃し、感染症対策の徹底を図りました。
 ・特養と連携しながら、防災や事業継続計画、緊急時・感染症マニュアルを整備しリスクマネジメントを強化しました。

◆ 地域社会への取組み

・東村山市富士見町福祉施設連絡会や富士見町あいさつ運動推進委員会等にオンラインも含め参加し、あいさつ運動ののぼりの掲示を続けるなどの活動をしました。
 ・東村山市通所サービス事業者連絡会に参加し、情報の共有等を行いました。広報用の動画を作成し、地域にアピールしました。
 ・ボランティアの受入れを順次再開しました。活動内容も増え、地域の方々に喜ばれました。
 ・地域密着型認知症対応型デイサービスとしての役割を自覚し、地域の関係機関とのネットワークの活用等を図り、運営推進会議を年2回開催しました。また、新たなイベントとして近隣幼稚園との交流会を実施しました。
 ・3月には東村山市作品展に出展、利用者と見学会を実施することができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多くはありませんが職場内外の研修や会議などを通してサービスマナーの向上やスキルアップに努めました。
 ・会議やミーティング等職員間のコミュニケーションを積極的に図れる場を設け、職員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりを心がけましたが、年間を通して十分な人材を確保することにはつながりませんでした。
 ・職員間で協力して感染症対策を実施しながら、多くの実習生を受け入れることができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・広報誌の作成や空き情報のFAX案内など、新規利用者の獲得のために営業活動を行いました。また、感染症の影響や職員の配置が安定せず、前年度より稼働率は上がったものの目標に掲げた稼働率(55%)は達成することができませんでした。年間の増減差額もやや改善はしたものの大きなマイナスが続いています。
 ・業務改善に取り組み、入浴やイベントを含めた臨時利用の声掛けを強化し一定の成果はありましたが、今後もケアマネジャーや地域包括支援センターとの関係を強化し、時代に即した広報の充実を重点的に進め、営業活動にさらに力を入れていきます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	34	45	41	48	36	38	45	32	29	34	27	24	433
女性	105	107	115	119	126	111	116	112	112	101	91	114	1,329
合計	139	152	156	167	162	149	161	144	141	135	118	138	1,762

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス 提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度	介護		106	364	536	494	283	39	1,822
	送迎		214	808	910	936	680	90	3,638
	食事		107	404	456	468	342	45	1,822
	入浴		107	127	386	192	258	31	1,101
	機能訓練		47	188	255	238	165	24	917
R05(2023)年度	介護		104	330	222	565	290	187	1,698
	送迎		208	660	444	1,130	580	374	3,396
	食事		104	330	222	560	290	187	1,693
	入浴		104	166	106	305	143	178	1,002
	機能訓練		54	165	102	229	119	86	755
R06(2024)年度	介護		103	217	330	675	274	163	1,762
	送迎		103	217	328	672	274	163	1,757
	食事		103	217	330	675	274	163	1,762
	入浴		103	96	146	413	108	143	1,009
	機能訓練								0

* 送迎、食事、入浴、機能訓練の人員数は介護と重複する / 入浴の人員数は一般浴と機械浴の合計

令和6(2024)年度 事業報告（地域包括支援センター）

施設名 新宿区榎町高齢者総合相談センター

【事業実績】

	本人	家族等	関係機関	その他	合計
相談件数	2,954	2,712	4,305	211	10,182

◆ 利用者支援サービスの充実

・地域高齢者へのフレイル予防を行い要介護状態にならないように、自立支援、介護予防等に取り組みました。
・第9期新宿区事業計画に沿って、関係機関、地域関係者等との連携に努め、地域課題等に対する取り組みや支援を行いました。
・家族の介護負担について、必要に応じ、関係機関等と連携して支援を行いました。

◆ 地域社会への取り組み

・社会福祉協議会、区出張所、保健センター等との共催で地域関係者との交流会等を開催し、情報共有、意見交換を行い、地域包括ケアシステムの構築について協議しました。
・区施設主催のイベントや公民館、障害者施設にて介護相談ブースを開設し、地域包括支援センターの周知活動を行いました。
・「介護者に対しての防災教室」を開催し、地域の介護者を支援しました。
・地域交流館等で、認知症サポーター養成講座を開催しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・オンラインによる研修を積極的に受講するための設備を充実させました。
・看護師実習について、感染症対策を講じた上で、積極的に受け入れました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取り組み

経営状況に合わせた予算執行を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度年間延件数)

	相談件数				介護予防プラン作成		
	施設	在宅サービス	介護予防	その他	新予防給付		地域支援事業
					要支援1	要支援2	
R04(2022)年度	178	4,838	75	899	1,461	1,583	210
R05(2023)年度	230	6,391	96	1,331	1,592	1,681	206
R06(2024)年度	352	7,980	103	561	1,710	1,774	174

令和6(2024)年度 事業報告（地域包括支援センター）

施設名 昭島市中部地域包括支援センターあいぽっく

【事業実績】

	本人	家族等	関係機関	その他	合計
相談件数	2,365	981	2,343	0	5,689

◆ 利用者支援サービスの充実

・感染症予防の取組みを引き続き行いました。
・生活機能の低下を予防して要介護の状態にならないように、自立支援の視点を大切にしながら、介護予防のケアマネジメントを行いました。
・市内の他の地域包括支援センターと連携して家族介護者教室を開催するなど、介護者等の支援を行いました。
・昭島市、各包括支援センターと協働し、地域包括ケアシステムの推進に向けて、第8期昭島市介護保険事業計画の地域課題に対する取組みを行い、地域、各関係機関との関係構築に努め、支援を行いました。
・地域の居宅介護支援事業所への委託が年々困難になっていることもあり、予防プランを3人で150件以上担当し、地域の介護サービス利用をサポートしています。

◆ 地域社会への取組み

高齢者を取り巻く活動について、地域包括支援センターの役割として、市民に向けて、下記の通り積極的な情報提供に努めました。
・地域ケア会議において、地域包括3職種（社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師）、地域関係者、介護事業者等が連携し、ネットワークの構築や地域課題の抽出、個別課題の解決等にチームアプローチで取り組み、市全体に共通する課題の解決策を検討して地域ケア幹事会、地域ケア推進会議へつなげ、介護保険推進協議会を通じて第9期昭島市介護保険事業計画への反映に努めました。
・昭島市の見守りネットワークの中心機関として、医療機関やインフォーマルサービス等も含めた地域のネットワークとの連携に取り組みました。
・昭島市生活困窮者支援調整会議にて、各機関における生活困窮に関する相談の現状、課題、対応状況等を共有し、多職種間で連携して生活困窮者を支援しました。
・昭島市認知症支援（認知症サポーター養成講座等）、高齢者疑似体験などの様々な取組みを通じて、地域、学校、企業、法務省矯正研修所等に地域包括支援センターの業務内容を理解してもらい、気軽に相談しやすい地域包括支援センターの運営に努めました。取り組みの継続により包括支援センターが地域に認知され、相談利用数が増えています。
・昭島市地域福祉ネットワークの防災訓練に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・包括的・継続的ケアマネジメントに努め、困難事例を抱えているケアマネジャーの支援、長期継続的なケアマネジメントの支援等を行いました。
・高齢者が地域で自分らしい生活を安心して行えるよう、地域のケアマネジャーや他職種と連携を深めました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

残業を含めた業務改善に取り組みながらサービスとコストを両立していけるよう、バランス感覚を持った経営を心がけました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度年間延件数)

	相談件数				介護予防プラン作成		
	施設	在宅サービス	介護予防	その他	新予防給付		地域支援事業
					要支援1	要支援2	
R04(2022)年度	54	3,076	2,094	640	543	1,026	768
R05(2023)年度	58	2,641	2,115	409	667	1,118	696
R06(2024)年度	35	2,424	1,969	286	565	1,141	651

令和6(2024)年度 事業報告（小規模多機能型居宅介護事業）

施設名 原町小規模多機能居宅介護センター

登録定員 25 名

うち通いサービス 15 名
うち宿泊サービス 5 名

【事業実績】

施設利用率	90.0	%	* 目標利用率 92.0%
男女比率	1:3		
平均要介護度	2.6		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、可能な限り自宅・地域で暮らせるよう多機能型のサービスを最大限活用し在宅生活を支援しました。
- ・独居高齢者の在宅生活継続に向けて、フォーマルサービスだけでなく様々なインフォーマルサービスを本人と一緒に検討し、活用することができました。
- ・利用者交流行事として、月に1回、特養・グループホーム・小規模多機能居宅介護センター共同で「カフェメモリー体操」を開催しました。ボランティアの参加も定着してきました。
- ・月に1回「音楽の日」を設け、ボランティアによるピアノ演奏会を開催しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・運営推進会議は年6回、対面形式で開催し、情報共有と地域ニーズの把握に努めました。
- ・新宿区サッカーチーム「クリアソン新宿」の選手との交流行事を継続的に開催できました。
- ・夏祭り「はらしょう祭」ではボランティアの一芸披露や、保育園児、公園に居合わせた地域住民の参加を得て、幅広い世代にわたり交流を図ることができました。
- ・新宿区の取り組み「打ち水大作戦2024」に参加することができました。
- ・「ジョブキャンプ2024」に初めて参加し、都立高校生に介護現場を知ってもらう機会につながりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・集合型合同研修を毎月計画的に実施できました。
- ・eラーニング研修の定着を促すために研修委員会を設置し、職員全体の能力向上を図りました。
- ・DX推進という視点で介護ソフトを変更するため、業者選定に取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・新規利用者獲得のため近隣の居宅支援事業所宛てにチラシを作成し、FAXによる営業活動を開始しました。
- ・ホームページをリニューアルしたことで行事の様子等を発信できるようになりました。
- ・過去に実績のなかった四谷エリアの利用者の獲得ができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間登録者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	5	5	5	4	4	4	5	5	5	5	6	6	59
女性	17	18	16	18	18	19	18	17	17	18	18	18	212
合計	22	23	21	22	22	23	23	22	22	23	24	24	271

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス 提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度	通い			667	706	844	502	272	2,991
	宿泊			35	99	284	121	81	620
	訪問		55	2,037	431	1,112	112	239	3,986
R05(2023)年度	通い			880	662	850	495	627	3,514
	宿泊			80	136	318	146	350	1,030
	訪問			2,807	135	582	792	497	4,813
R06(2024)年度	通い			657	1,812	637	564	425	4,095
	宿泊			107	300	247	182	206	1,042
	訪問			2,000	1,645	312	601	685	5,243

令和6(2024)年度 事業報告（小規模多機能型居宅介護事業）

施設名 昭和郷小規模多機能居宅介護センター

登録定員 25 名

うち通いサービス 15 名
うち宿泊サービス 9 名

【事業実績】

施設利用率	86.0 %	* 目標利用率 92.0%
男女比率	1:6	
平均要介護度	3.2	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者とともに四季折々の飾り(桜や藤、正月の絵馬など)を作成し、利用者と一体で行事を催しました。
- ・昭和郷を利用する事が家族のレスパイトにつながるよう、細やかに声をかけ家族にも寄り添った支援に努めました。
- ・利用者が独居生活を継続できるよう、本人の力を見極めながら訪問支援に努めました。役所での手続きのための移動支援や見守りの支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・運営推進委員会を利用しサービスの自己評価に取り組み、地域代表や市役所、地域包括支援センターの職員と改めて意見交換を行いました。
- ・家族や本人が地域で安心して過ごす事ができるよう、感染症対策を実施しながら、訪問看護や訪問診療との連携のほか、昔馴染みの診療所への送迎や連携を行いました。
- ・感染症対策を実施しながら地域での買い物や理美容の支援を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・事業所内の研修にて職員個々の目標を織り交ぜながら職員の質の向上に努めました。
- ・通い・訪問・泊まりとどれかに偏ることなく柔軟に支援ができる職員を目指し皆で話し合いました。
- ・今学びたい事、今必要な知識等を現場で話し合い、方法を工夫しながら毎月研修を重ねました。
- ・報告や話し合いの優先順位をよく考え、静観できるものと今すぐに対応すべきのものとを判断できるよう皆で訓練しました。
- ・生産性向上のため業務内容を定期的に見直し、業務過多を減らすべく、働きやすい環境を目指して職員一同話し合いを重ねました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・地域包括支援センターの職員や病院の相談員との面談を設け、新規利用者獲得に努めました。
- ・事業所をPRするチラシを新たに作り直し、居宅支援事業所へ配りました。
- ・一度利用者を紹介いただいた所へは報告や相談を定期的に行い、次につながるように努めました。
- ・節電や、日用品の節約を通してコスト削減に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間登録者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	40
女性	18	17	17	16	17	17	18	20	20	19	20	19	218
合計	22	21	21	20	20	20	21	23	23	22	23	22	258

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス 提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04(2022)年度	通い		12	986	508	691	904	658	3,759
	宿泊			471	101	170	607	505	1,854
	訪問		180	1,458	765	712	369	730	4,214
R05(2023)年度	通い			342	954	449	1,043	1,253	4,041
	宿泊			20	415	334	643	324	1,736
	訪問			530	483	277	1,068	1,871	4,229
R06(2024)年度	通い	34		503	1,003	770	1,114	811	4,235
	宿泊			147	433	110	1,181	208	2,079
	訪問			674	442	290	625	1,820	3,851

令和6(2024)年度 事業報告（定期巡回・随時対応型訪問介護看護等）

施設名 昭和郷訪問介護センター

【事業実績】

事業名	登録者数(3月31日現在)			男女比率	平均要介護度
	一般	さくらガーデン	合計		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	16	3	19	1:3	3.0
夜間対応型訪問介護	4		4	1:1	3.5
訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業		9	9	1:1	1.8/支1.5
自費サービス事業	—	—	—	—	—

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の生活習慣や生活ペースに合わせた支援や方法を検討し、居宅サービス計画を基に、計画作成担当者、サービス担当責任者が計画書を個々に作成し、きめ細かい支援に努めました。利用者の自立につなげるため、能力の見極め、環境の整備、意欲を引き出す等、利用者の生活に寄り添った支援を続けました。

・要支援者の生活を支えるためのパートナーとして、日常より適宜相談及び情報提供を行うことで緊密で良好な関係を保てるように努力しました。

・コロナが第5類となりましたが、訪問時のマスク着用、アルコール消毒実施などは継続し感染症対策を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

・多様な地域のサービス情報を収集し、利用者の相談に対応しました。6か月毎に開催する介護・医療連携推進会議では、地域の方々の在宅生活について情報を共有することができました。

・地域包括支援センター、訪問看護事業所、行政とコミュニケーションを図り、数少ない市内の事業所として、退院などの自宅復帰の支援や、医療機関と連携して自宅でのターミナルケアを行うなど、地域社会へ貢献しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・福祉サービスに従事する者として、全職員が法令遵守の理解と促進を深めるよう研修を行いました。

・在宅介護の専門職としてさらなる資質の向上を目指し、月1回の研修(複合施設合同研修を含む)、他機関での研修に積極的に参加するとともに、空き時間を利用して勉強会を実施しました。

・職員一人ひとりが将来への展望を見通して努力し、介護のやりがいを持てるよう、人事考課を通じて働きかけました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・当初の予想通り介護報酬の引き下げが大きく影響し、サービス提供の量に変化はないものの減収となりました。

・人員の補充ができず、支援体制の不安定さは払拭できませんでしたが、短期利用の需要に応え、収益を生み出したことは、地域の事業所からの評価が高いことによるところが大きいと考えられます。今後も居宅介護支援事業所、ケアマネージャーとの関係が途切れないよう、案内や情報共有に努め、関係の強化に取り組みます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	事業	要介護度別内訳							合計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R04年度 (2022)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			2	6	8	3		19
	夜間対応型訪問介護			1		1	1		3
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	2		2	1		1		6
R05年度 (2023)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			1	7	7	3	2	20
	夜間対応型訪問介護				1	1	2		4
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	1	1	1	1				4
R06年度 (2024)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	(区分変更中1)		1	6	5	3	3	19
	夜間対応型訪問介護				1	1	1	1	4
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	2	2	3	1		1		9

令和6(2024)年度 事業報告（サービス付き高齢者向け住宅）

施設名 さくらガーデン

定員 49 室

【事業実績】

施設利用率	92.5	%	* 目標利用率 96.0%
男女比率	1:3		
平均年齢	86.6	歳	（最高 100 歳 / 最低 63 歳）
平均要介護度	要介護1		
平均入居期間	2.80	年	（最長 7.5 年）
年間入居	16	名	
年間退去	17	名	
主な入所理由	ソフトな見守りの下、自立した生活を送りたい		
主な退所理由	認知症、要介護状態の進行		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら、入居者との交流の機会である「さくら町会」を毎月開催しました。また、毎月「さくら便り」を発行し、事務連絡や、住宅を利用する上での注意事項などを発信しました。
- ・認知症の症状が目立った方の対応として、関係機関と連携したサービス調整や、安心した生活を送っていただくように必要に応じて住み替え支援をしました。
- ・支援が必要な方には、法人内で利用可能なサービスがあるかを検討し、都度調整を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため自粛せざるを得なかった地域貢献事業である「さくらカフェ」を再開し、入居者が多く参加しました。
- ・移動販売車を活用し、入居者の買い物の機会を増やすだけでなく、地域の方にも利用していただくことで、地域との交流の場を提供しました。

◆ 人材の育成と職場環境の整備

- ・サービス付き高齢者向け住宅協会の実施するオンライン研修に積極的に参加する事ができました。
- ・市内の高齢者住宅を視察し、管理者間のつながりを構築することができました。
- ・食事提供者や厨房機器取り扱い業者を交えて厨房スタッフの情報交換を行い、学びの場としました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・市内の病院、介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に限らず、市外にも営業活動を拡大した結果、一時期入居者が100%になるなど成果を上げることができました。
- ・支出額が高いものの中から不要なものを精査し、可能な限り削減しました。
- ・資金収支計算書上、プラスの結果となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月末人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	15	15	14	14	15	16	16	15	16	18	18	18	190
女性	32	32	32	32	30	27	31	29	27	27	28	27	354
合計	47	47	46	46	45	43	47	44	43	45	46	45	544

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	要介護度別内訳							
		自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R04(2022)年度	49	10	6	4	18	7	2	1	1
R05(2023)年度	46	11	6	5	16	5	3		
R06(2024)年度	46	9	7	3	15	5	4	3	0

3. 障害者支援系施設の経営

障害者支援施設、心身障害者福祉ホーム、心身障害者福祉センター、共同生活援助事業並びに特定相談支援事業等を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・虐待防止や身体拘束等の適正化を目指し、指針に基づいた研修を外部講師の協力のもと実施しました。職員一人ひとりの人権意識が向上し、組織全体としての透明性と健全性の確保につながりました。不適切な支援が起きた場合は、迅速な状況確認と本人及家族、関係機関への報告と謝罪を行い、原因究明と再発防止に向けた改善策に取り組みました。

・利用者一人ひとりの意思決定が尊重された暮らしができるように、家族や相談事業所との連携を強化しながら、個別支援計画に基づいた質の高いサービスの提供に尽力しました。利用者それぞれの希望や個性等に十分に考慮し、一人ひとりの自己表現の場となるよう支援の工夫に努めました。

・障害者支援施設において、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生しましたが、関係機関との協力体制のもと、本会その他グループからの備品の融通や障害系グループ全体での応援職員の派遣を通じて、感染症の早期収束へ向けて鋭意努力しました。通所施設でも利用者や職員の感染事例はありましたが、家族や関係機関と情報を共有しながら感染拡大の防止と事業継続に努めました。

・感染症対策や自然災害等への対応力を強化するために、マニュアルの見直し及び想定訓練を実施し、災害時に即応できる体制(事業継続)の強化に努めました。

・杉並区の、都有地を活用した障害福祉サービス事業所の竣工に合わせ、名称を「リーフぽけっと」(本体及び生活介護、グループホームと短期入所事業は「リーフベース」)と決定し、3月に無事開所式を行いました。本事業所は、令和7年4月1日より、杉並区や地域住民、関係者の協力のもと、利用者の幸せを最優先に考え、地域に根ざした必要不可欠な事業所となるよう取り組んでいきます。

◆ 地域社会への取組み

・コロナ禍で希薄となった地域とのつながりを回復し、新たな関係性を築くために、地域のニーズを探りつつ、各事業所の特性や機能を生かした講演などを開催しました。また、自立支援協議会や福祉連絡会などに参画し、地域の課題の把握とその解決に向けて協働しました。

・地域の皆さんが安心して楽しめるよう、地域の状況や季節、開催時間、イベントの規模などに十分に考慮しながら、施設と地域が交流できるお祭りを開催しました。また、障害者に対する理解を深め、合理的配慮を推進するための活動を積極的に行い、地域に根付いた施設を目指しました。

・地域貢献を目的として、市区および社会福祉協議会などの活動に協賛しながら、中間就労の受入れやフードドライブ、涼みどころの提供を行いました。また持続可能な開発目標(SDGs)の達成(食品ロスなど)にもつながるよう、地域のニーズに応えられる活動に取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・管理職候補者研修やリーダーの育成のための研修(施設間交流研修など)を実施し、職員の能力の向上を図りました。また、各職員のキャリアステージに合わせた研修プログラムに参加することで、計画的な人材育成を進めました。

・OJTを中心に、リモート研修を積極的に活用し、福祉従事者としての専門知識やスキルの習得に努めました。また、使命感や責任感、そしてやりがいを育む環境づくりに力を注ぎ、職員が自らの仕事に誇りを持ち、より良い職場環境を築くため、職場風土の醸成に努めました。

・グループホーム利用者の生活がより豊かなものとなるよう、世話人研修への参加を通じてスタッフの資質の向上に努めました。特に利用者の尊厳を守り生きやすい環境づくりを進めるために、スタッフ間の交流を深め、倫理意識の向上や、働きやすい関係、環境となるよう取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・令和6年度の報酬改定により、これまで以上に加算要件が複雑化し、重度の障害のある方や医療ケアの方に重きを置いた改正となりました。新たな加算の申請や見直し等を実施し、さらに安定的な報酬額が得られるよう、新たな利用者の確保に取り組みしました。

・労働環境の改善や最低賃金の引上げ等により人件費が増加し、さらに物価高騰による光熱水費をはじめとした様々な経費の上昇により、厳しい経営状況となりました。これに対し、コスト削減など無駄をなくし、経営の安定化に努めました。

1 障害者支援施設

障害者総合支援法の多機能型施設として障害のある方への施設入所支援・生活介護(旧法:更生)・就労移行支援・就労継続支援B(旧法:授産)・短期入所事業を行いました。

2 心身障害者福祉ホーム

豊島区内の心身障害者で特定の要件を満たす方へ、日常生活における援助等を行い自立生活を助長しました。また、併せて緊急一時保護も行いました。

3 心身障害者福祉センター

東久留米市内の居宅で生活している15歳以上の心身障害者の方が、住みなれた地域社会の中で安心して生活が送れるように各種サービスを提供し、自立助長及び介護にあたる家族の福祉向上を図りました。

4 共同生活援助(グループホーム)

障害のある方に対して、主に夜間において、共同生活を営む住居で相談、入浴、排せつまたは食事の介護、その他の日常生活上の援助を行いました。

5 特定相談支援事業

障害のある方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)を行いました。自立した生活を支え、障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けたケアマネジメントを行い、きめ細かく支援しました。

令和6(2024)年度 事業報告（障害者支援施設）

施設名	さやま園		
定員	96	名	
	短期入所専用	4	名
	施設入所支援	96	名
	特定相談支援事業	—	名

【事業実績】

施設利用率

施設入所支援	92.9	%	* 施設入所支援目標利用率 96.8%
生活介護	94.2	%	
小計	93.5	%	
短期入所	14.6	%	
特定相談支援事業	164	名（年間延利用者数）	

平均障害程度区分

施設入所支援	5.32
生活介護	5.32

平均年齢 55.0 歳 （最高 80 歳 / 最低 27 歳）

平均在所期間 20.2 年 （最長 60.6 年）

年間入所	5	名
年間退所	6	名

主な入所理由	家庭で支援困難
主な退所理由	療養型病院移行 死亡

◆ 利用者支援サービスの充実

・今年度も2度の新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、利用者の日課や行事に影響が出ることとなりました。その都度対応策を模索しながら乗り切ることができました。

・感染症対策をしつつも、できる限り生活が豊かなものとなるように、近隣の買い物、外食や昼食のデリバリーの利用などを行いました。また、行事は2部制やグループごとに主催し、行事数を増やして楽しんでもらえるよう工夫しました。さやま園60周年イベントも開催しました。

・高齢化、重度化への対策として、引き続き全利用者を対象にリハビリテーションを行いました。さらに利用者が安全に介護を受けられるように、また職員も安全に介護できるように、介護器具の導入を検討しました。利用者の高齢化とともに高齢施設等への移行に向けて家族や行政と話し合い、また家族状況に合わせて後見人制度の活用を促すなど、それぞれのケースに応じた支援に取り組めました。

・地域移行への取組みについては、グループホーム担当者による研修を実施し知識の習得を図り、今年度1名の利用者をグループホームに移行しました。

・災害対策として、地震、火災への訓練（グループ毎による部分訓練）を多く取り入れ、利用者の災害意識も高まるよう実施しました。また専門家の意見を取り入れ、有事に即した対応ができるようBCPを見直しました。

◆ 地域社会への取組み

・感染症対策のため、近隣の施設等での作品販売、ワークショップ等は中止しています。近隣地域のレストラン等への外食を実施するなど、できる範囲で地域との交流やふれあいの機会を作りました。

・社会貢献事業として、東村山市を通じて、中間就労者に対し、日中活動の補助など体験的に働く場の提供を継続して呼びかけましたが、該当者がいない状況です。

・広報誌の冊子を読みやすいサイズにして、地域の施設等に配布しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員一人ひとりの意識とスキルの向上（人材育成）を目指し、組織全体の底上げを図るため、新人研修やサブリーダー研修などの階層別研修を実施しました。また、虐待防止研修やグループワーク、ケースカンファレンス、事例検討会等多くの職員が参加できるように工夫し、定期的に実施しました。

・コロナ禍前に実施していた他施設体験研修を少しずつ再開しました。障害グループで調整しながら法人内の体験研修を定期的に行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・予算計画に基づき、適宜確認を行いながら、適切に予算を執行しました。

・療養型病院への移行や入院が増え、また今年度男性の利用者を段階的に増やしたため一時的に欠員が増えたことから、前年度と比較して大幅に稼働率が下がる結果となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
中庭修繕工事	1,672	デスクトップPC(×2)	378
見守りカメラ増設	980	BCPサポート作成	528
BCPサポート作成	528	自火報受信機修繕	755
配膳棚・温蔵庫	1,339		
自火報受信機修繕	755		
南棟配膳シャッター	517		
購入等合計	5,791	購入等合計	1,661
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
南棟污水ポンプ改修工事	4,813	見守りカメラ増設	979
本棟2F汚物処理場改修	800	中庭修繕工事	1,584
盛付台・調味料棚	783		
購入等合計	6,396	購入等合計	2,563
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
南棟エアコン交換工事	1,760	盛付台・調味料棚	729
PC(×16)	4,831	南棟エアコン交換工事	1,777
		配膳棚・温蔵庫	1,284
		本棟2F汚物処理場改修	814
		南棟配膳シャッター	589
購入等合計	6,591	購入等合計	5,193
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		南棟污水ポンプ改修工事	4,939
		デスクトップPCほか(×15)	3,529
購入等合計	0	購入等合計	8,468
年間合計	18,778	年間合計	17,885

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 施設入所支援のみ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	29	316
女性	68	68	67	66	65	65	64	64	64	64	64	65	784
合計	94	94	93	92	91	91	90	90	90	90	91	94	1,100

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 施設入所支援のみ

	実人員	年齢別内訳								
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	55～
R04(2022)年度	95			5	8	5	7	13	9	48
R05(2023)年度	93			5	5	8	5	10	11	49
R06(2024)年度	93			1	9	7	6	7	18	45

令和6(2024)年度 事業報告（障害福祉サービス事業）

施設名	小茂根福祉園		
定員	生活介護	40	名（通所）
	就労継続支援B	30	名（通所）
	計	70	名

【事業実績】

施設利用率			
生活介護	76.4	%	* 目標利用率 78.0%
就労継続支援B	70.2	%	
計	73.8	%	
平均障害程度区分	4.5		
平均年齢	39.5	歳	（最高 73 歳 / 最低 19 歳）
平均通所期間	18.0	年	（最長 42 年）
年間入所	1	名	
年間退所	2	名	
主な入所理由	特別支援学校卒業		
主な退所理由	死亡、施設入所		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・個別支援計画に基づき、利用者の意思決定を尊重した支援を行いました。自立した生活（ひとり暮らし）をするため関係機関と連携し「その人らしい普通の暮らし」の実現に取り組みました。
- ・自主生産品、アート活動、コーヒー販売などの様々な取り組みを工夫し、カフェの充実や新商品の開発など利用者の活躍の場を広げながら、工賃アップにも取り組みました。
- ・感染症防止対策を徹底し、安全で安心できる環境を整えました。
- ・事業継続計画（BCP）に関して、災害時に即応できる防災対策、防犯体制の充実、感染症対策の強化に取り組みしました。

◆ 地域社会への取組み

- ・近隣施設や関係機関、各種団体企業と交流を深めながら、情報発信や地域共生社会の実現に向けて協働しました。
- ・InstagramなどのSNSのアカウントを開設し、積極的に情報を発信しました。
- ・ボランティアを積極的に受け入れ、地域の方々に施設への理解を深めていただくとともに、地域に貢献できるように取り組みました。
- ・株式会社無印良品（板橋南町店）とのコラボ企画として、「きらりいいね展（作品展）」を2回開催しました。
- ・板橋区社会福祉法人施設連絡会、東京都社会福祉協議会通所施設分科会、東京都発達障害支援協会等に参画して地域ニーズに応える活動や社会貢献に取り組みしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・園内で職員交換研修や虐待防止研修を積極的に実施し、生活介護と就労継続支援Bの相互の事業を理解することで、チーム小茂根として意識改革を行い、事業運営に取り組みました。
- ・専門性と倫理観の高い職員を育成するため、オンラインを積極的に活用して学びの機会を確保し、業務の適正化と効率化に努めました。
- ・ノー残業デーの実施（月1回）や有給休暇等の取得の励行、働きやすい職場への環境改善に努めました。
- ・エルダー制度を活用し、新規職員の育成及び業務の標準化に取り組みました。
- ・各種大学や専門学校から実習生を受け入れ、福祉人材の育成につなげました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・板橋区は令和3年11月に「区立福祉園の民営化に関する考え方」を出しています。本園のあり方については板橋区の動向に注視しながら、法人本部や利用者家族等と密に連携し対応します。
- ・職員一人ひとりが運営費の歳出歳入に関して省エネとコスト管理の意識を持ち、費用対効果を意識して適正かつ効率的な経費の執行に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
給水給湯配管等更新(板橋区)	17,303	給水給湯配管等更新	板橋区実施
購入等合計	17,303	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
2F廊下壁面等更新	1,200	2F廊下R型壁造作工事	242
1F埋込照明設備更新	1,298	2F作業場照明設備更新(LED化)	1,100
購入等合計	1,200	購入等合計	242
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
2F埋込照明設備更新	1,210	1F生活フロア照明設備更新(LED化)	1,210
		直付照明設備更新(LED化)	1,210
購入等合計	1,210	購入等合計	2,420
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
直付照明設備更新	1,265	1Fその他照明設備更新(LED化)	957
購入等合計	1,265	購入等合計	957
年間合計	20,978	年間合計	3,619

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	535	528	444	536	455	480	547	460	482	446	428	454	5,795
女性	152	147	137	147	140	136	129	102	130	128	122	130	1,600
合計	687	675	581	683	595	616	676	562	612	574	550	584	7,395

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	40	1	7	8	12	4	5	2	1
R05(2023)年度	39	1	4	9	12	5	5	2	1
R06(2024)年度	38	1	2	9	10	8	5	2	1

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	272	273	276	305	241	243	288	257	260	224	216	255	3,110
女性	178	172	172	184	166	161	171	166	170	156	135	158	1,989
合計	450	445	448	489	407	404	459	423	430	380	351	413	5,099

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	26		3	4	6	1	3		9
R05(2023)年度	25		2	3	6	2	3		9
R06(2024)年度	25			5	3	5	2	1	9

令和6(2024)年度 事業報告（障害福祉サービス事業）

施設名	立川福祉作業所				
定員	就労移行支援	6	名（通所）	特定相談支援事業	— 名
	生活介護	30	名（通所）		
	就労継続支援B	44	名（通所）		
	計	80	名		

【事業実績】

施設利用率					
	就労移行支援	21.0	%		
	生活介護	82.3	%		
	就労継続支援B	98.7	%		
	計	86.7	%	* 目標利用率	86.5%
	特定相談支援事業	274	名（年間延利用者数）		
平均障害程度区分		3.8			
平均年齢		36.0	歳	（最高 68 歳 / 最低 19 歳）	
平均通所期間		13.2	年	（最長 53 年）	
年間入所		7	名		
年間退所		7	名		
主な入所理由	特別支援学校の卒後の進路				
主な退所理由	就職、他施設の利用				

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の多様な働き方のニーズに応じて新たな活動グループを編成しました。また東京都の施設生産活動応援センターに登録し、新たな受注作業に結びつけました。利用者それぞれのニーズが充足し、利用者満足度につながりました。

・個別支援計画に沿った支援を提供し、利用者の思い描く自己実現につなげました。

◆ 地域社会への取組み

・自立支援協議会をはじめとする立川市内のネットワークに参画し、福祉の分野に限らず地域課題の解決に向けて連携しました。立川市の要請で、地域の社会的孤立者に、社会参加のきっかけとしてボランティアの場を提供しました。

・パン屋BAKUBAKUは、地域住民に親しまれ、交流の場としての役割を果たすとともに、地域と施設をつなぐ架け橋となっています。東京都教育庁のユースソーシャルワーカーと協調して、生活困窮者を支援するNPO法人と、近隣にある都立高校の学生にロスパンを提供しました。

・地域にあるプロスポーツ企業から定期的にチラシの封入の作業を受注しました。また当施設の行事でイベントを行ってもらったことで、利用者や地域の社会的孤立者の社会参加の機会となりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員が互いに敬意を持ち理解し合うことで、ハラスメントが起きにくい職場環境を整えました。

・施設のビジョン、ミッション、バリューを策定し、職員間で共有しました。今後、これらの実現に向けて実行していく継続的な取組みが必要です。職員のエンゲージメントを高める取組みは引き続きの課題となっています。

・職員の研修の受講や資格の取得を奨励し、職員の支援力の向上につなげました。

・有給休暇の取得の推奨や業務の効率化を進め、ワークライフバランスの充実に取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・特別支援学校に巡回と情報提供を行い、利用者数の充足につなげました。また「計画相談たちふく」を介し利用者の新規利用につなげました。

・定員を超過して利用者を受け入れ収入増を図りました。しかしながら、年度途中で複数の利用者が企業に就労し、また家庭の事情等で居住地が変わるなど、利用者の退所による影響を大きく受けることとなりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
PC(×10)	1,518		
購入等合計	1,518	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
		ドゥーコンディショナー基盤交換工事	772
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		PC(×8)	1,390
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	346	353	336	366	335	345	355	326	320	314	304	311	4,011
女性	180	168	165	183	157	162	176	155	164	162	170	170	2,012
合計	526	521	501	549	492	507	531	481	484	476	474	481	6,023

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	23			2	5	2	1	8	5
R05(2023)年度	31		1	2	6	3	3	7	9
R06(2024)年度	29		1	1	5	4	3	6	9

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	655	632	592	643	576	594	623	581	543	557	535	552	7,083
女性	308	305	306	326	276	288	304	286	268	271	278	295	3,511
合計	963	937	898	969	852	882	927	867	811	828	813	847	10,594

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	47	5	9	11	11	2	4	2	3
R05(2023)年度	46	1	14	10	8	5	5	2	1
R06(2024)年度	45	5	10	9	7	6	4	3	1

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労移行支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	23	33											56
女性	36	41	17	20	18	17	19	17	18	16	16	16	251
合計	59	74	17	20	18	17	19	17	18	16	16	16	307

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労移行支援

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	1				1				
R05(2023)年度	1			1					
R06(2024)年度	1				1				

令和6(2024)年度 事業報告（障害福祉サービス事業）

施設名 東村山生活実習所

定員	生活介護	30	名(通所)	短期入所専用	2	名
	就労継続支援B	10	名(通所)			
	計	40	名			

【事業実績】

施設利用率

生活介護	94.0	%	
就労継続支援B	88.5	%	
小計	92.6	%	* 目標利用率 96.4%
短期入所	14.5	%	

平均障害程度区分

生活介護	5.69
就労継続支援B	2.58

平均年齢 42.9 歳 （最高 75 歳 / 最低 20 歳）

平均通所期間 12.0 年 （最長 18.9 年）

年間入所 2 名

年間退所 5 名

主な入所理由 一般就労に向けた経験、長期在宅からの自立

主な退所理由 高齢化に伴う通所困難、一般就労に向けた事業所移行

◆ 利用者支援サービスの充実

・東京都虐待防止権利擁護研修に参加し、その内容をもとに職員全員へ虐待防止研修を行いました。虐待防止はもとよりその予防と早期発見のための取組と、利用者への人権擁護(人としての尊厳)の重要性を学び、意識とスキルの向上を図りました。

・OJTによる専門職としての育成を基本とし、職員の専門性を高めるために、個々に応じた研修参加の機会を多く設けました。内部研修ではKYT研修を始め、適切な支援と気づきをテーマとしたグループワークを行い支援力の向上を図りました。

・利用者及び保護者の想いを汲みとりながら個別支援計画書を作成し、利用者それぞれの自己実現に向けて取り組みました。また社会性の向上が図れるように旅行(日帰り)を再開するなど、様々な場面で支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

・製菓等の販売やリサイクル活動などを通じて地域と関わりを持ち、利用者の社会参加を促進しました。カフェにおいては、地域の方や障害事業所の利用者も増え、障害者理解と交流の場、また利用者の活躍の場となりました。

・今年度は小平特別支援学校より、文化祭での生徒による販売経験のための商品依頼を受け、生活介護事業にて作品提供を行いました。関係性が深まったことで、生徒・教員のカフェの利用による交流の機会も増えました。

・フードドライブや地域拠点支援事業等に参画し、関係機関と協働しながら課題把握と解決に向けて取り組みました。

・特別支援学校等と連携し、進路先や体験の場として受入れを増やす一方で、在宅生活が長くなっている方などの要望に応じながら、柔軟な体制でサービスの提供を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・知識やスキルの習得と専門職としての意識の向上を図り、国家資格の取得及び強度行動障害支援者養成研修への受講を積極的に進めた結果、多くの職員が合格・修了しました。また、参加者による研修報告の機会を設け、学んだ知識や技術等を職員間で共有しました。内部研修ではグループワークを中心に、互いに気づきを得ながら支援力の向上へとつながるよう研鑽を積みました。

・ワークライフバランスの充実に向けて、ノー残業デーの実施や有給休暇等の取得の励行、業務の効率化に取り組みました。また、子育て世代や親の介護等を必要としている職員への協力体制も整え、働きやすい環境を整備しました。

・次世代の福祉人材の育成として、養成校などからの実習生の受け入れを積極的に行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・定員を超過した利用者の受入れを行い、安定運営に努めましたが、生活介護では要介護者の高齢化などにより利用者が3名退所となりました。また、就労継続支援B型では、本人のライフステージに合わせ利用者2名が退所となりました。

・稼働率の低下により収入は減少となりましたが、報酬改定に伴う加算の変更等の工夫を行い、経営の安定化に取り組みました。また物価の高騰に対し、省エネとコストの削減に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
非常放送設備	1,881	非常放送設備	1,881
ドゥーコンディショナー	1,614	ドゥーコンディショナー	1,373
購入等合計	3,495	購入等合計	3,254
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
PC(×5)	1,001	PC(×7)	1,198
購入等合計	1,001	購入等合計	1,198
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	4,496	年間合計	4,452

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	289	290	292	302	287	278	302	287	280	261	251	271	3,390
女性	328	320	296	327	309	301	330	312	279	261	254	258	3,575
合計	617	610	588	629	596	579	632	599	559	522	505	529	6,965

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	30			5	3	7	3	3	9
R05(2023)年度	32	1		2	6	6	3	2	12
R06(2024)年度	29		1	1	7	3	3	3	11

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	86	83	106	116	101	98	106	90	84	81	86	84	1,121
女性	93	95	92	97	78	88	100	84	90	84	78	85	1,064
合計	179	178	198	213	179	186	206	174	174	165	164	169	2,185

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	9	1		1	3		1	2	1
R05(2023)年度	10		1	1	3		1	2	2
R06(2024)年度	12		3	1	2	1	1	2	2

令和6(2024)年度 事業報告 (心身障害者福祉ホーム)

施設名	さくらんぼ	
主な事業	長期自立援護	特定相談支援事業
	短期自立訓練	移動支援事業
	緊急一時保護	自立生活援助事業
	レスパイト	

【事業実績】

長期自立援護事業					
利用実人員	42	名	最高	57	歳
年間延人員	1,224	名	男女比率	4:1	最低 50 歳
短期自立訓練事業					
利用実人員	539	名	最高	75	歳
年間延人員	1,055	名	男女比率	7:3	最低 16 歳
緊急一時保護事業					
利用実人員	1	名	最高	56	歳
年間延人員	7	名	男女比率	4:1	最低 55 歳
レスパイト					
利用実人員	180	名	最高	75	歳
年間延人員	323	名	男女比率	3:2	最低 16 歳
移動支援事業					
利用実人員	42	名	最高	77	歳
年間延人員	49	名	男女比率	1:2	最低 37 歳
特定相談支援事業					
相談件数	48	件			

◆ 利用者支援サービスの充実

・豊島区の地域生活支援拠点等事業の開始に伴い、さくらんぼでの緊急一時保護の受入れ方法が一部変更となったこともあり、利用件数は減少しました。しかしながら、最終的な受入れ先として、区の要請に基づき、行き先の見つからない利用者の緊急受入れを行いました。

・自主事業を包括した感染症及び災害時のBCP(事業継続計画)を見直しました。また豊島区と協定を結んだ福祉救援センターについては、福祉救援センター検討部会及び通信訓練、開設訓練に参加し、要援護者の受入れ施設としてのあり方を検討しました。

・利用者の多様な生活状況や障害特性を考慮し、希望する地域生活を継続できるよう意思決定に基づく支援を提供しました。

・事業所が一体となり、虐待防止に取り組みました。地域の第三者委員を交えた虐待防止委員会の開催や外部講師による研修の実施のほか、定期的にセルフチェックを行いその結果を検討することで、不適切な支援の防止に対する意識の向上を図りました。

◆ 地域社会への取組み

・地域公益活動として「福祉なんでも相談」を継続しました。障害の有無や居住地域を問わず相談を受け、関係機関へとつなげるよう取り組みました。また種別の違う関係施設と定期的に情報共有を図り、連携体制の構築に努めました。

・地域支援協議会や障害福祉計画推進会議等、地域における会議に積極的に参加し、障害福祉事業の充実に向け協働しました。

・外部団体を招いたお祭り行事の開催や地域行事への参加などを通し、障害者理解の促進及び地域交流につなげました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員個々のキャリアステージや職能に応じた法人研修、外部研修に参加しました。また内部研修にも力を入れて取り組み、利用者の支援に関わるテーマや業務の質の向上、職員同士のコミュニケーションを深めるものなど、ニーズに即した研修を職員が主体的に企画し、実施しました。

・さくらんぼの地域における役割について職員間で話し合う機会を持ち、職員としての使命を遂行できる職場風土の醸成に努めました。

・4S活動とKY活動の一環として、気づきを「見える化」することにより、事故防止につなげました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・今般の様々な物価高騰や人件費上昇などの影響によりかなり厳しい経営状況でしたが、経費の無駄を省き、計画的な予算執行を心掛けました。

・豊島区の施策として令和7年度に行う大規模改修に向け、所管課と協議しながら準備を進めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		PC(×4)	673
購入等合計	0	購入等合計	673
年間合計	0	年間合計	673

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度延人数)

	利用人員							
	長期自立援護		短期自立訓練		緊急一時保護		レスパイト	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R04(2022)年度	47	1,404	536	1,006	19	157	114	197
R05(2023)年度	45	1,297	551	1,080	15	159	136	275
R06(2024)年度	42	1,224	539	1,055	1	7	180	323

令和6(2024)年度 事業報告（心身障害者福祉センター）

施設名 さいわい福祉センター

主な事業	地域活動支援センター事業	生活介護
	都型ショートステイ事業(宿泊)	就労移行支援事業
	日中一時支援事業	居宅介護事業
	就労支援事業	特定相談支援事業

【事業実績】

	事業名	実人員	延人員	年齢		男女比率
				最高	最低	
自立支援事業	地域活動支援センター	31	304	53	22	3:1
	身体障害者機能訓練	119	273	65	21	1:1
介護支援事業	ショート・緊急・日中一時支援	745	1,429	57	3	1.3:1
	入浴サービス	123	335		21	1:1
居宅生活支援事業	同行援護(視覚障害)・移動支援	305	1,594	90	32	1.3:1
	居宅介護支援	24	199	75	69	1:1
育成事業	グループ育成	47回	253	—	—	—
	講座・講習	113回	985	—	—	—

障害者地域自立生活支援事業

相談内容	件数	利用者内訳	延人員
相談事業(一般)	55	身体障害	413
特定相談	980	知的障害	728
就労支援(生活支援)	216	その他	382
〃 (就労支援)	650		
計	1,901	計	1,523

◆ 利用者支援サービスの充実

・東久留米市の心身障害者地域生活支援拠点として、相談支援や日中一時支援、ショートステイ、緊急時受け入れなど柔軟に対応しました。また、対応が困難な場合は関係機関と協力し調整を行うなど、切れ目のない支援に努めました。

・利用者支援において、利用者の言動を真似るなどの「不適切な支援」がありました。これに対し、利用者本人と家族に謝罪し、市、法人本部に報告するとともに、職員間で事実を検証し、虐待防止、権利擁護に関する研修やグループワークを継続して実施するなど、再発防止に向けて取り組みました。

・リフター等の介護機器を活用し、利用者の安全・安心な介護に努めました。また、職員の介護負担の軽減にもなり腰痛予防につながりました。

・防災、防犯対策では、昼間、夜間、休日など各場面を想定して定期的に訓練を行いました。訓練を通して計画の見直しや、備蓄品の入替え、必要物品の購入などに取り組みしました。

◆ 地域社会への取組み

・市内福祉団体が中心となり地域の方も参加する夏祭り「夕涼み会」や障害者フットサル大会「市長杯ウイングスカップ」の事務局として、円滑に運営することができました。また関係機関や地域とのつながりを深められる良い機会となりました。

・地域自立支援協議会や社会福祉法人連絡会などに参画し、地域課題やニーズについて意見交換等を行いました。また、就労支援部会では、障害者就労支援に関するセミナーを地域の福祉施設職員、市民向けに開催しました。

・特別支援学校の保護者向けに福祉サービスの説明を行うために職員を派遣し、また市内高等学校の学生向けに障害者福祉に関する授業を行うなど、啓発活動や地域貢献に努めました。

・市民向けの講座に言語療法士を招き「ことばの発達」について講演会を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・外部講師を招き、介護技術研修や障害特性についての研修、ガイドヘルパーのフォローアップ研修など、基礎・応用を学び個々のスキルアップに努めました。また、不適切な支援があったことに対して、権利擁護、虐待防止について学び直しをする機会を作りました。

・法人内の施設間交流研修や近隣の施設見学を実施しました。外部施設へ視野を広げることで、新たな学びや気づきなどを得る機会となりました。

・事務作業の短縮と職員の負担軽減のために、会議録作成ソフトを導入しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・相談支援事業、就労支援事業に係る消費税が、今後委託費に上乗せされることになりました。

・経年劣化により外壁や空調等の修繕にコストが掛かるため、東久留米市に対し、大・中規模修繕の実施を依頼しています。

・人件費、物価高騰により支出が増えました。省エネ、再利用などコスト削減に努めましたが、ショートステイ事業に関しては食料費を見直し、現状維持では採算が合わないため市と協議し食事代を増額することになりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度延人数)

	自立支援事業				介護支援事業			
	地域活動支援		機能訓練		ショート・緊急		入浴	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R04(2022)年度	60	687	136	231	726	1,652	132	364
R05(2023)年度	50	511	113	249	764	1,526	117	311
R06(2024)年度	31	304	119	273	745	1,429	123	335

	居宅生活支援事業				育成事業			
	同行援護・移動支援		居宅・移動支援		グループ育成		講座・講習	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R04(2022)年度	296	1,316	24	331	45	325	115	761
R05(2023)年度	300	1,409	24	250	48	231	109	714
R06(2024)年度	305	1,597	24	199	47	253	113	985

令和6(2024)年度 事業報告（共同生活援助事業）

施設名 アミニティ富士見

定員 52 名

【事業実績】

利用率 89.5 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・意思決定支援、合理的配慮に基づき、利用者の意向を尊重した個別支援計画を作成し支援しました。グループホームが一人ひとりにとっての家庭であることを強く意識し、和やかで落ち着ける雰囲気を大切にし、安定した生活が送れるよう支援しました。
・高齢利用者の後見制度の利用や高齢者施設への移行、また、ガイドヘルパーなどの外部人材を有効に活用するなど、それぞれに合った豊かな生活が送れるよう支援しました。
・感染症対策を行いながら、防災、防犯訓練を計画的に実施し、有事に備え、安心して生活できる環境整備を行いました。また専門家の意見を取り入れ有事に即した対応ができるようにBCPを見直しました。

◆ 地域社会への取組み

・関係機関や近隣、地域との関係を深め、社会参加と自立した生活の支援に取り組みました。
・地域の防災訓練に参加し、地域の一員として社会に貢献できるよう努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・毎月開催の世話人会を通じて、福祉情勢や他施設の情報等の共有に努めました。
・東京都主催の外部研修の受講を計画的に進めました。またバックアップ職員がグループホームに出向き、研修やグループワーク等を実施しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・報酬改定や都加算見直しによる収益への影響を注視し、安定的に経営ができるよう取り組みました。
・都加算の補助要件となった第三者評価の受審及び世話人の外部研修受講を計画的に進めました。
・昨年度同様利用者の退寮等による空室状態が続いています。高齢化に伴う退所や、ホームとの関係性の変化、生活自体が難しく退所する方もおり、昨年度と比較して稼働率の低下となりました。世話人の高齢化も稼働率低下につながっています。

【施設利用状況】

利用者状況推移（各年度3月1日現在）

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	48		1	1	9	10	6	3	18
R05(2023)年度	47			2	9	9	7	2	18
R06(2024)年度	47			2	5	13	4	5	18

令和6(2024)年度 事業報告（共同生活援助事業）

施設名 レヂオンス巣鴨

定員 12 名

【事業実績】

利用率 100.0 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の地域生活が充実したものとなるよう、感染症対策を講じながら、日帰り旅行や食事を伴う3ユニット合同の交流会、利用者・職員・家族参加型のコンサートの鑑賞など、利用者が外出する機会を増やしました。
・高齢化に伴う重度化が進んでいるユニットでは、介護保険サービスに加え、訪問看護サービスの活用を継続し、利用者の健康管理と世話人が安心して介護ができる体制を作りました。
・感染症及び災害時のBCP(事業継続計画)を見直しました。また、利用者を交えた防災・防犯訓練を計画的に実施し、安全に暮らせるよう環境整備を行いました。

◆ 地域社会への取組み

・地域の清掃ボランティア活動やウォークラリー等のイベントに積極的に参加しました。地域の一員として貢献するとともに、自己肯定感が高まるよう支援しました。
・豊島区や近隣施設が主催する行事やイベント等に参加し、楽しく交流を深めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・世話人スタッフが安心して支援に従事できるよう、さくらんぼのバックアップ体制を強化するとともに、スタッフ会議を定期的開催し、支援に関する悩みや支援方法を共有し、より良い支援につなげるよう取り組みました。
・さくらんぼと合同で、虐待防止及び身体拘束適正化のための研修をスタッフ全員が受講し、法人職員としての自覚と支援の確認、見直しを行う機会を設けました。またセルフチェックを定期的に(年3回)実施し、ユニット毎にコミュニケーションを取る機会を増やすことにより、権利擁護の意識を持続けられるよう取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

運営費の請求状況及び利用者負担の上限額を把握しながらその範囲内で支出を管理することで、全般的には安定かつ適正な経営ができました。

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	12						2	2	8
R05(2023)年度	12						2	2	8
R06(2024)年度	12						2	1	9

令和6(2024)年度 事業報告（共同生活援助事業）

施設名 夢オハナ

定員 12 名

【事業実績】

利用率 100.0 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者一人ひとりが思い描く豊かな地域生活が実現するように関係機関と連携し、個別支援計画に沿った意思決定支援を行いました。
・防災・防犯への意識の向上を行いました。また非常食の確保や緊急時の職員体制を見直し、リスク軽減に取り組みました。
・事業継続計画を職員間で共有するとともに、災害等での減災に対しより実行性が高まるよう、計画を見直しました。

◆ 地域社会への取組み

一市民として様々な地域社会と関わり、利用者の社会参加の機会を積極的に持てるよう支援しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・定期的に世話人会を実施し、福祉動向や制度の理解を深めました。世話人の育成と支援力の向上につながりました。
・世話人や支援員の高齢化が進む中、世代交代を緩やかに進めました。利用者のニーズの多様化・複雑化に対応できる支援力の向上を目指しました。また、利用者の権利擁護を正しく理解するため、学ぶ機会の確保に継続的に取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・物価高騰による影響がありましたが、各種補助金を活用し、利用者の生活への影響を軽減できるよう取り組みました。
・報酬改定による収入の変動は少なく、安定的な経営につながりました。7月に1名の退所がありましたが、速やかに新しい利用者が決定したことから、収入への影響は最小限でした。
・都加算の要件である第三者評価を受審し、外部研修を受講しました。

【施設利用状況】

利用者状況推移（各年度3月1日現在）

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R04(2022)年度	12				7	4			1
R05(2023)年度	12				7	4			1
R06(2024)年度	12				2	9			

4. 児童・女性支援系施設の経営

母子生活支援施設、児童養護施設、女性自立支援施設、児童厚生施設を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者が安心できる生活環境の中で心のケアを行い、自尊心を高め自己決定ができるよう支援に取り組みました。
- ・本人の意向を尊重した自立支援計画に基づき、関係機関と適切な連携に努めながら、利用者一人ひとりの自立支援に取り組みました。
- ・防犯防災及び感染防止を含む施設内外の非常災害に備えて「安全計画」を見直し、計画的に訓練を行いました。
- ・令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、婦人保護施設「いこいの家」は、女性自立支援施設「自立ホームいこい」として新たな一歩を踏み出しました

◆ 地域社会への取り組み

- ・地域の子どもたちを施設行事へ招待し居場所を提供するとともに、遊びを通じて健全な育成支援に努めました。
- ・グループ事業として10年目の「同援こども学習室(通称ラ・スク)」は今年度末をもって事業終了となりました。今年度は延べ122名が参加し、10年間で延べ1,642名の学習を支援しました。
- ・フードバンク昭島をはじめとした地域の企業や他法人との連携を通して、フードロス支援などの地域貢献に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・キャリアパスに基づく個別育成計画と人事考課を活用し、職員の育成を図りました。また、法人内外の研修参加により専門性と利用者対応力の向上に努めました。
- ・職員の相互理解を図り、チーム力向上と働きやすい職場環境作りに取り組みました。
- ・施設実習の学生を積極的に受け入れて当法人の魅力をアピールし、人材確保に繋がりました。
- ・ハラスメントのない働きやすい職場づくりに努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

- ・サンライズ武蔵野は、広域利用について区と協議を行い受入れ増に努めました。
- ・サンライズ万世は、様々な課題を持つ利用者を受け入れ、利用率向上に努めました。
- ・双葉園は、措置費や補助金等の加算を積極的に活用すべく、申請内容を精査し、収入増につなげました。また、各種団体の助成事業にも応募し、児童の生活環境の改善につなげました。
- ・自立ホームいこいは、女性支援新法のもと、支援の充実と新規事業の準備に取り組みしました。
- ・昭島市児童センターぱれっとは、市と協議のうえ、次年度の移動児童館実施に向け、正規職員1名を増配置する予算を確保しました。

1 母子生活支援施設

18歳未満の児童を養育している母子家庭等の女性が児童と一緒に利用できる施設として、利用者の心身と生活を安定するための相談・援助を進めながら、自立を支援しました。

2 児童養護施設

乳児を除いて、保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を養護し、あわせてその自立を支援しました。

3 女性自立支援施設

性暴力やDV被害者等、困難な問題を抱えた女性への支援(心身の健康の回復のための精神的・医療的支援、また食を通じた健康増進管理、就労支援などの自立促進)を入所時のみならず退所後も継続し、安全・安心な生活を見守りました。

4 児童厚生施設

児童に健全な遊びの場を提供し、健康を増進して豊かな情操を育てるための児童センターとして運営しました。

令和6(2024)年度 事業報告（母子生活支援施設）

施設名 サンライズ武蔵野

定員 20 世帯

緊急一時保護 1 世帯

【事業実績】

施設利用率	82.4	%	* 目標利用率 90.0%	
入所	85.4	%		
緊急一時保護	17.0	%		
平均在所期間	1.1	年	（最長	2.4 年）
年間入所	13	世帯	30	名
年間退所	10	世帯	24	名
主な退所先	公営住宅、民間賃貸住宅			

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の意思を尊重した自立支援計画を策定し、福祉事務所や子ども家庭センター等の関係機関と連携して自立を支援した結果、10世帯が退所しました。
- ・令和3年度から開始した、所在地である杉並区以外の広域利用は、現在6世帯が利用しています。DV被害のため離婚調停、裁判等も難航し、精神的負担が大きく手厚い支援を求められました。
- ・学童には一人ひとりに合わせた支援を行い、特に高年齢児には個別にレクリエーションを実施しました。
- ・通常の半日補助保育のほか不調時にも補助保育を行い、また母のリフレッシュを目的とした行事を実施するなど、母子の心身の安定を図りました。
- ・基本的な感染症対策を行ったうえで、生活に潤いが持てるよう行事を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域のひとり親家庭に向けて電話相談を継続しました。
- ・グループの取組みである「同援子ども学習室(ラ・スク)」に参加し、地域の児童の学習支援、居場所支援を行いました。
- ・感染症対策を行ったうえで、他の事業所と地域行事を開催し、地域の親子との交流を深めました。
- ・アフターケアとして、退所後の落ち着いた頃に訪問し、その後は各世帯へ誕生日カードや寄贈品を送付し近況確認を行いました。
- ・奨学金受給中の退所児童と月に1回面談し、退所後の生活を支援しました。
- ・地域の複数の団体から寄贈品をいただき、地域からも利用者支援がなされました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・法人のキャリアパス制度に基づき、職員のキャリアアップと処遇改善を進めました。
- ・職場内研修を実施し、職員の資質の向上を図りました。
- ・グループの課題であるハラスメントと虐待について研修を実施し、職員間で学びの共有を図りました。
- ・感染症の状況に留意し、できる限り外部研修に参加しました。
- ・感染症対策を行ったうえで実習生を受け入れ、将来の福祉人材の育成に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・広域利用は当初2世帯の枠でしたが、杉並区と協議し柔軟に対応できるようになりました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置により、暫定定員は解除され定員20世帯の措置費収入を得ることができました。
- ・措置費、環境改善補助金等により収入増を図りました。
- ・月別予算により適正な執行管理を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
居室エアコン(×10)	1,330		
購入等合計	1,330	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
防犯カメラ	922	居室エアコン(×5)	681
購入等合計	922	購入等合計	681
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
		防犯カメラ	957
購入等合計	0	購入等合計	957
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
大規模修繕費用	1,303	居室エアコン(×5)	681
購入等合計	1,303	購入等合計	681

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
世帯数	15	15	17	18	18	18	17	19	20	16	17	18	208
児童数	20	20	23	24	24	23	22	25	26	21	22	22	272
合計	35	35	40	42	42	41	39	44	46	37	39	40	480

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	生活保護受給			その他			合計	
	世帯数	児童数	計	世帯数	児童数	計	世帯数	人数
R04(2022)年度	7	8	15	12	20	32	19	47
R05(2023)年度	2	3	5	12	16	28	14	33
R06(2024)年度	4	5	9	14	17	31	18	40

令和6(2024)年度 事業報告(母子生活支援施設)

施設名 サンライズ万世

定員 20 世帯

緊急一時保護 2 世帯

【事業実績】

施設利用率	89.5	%	*目標利用率 100.0%	
入所	89.5	%		
緊急一時保護	16.6	%		
平均在所期間	1.2	年	(最長	4.08 年)
年間入所	14	世帯	42	名
年間退所	15	世帯	44	名
主な退所先	都営住宅、民間アパート、施設他			

◆利用者支援サービスの充実

- ・利用者一人ひとりの意思や人権を尊重し、個別自立支援計画に基づく支援を提供しました。
- ・関係機関と連携を密にし、母子が適切に課題解決に向かうよう支援しました。
- ・精神的ケアとアタッチメントを中核に据えた、親子関係の再構築のための支援を行いました。
- ・子どもの健全育成を目指し、学習支援と生活支援に努めました。
- ・季節を感じながら、親子で楽しむことのできる行事を企画し実施しました。
- ・防犯防災及び感染症対策を含めたBCP行動計画の見直しを検討し、毎月の避難訓練により、利用者が安全・安心に過ごせるように取り組みました。

◆地域社会への取組み

- ・グループ事業として10年目の「同援こども学習室(ラ・スク)」に取り組みました。
- ・14年目の「地域無料心理相談事業」を継続して行いました。
- ・アフターケアを計画的に進め、相談援助等により退所後の生活を支援しました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・保育士養成校や教員介護体験等の学生を積極的に受け入れ、その指導を通じて職員のスキルの向上を図りました。
- ・キャリアパスに連動した職員個別の育成計画(研修計画含む)を作成し、人材育成に努めました。
- ・ハラスメントについて職場全体で学びを深め、防止に努めました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・年間利用率90%以上を目標にして、都外からの利用も積極的に受け入れ、財務基盤の強化を図りました。
- ・経費全体を見直し経営のスリム化を図るとともに、新たな加算等の取得を目指しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
PC(×5)	978		
購入等合計	978	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
		PC(×5)	977
購入等合計	0	購入等合計	977
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		PC(×1)	245
購入等合計	0	購入等合計	245
年間合計	978	年間合計	1,222

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
世帯数	18	19	20	18	19	17	16	16	19	20	20	18	220
児童数	35	36	37	33	35	28	25	26	32	37	37	33	394
合計	53	55	57	51	54	45	41	42	51	57	57	51	614

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	生活保護受給			その他			合計	
	世帯数	児童数	計	世帯数	児童数	計	世帯数	人数
R04(2022)年度	13	29	42	7	14	21	20	63
R05(2023)年度	12	29	41	5	8	13	17	54
R06(2024)年度	7	14	21	11	19	30	18	51

令和6(2024)年度 事業報告（児童養護施設）

施設名	双葉園					
定員	双葉園	28	名	りんどう（小規模グループケア地域型ホーム）	6	名
	高嶋の家（地域小規模型GH）	6	名	わかば（小規模グループケア地域型ホーム）	6	名
	くすのき（地域小規模型GH）	4	名			
	計	50	名	（昭島市子どもトワイライトステイ事業	2	名）

【事業実績】

施設利用率

本園	94.2	%	
りんどう	96.0	%	
わかば	97.3	%	
高嶋の家	96.2	%	
くすのき	92.8	%	
計	94.7	%	* 目標利用率 100.0%
トワイライトステイ事業	31	名（年間延利用者数）	

男女比率	5:5	
平均年齢	11.3	歳（最高 18 歳 / 最低 2 歳）
年間入所	8	名
年間退所	7	名

主な入所理由	虐待、養育困難
主な退所理由	家庭復帰、社会的自立

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・児童養護施設で働く職員としての意識や視点を共有し、支援につなげる取組みを継続しました。
- ・自立支援計画の作成にあたっては、子どもたちの意見を聴取し、本人が納得できる計画を作るよう心掛けました。
- ・事業計画通り8月に新たなグループホームを2棟開設し、国の推奨する小規模化と居室の個別化（個室化）をより進めることができました。
- ・防災に対するBCPの見直しと訓練を着実に実施し、施設として安全管理に取り組むべき内容や今後の課題を抽出することができました。

◆ 地域社会への取組み

- ・昭島市トワイライトステイ事業は、一年間途切れることなく稼働させることができました。
- ・自立支援担当職員が主となり、東社協部会や多摩地区の団体（通称「三養協」）と連携し、卒園児の相談・居場所づくりなどに積極的に参画しました。
- ・多摩地区の里親子宅へ里親支援専門相談員が積極的に訪問し、フォostering機関（里親制度に係る一貫した支援を行う機関）の主催するサロンの運営にも協力しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・外部研修に参加できる機会を積極的に作り、職員教育にも力を入れました。階層別研修のほか、本事業で求められる知識（TIC、自立支援といった専門分野も含む）にも目を向け、学びの機会を提供しました。
- ・職場内で話しやすい関係を築くことを意識し、特に主任や管理職から職員へ声を掛け、普段から気にかけていることを感じられるような職場づくりに努めました。人事考課面接以外にも、職員と管理職等が気軽に話せるような雰囲気を作りました。
- ・一年間盤石な職員体制を維持することは困難でしたが、専門職や管理職も積極的に現場のフォローに入ること、配置基準を確保しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・年度当初から措置費等の収入増に努め、結果として当期の収入から積立を行うことができました。
- ・施設の職員配置を見極めつつ利用を促進することが、結果として社会への貢献につながっていることを職員に伝え、「経営」と利用者支援における「運営」とが施設の両輪であるとの意識を共有しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
放送機器入替	2,085	放送機器入替 PC(×5)	2,084 759
購入等合計	2,085	購入等合計	2,843
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
PC(×10) 新規グループホーム開設(2棟)	801 16,000	PC(×2) 新規グループホーム開設(2棟)	328 12,899
購入等合計	16,801	購入等合計	13,227
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
防犯カメラ	715		
購入等合計	715	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		防犯カメラ	694
購入等合計	0	購入等合計	694
年間合計	19,601	年間合計	16,764

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男児	23	23	23	24	24	24	23	24	24	24	24	24	284
女児	22	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	284
合計	45	46	46	48	48	48	47	48	48	48	48	48	568

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	学年別内訳				
		幼児	小学生	中学生	高校生	その他
R04(2022)年度	48	7	20	9	12	
R05(2023)年度	48	7	25	7	9	
R06(2024)年度	48	8	25	7	8	

令和6(2024)年度 事業報告（女性自立支援施設）

施設名 自立ホームいこい

定員 40 名・世帯

【事業実績】

本入所

施設利用率	37.2	%	*目標利用率 49.0%
平均年齢	37.0	歳	（最高 69 歳 / 最低 21 歳）
平均在所期間	1.6	年	（最長 3 年）
年間入所	5	名	
年間退所	6	名	
主な入所理由	近親者からの暴力被害による		
主な退所理由	就労状況による		

緊急一時保護

緊急のみ利用率	7.3	%	
平均年齢	35.0	歳	（最高 63 歳 / 最低 22 歳）
同伴児者平均年齢	3.0	歳	（最高 11 歳 / 最低 0 歳）
年間利用者数	35	名	
主な入所理由	夫の暴力		
主な退所理由	母子生活支援施設、アパート転宅		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・多職種が常に連携し利用者支援を行ったことで、良い支援につながりました。
- ・就労支援として、ハローワークへの同行を積極的に行ないました。また、昭和郷内で清掃業務を請け負うなど、利用者に働く場を提供しました。
- ・アフターケアは、対象者数も増加する中で、訪問や来園、電話などにより延べ379回実施しました。
- ・施設内作業の成果として、地域のバザーに複数出店し前年度以上の売上げとなったことで、利用者のやりがいにつながりました。
- ・菓子製造は、販売時のパッケージデザインを利用者が担当し、共同作業での取り組みができました。
- ・新しい取組みである「いこレク」では、ボードゲームをはじめ、利用者と職員が一緒に笑顔で過ごす時間を設けたところ、他人との関わり方を経験する上でも良い機会になりました。

◆ 地域社会への取組み

- ・10年間継続した「同援こども学習室(ラ・スク)」は令和6年度末で終了し、延べ1,642名の学習を支援しました。
- ・フードバンク昭島および地元企業と連携し、フードロス支援に取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員の育成について、相互に学び合いアドバイスをを行った結果、それぞれの成長と資質の向上につながりました。
- ・法人内外の多くの研修に参加しました。東京都女性相談支援センターの主催する年度後半からの新たな研修プログラムを全職員が受講することができ、キャリアアップにつながりました。
- ・対人援助に携わる者として、対利用者だけでなく、職員間でもお互いが尊重し合えるようなハラスメントのない職場環境づくりに取り組みました。
- ・資格取得を目指す学生を積極的に受け入れ、福祉人材の育成に貢献しました（年間延べ164名）。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・消耗備品等の必要性を随時見直し経費削減を図りました。
- ・東京都女性相談センターとの連携により、本入所は利用が概ね順調に推移しました。一方で、緊急一時保護事業の利用が前年度の半数程度に留まりました。結果的に収入は大幅に減少しました。
- ・可能な限り、補助金及びサービス推進費の加算の申請を行いました（キャリアアップ補助事業等含む）。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
車輛	2,207		
購入等合計	2,207	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
		車輛	2,034
購入等合計	0	購入等合計	2,034
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		アンテナ交換工事	1,084
購入等合計	0	購入等合計	1,084
年間合計	2,207	年間合計	3,118

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本入所	14	13	12	12	13	14	14	14	14	13	11	11	155
緊急一時	4	6	2	2	1	3	1	0	0	0	0	0	19
合計	18	19	14	14	14	17	15	14	14	13	11	11	174

利用者状況推移(各年度3月1日現在) ※令和4年度及び令和5年度は婦人保護施設

	実人員	年齢別内訳							
		～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	65～
R04(2022)年度	10	5	1	1	1	1	1		
R05(2023)年度	14	7	3		2			1	1
R06(2024)年度	11	4	2	1	3	1			

令和6(2024)年度 事業報告（児童厚生施設）

施設名 昭島市児童センターぱれっと

【事業実績】

年間延利用者数	45,394	名	
1日平均利用者数	138.0	名	* 目標利用者数 151.0名

◆ 利用者支援サービスの充実

・遊び・生活・子育ての体験を通して、「明るく元気でたくましく」成長できる交流の場を提供しました。
・安全・安心で快適な居場所を提供をするため、入館票(氏名・住所・親の電話番号)の記載の周知徹底を図るとともに、昭島市・警察・スクールサポーターなどとの連携を強化しました。

◆ 地域社会への取組み

・通年行事や季節行事の実施を通して、様々な世代に交流の場を提供しました。
・昭島市で唯一の児童館として、遠隔地への出張サービスを所管と進めた結果、令和7年度より移動児童館を実施することになりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・業務マニュアルを適時見直し、合理的かつ効果的な業務内容に更新しました。
・1on1面接を実施して、職員のパフォーマンスの向上を図り、職員一人ひとりが自信と誇りを持って主体的に業務遂行ができるよう、人材の育成につなげました。
・人にやさしい職場の実現へ向け、昭島市と協議の上、事務所内の環境整備を行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

健全な事業継続のため、昭島市と適正な運営委託費の調整を図り、令和7年度からの移動児童館の実施に向けて、正規職員1名分相当の運営委託費の増につなげました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(年間延人員数)

時間帯	未就学		小学生		中学生		高校生		児童 小計	保護者 小計	見学者	合計
	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者				
午前	4,587	4,054	2,942	417	344	3	120	4	7,993	4,478	1,116	13,587
午後	4,225	3,557	15,705	864	5,478	6	555	7	25,963	4,434	56	30,453
夜間	53	57	50	42	593	2	490	10	1,186	111	57	1,354
合計	8,865	7,668	18,697	1,323	6,415	11	1,165	21	35,142	9,023	1,229	45,394

5. 医療事業施設の経営

医療法に基づく「病院」であるとともに、社会福祉法に定める生計困難者のために無料または低額な料金で診療を行う「無料低額診療施設」および生活保護法に基づく「医療保護施設」として適切な医療を提供しました。

令和6(2024)年度 事業報告（医療施設・医療保護施設）

施設名 昭島病院

定床 199 名

【事業実績】

病床利用率	80.2	%	* 目標利用率 86.4%
1日あたり平均患者数			
入院	159	名	* 目標患者数 172名
外来	311	名	* 目標患者数 350名
1ヵ月あたり平均救急車受入台数	91	台	* 目標受入台数 100台

◆ 利用者支援サービスの充実

・リハビリテーション体制の充実
職員を増員し、設備の充実を図り、365日リハビリテーション体制を強化しました。

・感染防止対策の継続
感染対策委員会を中心とし、職員一人ひとりが感染防止対策に取り組みました。

・患者数(入院・外来)の増へ向けた取り組み
他院や地域の診療所等と連携し、紹介患者、時間外患者を最大限受け入れるよう努めました。
救急の受入れについては、ホットラインを導入し応需時間の短縮を図りました。

・患者サービスの向上
システムや運用方法を変更し待ち時間を短縮することで、患者サービス及び医療安全の質の向上に努めました。

・医療保護施設としての役割
無料低額診療施設として、ホームページの更新やリーフレットを作成し積極的な広報活動を行いました。

・特定健康診査
混雑状況に応じ検査の順番を変えるなど、受診者へ積極的に声掛けをしながらスムーズな健診の実施に努めました。

・訪問診療について
院内からの受入れはもちろんのこと、他院からの患者の受入れを速やかに行いました。
本人や家族の要望になるべく応じられるよう尽力しました。

◆ 地域社会への取り組み

・地域の医療需要の変化に対応できる地域包括ケアシステムの推進
昭島市、医師会等三師会、昭和郷施設及び近隣事業所と協働し、担当者間の連携を図りました。
健康サロンでは新たな企画を実施した結果、毎回好評でした。

・災害時対応の強化
東京都の「災害拠点連携病院」として、大規模地震時医療活動訓練や地域合同防災訓練に参加しました。訓練の反省や意見交換した内容を、今後の活動に活かしていきます。

◆ 医療人材の育成と職場環境の整備

・働き方改革の取り組み
年間を通じ医師、看護師の採用活動を行い充足に努めました。週休2日を実施し職場環境の充実を図り、離職率の低下につなげました。

・業務に役立つ研修会の実施
e-ラーニングを中心に研修会に積極的に参加しました。

・職場環境の改善
勤怠管理システムの導入を見送り、次年度に向け準備を進めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・患者数の確保(救急患者を含む)
入院・外来患者の目標数を達成するため、病院・診療所等からの紹介患者の受入れを積極的に行いました。
ペットコントロールミーティングで病床稼働や救急患者の受入れについて協議し、決定事項は速やかに院内で周知徹底を行いました。

・病棟再編の検討
診療報酬の改定を受け、高齢救急搬送における現状の課題解決や、地域包括ケアシステムの推進に一定の役割が期待される「地域包括医療病棟」への転換を行いました。また、地域包括ケア病棟のランクアップを実施しました。

・病床稼働率の向上
医局会での報告内容や、病床稼働目標及び実績を医局に掲示するなど、情報共有に努めました。
患者の受入れ可否の判定についてのフローを変更し、速やかに回答できる体制を整えました。

・経費の削減
医薬品や診療材料費及び医療機器などの価格交渉を行い、費用の削減に努めました。

・光熱費の削減計画
ラニーニャ現象により冬は寒く夏は猛暑になった影響で、電気・ガスの使用量が微増となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1・2期(4～9月)		第1・2期(4～9月)	
ベッド	12,270	一般X線撮影間接変換FPD装置	4,070
リハビリ用マット	759	医用テレメーターおよび送信機(×3)	6,908
薬品用冷蔵庫	744	冷温水機整備	2,368
就業管理システム	7,601		
購入等合計	21,374	購入等合計	13,346
第3・4期(10～3月)		第3・4期(10～3月)	
一般X線撮影装置	8,800	一般X線撮影装置	5,775
一般X線撮影間接変換FPD装置	4,510	上部消化管汎用ビデオスコープ	4,871
手術台	16,500	セントラルモニター式	508
診断書作成管理システム	5,278		
上部消化管汎用ビデオスコープ	4,871		
購入等合計	39,959	購入等合計	11,154
年間合計	61,333	年間合計	24,500

【施設利用状況】

患者数推移(1日あたり平均患者数)

	入院	外来
R04(2022)年度	154	330
R05(2023)年度	160	309
R06(2024)年度	159	311

減免内訳

区分			件数	金額
入院	実人数	生活保護	77	—
		健保・国保	17	—
		計	94	—
	延人数	生活保護	749	213,589
		健保・国保	321	722,250
		計	1,070	935,839
外来	延人数	健保・国保	25	256,990
		無	87	624,920
		計	112	881,910
合計			1,276	1,817,749

令和6(2024)年度 事業報告（訪問看護ステーション）

施設名 昭島病院訪問看護ステーション

定員 12 名

【事業実績】

1日平均利用者数	14.5	名	* 目標訪問回数 15.0回/日
介護保険延人数	81	名	
医療保険延人数	13	名	
計	94	名	
男女比率	4.6		
平均年齢	83.8	歳	（最高 98 歳 / 最低 28 歳）

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者や家族の多様な生活状況や病状に寄り添い、24時間体制で対応しました。
- ・終末期を迎えた利用者及びその家族に対し、意思や人権を尊重しながら、個々の看護ニーズに対応しました（ターミナルケア：7名）。
- ・昭島病院総合支援センターと連携し、入院から在宅、在宅から入院へのスムーズな対応に努め、安心して在宅生活が続けられるように支援を行いました。
- ・医療機関、訪問診療、他事業所との連携を密にし、速やかかつ柔軟な対応に努めました。
- ・BCP（感染症・災害対策）の見直し、研修を定期的に行い、安定した事業継続に努めました。
- ・訪問時の手洗い・消毒・マスクの着用を基本として、必要な感染症対策を実施しました。利用者・家族とスタッフ間での感染はなく、安定したサービスを提供することができました。

◆ 地域社会への取組み

- ・昭和郷施設や近隣事業所と積極的に連絡を取り合い、連携強化に努めました。
- ・定期巡回と、ICTツールを使用した情報共有を行い、多職種間で連携を図りました。
- ・担当者会議や医療・介護連携会議に積極的に参加し、他事業所との連携を図りました。
- ・委託契約しているグループホームとは、週1回の訪問看護と24時間体制での電話相談にて体調相談や介護指導等を行い、入居者の体調管理を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・個々のキャリアに合った外部研修や昭島病院内の研修に参加し、知識・スキルの向上に努めました。
- ・ステーション内研修、カンファレンスを毎月実施し、スタッフ間で統一した対応ができる環境を作りました。
- ・職員一人ひとりが安心して働ける職場づくりを目指し、お互いに協力し合い、働きやすい環境を整えました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・今年度より、新たにサービス提供体制加算Ⅰの算定を取れるように体制を整えました。
- ・今年度は39名の依頼があり、新規利用者は31名でした。
- ・1日の訪問回数15件を目指しましたが、14.5件に留まりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延訪問者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	158	161	153	172	150	124	152	130	113	113	114	117	1,657
女性	166	164	157	155	173	181	196	183	179	165	162	178	2,059
合計	324	325	310	327	323	305	348	313	292	278	276	295	3,716

6. 収益事業の経営

1. オフセット・活版印刷事業

施設名 事業局

【経営実績】

前年度の年間受注額が1,900万円の「試験問題」の売上げが2,400万円となり、総収益の7%を占めるまでとなりました。今年度も社会福祉事業への繰入れができました。

また年間受注件数は前年度より100件程減少しましたが、経費も圧縮でき増収増益となりました。その他対前年比で介護用品125%、物品販売103%となりました。

◆ 人材の育成と職場環境の整備

営業担当職員の教育を継続しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・担当顧客の割り振りをを行い、効率的な営業活動を行いました。
- ・新しい機械を購入し、作業時間を短縮しました。
- ・材料費等を圧縮し、経費削減に努めました。
- ・新規顧客の獲得に努めました。

【施設・設備整備計画】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金 額	物件名(購入・工事)	金 額
営業車	3,850	営業車	3,731
製版機	3,520	製版機	3,520
購入等合計	7,370	購入等合計	7,251

2. 不動産賃貸に関する事業

【経営実績】

主に以下の事業を行いました。

1 富士見町駐車場 / 東村山市富士見町2-7-14

旧サンホーム跡地を活用し、駐車場として経営を行いました。

2 土地賃貸業 / 新宿区原町3-8

原町ホーム東側外構の一部を、隣接マンションの緑地帯として有償貸与しました。

3 昭島病院駐車場 / 昭島市中神町1260

昭島病院敷地内で、来院者用駐車場を経営しました。

4 Premier Court南青山 / 港区南青山1-17-8

旧サンライズ青山跡地を活用し、集合住宅を経営しました。(サブリース)

7. 社会貢献事業

1. 学習支援

昭島市社会福祉協議会と連携して市内の生活困窮家庭の子どもへの学習支援及び食事の提供を行いました。

概要	場所	昭和郷高齢者複合施設さくらホール
	開催日	日曜日 10時30分～15時00分 年間24回
	対象	小学3年～中学2年 10名
実績	参加延べ人数	133名(1回の平均出席者数 5.5名)
	食事の提供	24回
	講師	ボランティア:5名(社会人:1名/高校・大学生:4名)/職員:11名 (その他外部講師:1名)
	進学状況	高校受験対象者1名(前年度実績2名)

2. 地域見守り事業「サンホーム配食」

地域高齢者に配食サービスを提供するとともに、配食時の定期的な見守りを実施しました。

概要	対象	9世帯(R7.3.31現在)
実績	配食数	1,761食
	実施日数	258日(週5日)

3. 地域交流事業「昭和郷健康サロン」

昭島病院の医師、看護師等専門職による健康チェックやアドバイス、あわせて理学療法士による健康体操指導や、医師等による健康をテーマとした講演会を開催し、地域交流の場を提供しました。

概要	場所	昭和郷高齢者複合施設 さくらホール
実績	実施回数	9回(6月より再開し、毎月第3土曜日午前中に開催、8月は台風のため中止)
	参加延べ人数	197人

4. 地域交流事業「さくらカフェ」

地域の誰もが参加できるカフェを定期的に開催し、地域交流の場を提供しました。

概要	場所	昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 昭島市中部地域包括支援センター あいぽっく
	開催日	毎月第2土曜日 10時～15時
	内容	カフェ、イベント、ワークショップ
	協力	昭島市役所、昭島市社会福祉協議会、昭島市中部地域包括支援センター ボランティア等
実績	実施回数	10回
	参加延べ人数	422人

5. 利用者負担軽減等

地域における公益的な取組みとして、低所得者世帯等に対する生活支援等を行いました。

① 生活困窮者に対する利用者負担軽減額(昭島病院・特別養護老人ホーム)	2,568,191 円
② その他の地域における公益的な取組み(学習支援・配食サービス等経費)	1,889,736 円

8. 人材育成事業

事業内容	介護職員初任者研修(通信)
目的	介護の現場で働き始めて間もない方、またこれから介護の分野に携わろうとする方に向けて、介護の基礎的な知識・技術を習得する場を提供し、介護福祉士を目指す人材の育成を目的とし、初任者研修を行いました。
期間	2024年9月～2024年12月
内容	通信講習 26時間 / 通学講習 104時間(17日間)
施設実習	通学講習のうち介護実習 8時間
受講者	7名
主な会場	昭和郷高齢者複合施設 さくらホール / 昭島市中神町1260

Ⅲ 職員福利厚生制度

本年度の職員福利厚生事業は下記のように実施しました。

1. 永年勤続者表彰

10年勤続者 26名 20年勤続者 14名 30年勤続職員 3名

定年退職者表彰（定年退職前勤続10年以上の職員対象）

9名

2. 人間ドック健診の実施

40歳、50歳、60歳受診 49名

婦人科検診の実施（35歳以上の女性職員対象）

乳がん検診、子宮がん検診受診 273名（一部自己負担実施事業所分を除く）

3. 福利厚生センター事業の利用

ソウェルクラブ年間加入者数

1種職員 891名 2種職員 183名 計 1,074名

4. 職員のメンタルヘルスケアへの取組み

職員向けカウンセリングサービス（㈱アドバンテッジリスクマネジメント）

職員ならびに家族（同居）、休職者・復帰者への支援カウンセリングを実施

相談件数 60件 利用者延べ数 35名

精神科産業医による休職者および病欠者の個別相談

個別相談利用 23名 延べ回数 44回

5. 待機児童のための一時保育室の運営 昭島市中神町1260

定員 5名

場所 昭和郷第二保育園 保育室「にほにこ」

6. 企業型「選択制」確定拠出年金制度

加入者数 404名（2025年3月現在）

IV 理事会、評議員会及び評議員選任・解任委員会

定款の定めにより、下記の理事会、評議員会及び評議員選任・解任委員会を実施しました。

1. 理事会

第2回、第4回、第5回、第6回及び第7回理事会については、一部オンライン方式による対面形式にて開催し、各議案の審議を行い全議案について可決承認をいただきました。

第1回及び第3回理事会については監事並びに全理事の同意をいただき、決議省略として全理事に全議案について承認の同意をいただきました。

第1回 2024年5月14日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	定款一部改正の件／運営規程一部改正の件／評議員会開催の件				

第2回 2024年6月10日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事)：	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	* 宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	* 上原 淳	田代 秀之	
出席者(監事)：	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名／監事2名		
説明者等：	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事：	令和5年度事業報告の件／令和5年度計算書類等の承認の件／就業規則、給与規程、再雇用職員就業規則、臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則、無期再雇用臨時職員就業規則、非常勤ヘルパー就業規則、昭島病院給与規程及び昭島病院臨時職員就業規則一部改正の件／運営規程及び管理規程一部改正の件／昭和郷北地区の施設改築計画(令和10年度まで)の件／評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会開催の件／役員災害補償保険、役員賠償責任保険(D&O保険)及び雇用慣行賠償責任保険(EPL保険)契約の更新の件／会計監査人の報酬の件／定時評議員会開催の件／令和5年度本会施設における東京都及び区市指導検査による指導事項及び改善報告について／双葉園新規グループホーム開設について／自立ホームいこいの移転改築設計業者の選定について／令和6年度第1回評議員会決議事項の報告について／理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第3回 2024年6月25日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会開催の件／双葉園新規グループホームの建物賃貸借契約の件／経理規程一部改正の件				

第4回 2024年9月10日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	* 宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	田代 秀之		
欠席者(理事):	上原 淳				
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事8名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事:	組織規程一部改正の件/専決規程一部改正の件/運営規程全部改正の件/内部通報に関する規程制定の件/(仮称)久我山生活園開設のための準備資金の件/(仮称)久我山生活園開設のための借入及び施設間繰入の件/つつじが丘保育園中規模改修工事の件/昭和郷北地区の施設改築計画(令和10年度まで)について/予備費使用の報告について				

第5回 2024年10月18日 於：原町高齢者複合施設 会議室

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事:	令和6年度第1次補正予算の件/法人本部運営経費繰入れの件/臨時職員就業規則、昭島病院臨時職員就業規則、事業局臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則及び非常勤ヘルパー就業規則一部改正の件/運営規程全部改正の件(高齢者支援系グループ指定居宅介護支援事業所及び小規模多機能居宅介護センター)/(仮称)久我山生活園における備品調達にかかる契約手続きに関する件/施設長等人事の件/評議員選任・解任委員会運営細則一部改正の件/昭和郷北地区の施設改築計画(令和10年度まで)の件/評議員会開催の件/令和7年度採用状況について/令和7年度昭和郷給食センター食事サービス提供業務委託について/昭和郷第二保育園北園舎の活用について/令和6年度予備費の使用について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第6回 2025年2月17日 於：原町高齢者複合施設 会議室

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	田代 秀之		
欠席者(理事):	上原 淳				
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事8名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事:	就業規則、給与規程、再雇用職員就業規則、臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則及び無期再雇用臨時職員就業規則一部改正の件/事業局就業規則、事業局再雇用職員就業規則、事業局給与規程、事業局臨時職員就業規則及び定年年齢引き上げ移行に関する取扱規程一部改正の件/育児・介護休業等に関する規則一部改正の件/施設長等人事の件/令和7年度採用状況について/(仮称)久我山生活園開設について/万世敬老園の状況について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第7回 2025年3月19日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	* 宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事:	令和6年度第2次補正予算の件/令和7年度事業計画の件/令和7年度予算の件/ 万世敬老園廃止の件/定款、組織規程及び経理規程一部改正の件/運営規程廃止、 制定及び一部改正の件/令和7年度昭和郷給食センター食事サービス提供業務委託 契約の件/評議員会開催の件/令和7年度採用状況(確定)について/予備費の使用 状況について				

※ 理事及び監事一覧(任期:2025年6月定時評議員会まで)

理 事 長	飯山 幸雄					
常 務 理 事	横山 宏					
理 事	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子	西村 七重	雑賀 真	
	上原 淳	田代 秀之				
監 事	鈴木 道生	根本 昌廣				

2. 評議員会

第2回、第3回、第4回評議員会については、一部オンライン方式による対面形式にて開催し、各議案の審議を行い全議案について可決承認をいただきました。

第1回評議員会については全評議員の同意をいただき、決議省略として全評議員に全議案について承認の同意をいただきました。

第1回 2024年5月19日（決議の省略による）

提案者：	飯山 幸雄				
同意者（評議員）：	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁
議 事：	定款一部改正の件				

第2回 2024年6月28日 於：ホテルグランドヒル市ヶ谷

出席者（評議員）：	五十嵐力平	本山美八郎	堀 茂	岡橋 生幸	飯村 史恵
	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之		
欠席者（評議員）：	川向 良和	七島 晴仁	出席：評議員8名／監事2名		
出席者（監事）：	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等：	飯山 幸雄	横山 宏			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事：	令和6年度第2回及び第3回理事会決議事項等について／令和5年度事業報告及び計算書類等について／監事監査報告及び会計監査人報告について				

第3回 2024年10月30日 於：原町高齢者複合施設 会議室

出席者（評議員）：	本山美八郎	堀 茂	岡橋 生幸	田中 康道	吉村 晴美
	細谷 訓之	陣野原 伸幸	折居 千恵子		
欠席者（評議員）：	飯村 史恵	久保田 義幸	出席：評議員8名／監事2名		
出席者（監事）：	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等：	飯山 幸雄	横山 宏			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事：	令和6年度第4回及び第5回理事会決議事項等について／令和6年度第1次補正予算の件 ／法人本部運営経費繰入れの件				

第4回 2025年3月27日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(評議員):	* 本山美八郎	堀 茂	岡橋 生幸	飯村 史恵	田中 康道
	吉村 晴美	細谷 訓之	久保田 義幸	折居 千恵子	
欠席者(評議員):	陣野原 伸幸		出席:評議員9名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	飯山 幸雄	横山 宏			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	池田 デジタル推進 担当課長
議 事:	令和6年度第6回及び第7回理事会決議事項等について/令和6年度第2次補正予算の件 /法人本部運営経費繰入れの件/令和7年度事業計画の件/令和7年度予算の件/定 款一部改正の件				

※ 評議員一覧(任期:2024年6月30日まで)

評 議 員	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁

※ 評議員一覧(任期:2025年6月定時評議員会まで)

評 議 員	本山美八郎	堀 茂	岡橋 生幸	飯村 史恵	田中 康道
	吉村 晴美	細谷 訓之	久保田 義幸	折居 千恵子	陣野原 伸幸

3. 評議員選任・解任委員会

第1回 2024年6月10日 於：原町高齢者複合施設 会議室

出席者(委員):	野村 寛	鈴木 武夫	森 祐二郎	根本 昌廣	魚津 亮太
説明者等 :	飯山 幸雄	横山 宏			
議 事:	評議員選任の件				

第2回 2024年6月30日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(委員):	野村 寛	鈴木 武夫	森 祐二郎	根本 昌廣	魚津 亮太
議 事:	評議員選任の件				

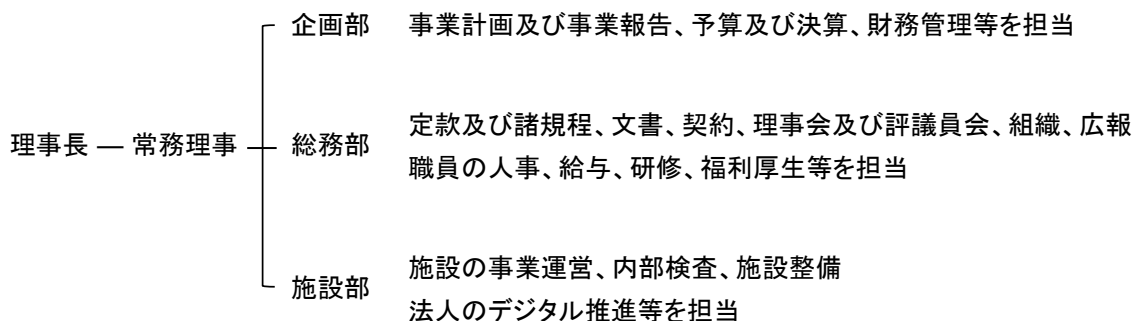
※ 評議員選任・解任委員一覧(任期:2025年6月定時評議員会まで)

評 議 員 選任・解任委員	野村 寛	鈴木 武夫	森 祐二郎	根本 昌廣	魚津 亮太
------------------	------	-------	-------	-------	-------

V 事務局主要業務

理事長、常務理事を補佐し、本会全体に関わる各種業務の円滑な執行を図るため、企画部・総務部・施設部の三部制により業務を行いました。

1. 組織



2. 事業計画・予算等の総括

2023年度事業報告、決算等の原案、2024年度事業計画、予算及び補正予算の原案等を取りまとめ、理事会及び評議員会に提案し、承認を得ました。

3. 中長期計画の実施状況

◆ 利用者支援サービスの充実

－ 生活環境・利用環境の向上の取組み －

- ・障害福祉施設の建設(リーフぽけっと／2025年4月1日事業開始)
- ・園庭整備(むさしの保育園)
- ・空調設備整備(むさしの保育園、昭島荘、原町ホーム、さやま園、サンライズ武蔵野)
- ・保育室の洗面台の交換(同援さくら保育園)
- ・電動ベットの交換(昭島荘、フジホーム、ひかり苑、昭島病院)
- ・PCの入替(16拠点)
- ・医療機器更新(昭島病院)

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

－ 生産性の向上に向けた職場環境の見直し －

- ・管理職員を中心に、働きたいと思う職場、働きやすい職場となるようにこれまでの業務の構造自体の見直しをはじめました。
- ・特に整理整頓、片付けに着目し、職場内の環境改善に努めました。
- ・DX推進の正しい理解を促し、デジタル技術を活用した業務改善の動機づけを行いました。

－ 給与規程の見直し －

- ・令和10年度から65歳定年となることから、待遇差を是正するため、再雇用職員の賞与支給率の改善を行いました。
- ・人事考課の結果による勤勉手当を年度内に支給し、評価結果を迅速に反映することとしました。
- ・法人内での「副業」(時間外その他施設での勤務)を全職員に周知し、異なる施設間での従事を可能にしました。

－ 人事考課の適正な実施 －

- ・考課者向けの研修では、事例検討やディスカッションを通じて実施上の課題抽出を行いました。
- ・管理職員等考課者には、「1on1研修」を通じ、職員の思いに「共感」し、職員の能力を最大限引き出す面接技法の取得に努めました。

－ 人材の確保 －

- ・保育士の採用を強化したほか、職員紹介制度のさらなる拡充を行いました。
- ・都外の就職希望者を確保するため、地方の養成校及び大学向けにオンライン説明会を実施しました。
- ・新卒一括採用からキャリア採用にシフトし、採用ホームページをリニューアルしました。

－ 人材の育成 －

- ・職員の支援力を向上させるため、メンタルトレーニング研修を実施しました。
- ・法人全体での階層別研修、各支援系グループでのグループ研修及び施設内研修を行いました。

－ 人材の定着に向けた取組み －

- ・ベースアップ及び職員の処遇改善を図るため、給与規程改正の検討を行いました。
- ・職場内における災害予防の呼びかけを行うなど、安心して就業できる環境づくりを目指しました。
- ・正規転換を希望する非常勤職員に対し、正規転換試験を実施しました。

－ 多様な働き方へ向けた取組み －

- ・デジタル推進担当と連携しモバイル端末を増備したほか、施設のWi-Fi設備を拡充しました。
- ・介護保険施設等の臨時職員に対する退職共済制度を見直しました。
- ・感染症対策で導入した時差出勤制度を継続し、各施設でも柔軟な対応を行いました。

－ 職員の災害防止 －

- ・新規採用者に対する腰痛予防研修を必須としました。
- ・近年増加する自転車事故を予防するため、自転車の安全運転を呼びかけました。

－ ICT人材の育成 －

- ・会議録作成時間の大幅な削減を目的としてAI議事録作成ソフトを導入し、その普及に努めました。導入前の懸念に対し、概ね良好な評価を得ています。
- ・情報漏洩リスクの低減とセキュリティ意識の向上を図るため、情報セキュリティ教育と対策を強化しています。また、セキュリティハンドブックの改訂に取り組み始めました。

－ 心身状況に応じて働ける場づくり －

- ・産業医と連携し、心身状況に応じた業務配慮及び就業環境の整備に努めました。
- ・団体長期障害所得補償保険（GLTD）に加入し、休業時の保障を拡充しました。

◆ 法人組織・マネジメント強化

－ ガバナンスの強化・コンプライアンスの徹底 －

- ・内部通報に関する規程を制定し、職員に周知しました。
- ・内部検査を実施し、法令に沿った適切な施設運営となっているかどうかの点検を行いました。
- ・就業規則等に違反した職員に対し、人事委員会を開催し処分等を行いました。

－ 危機管理体制の強化 －

- ・新型コロナウイルス感染症クラスター発生施設に対し必要に応じて緊急事態対策室を設置し各グループと連携しながら課題解決を図りました。
- ・不適切ケア及び虐待の防止のため、法人として虐待防止マニュアルを策定し、虐待防止委員会を設置しました。また、虐待予防に特化した研修計画を作成しました。

－ 財務規律の強化 －

- ・実績に応じた予算を作成するとともに、月次予算の厳格な執行管理を行い、法人全体の財務基盤の強化につなげました。
- ・法人のスケールメリットを活かした安全で確実な資産の運用を行い資産増加に努めました。
- ・集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業で安定的に収益を確保できたことで、財務基盤の強化につながりました。
- ・定期的に会計監査人監査・監事監査を実施しました。
- ・キャッシュレス化への取組みとして、QRコード決済やカード決済、自動口座振替の普及促進に努めました。

－ 情報発信の取組み －

広報誌については、デザインを変更し、より親しみやすい印象を与えるものに仕上げました。幅広い年代層に向けて興味を惹くキャッチコピーや小見出しなども工夫することで、読みやすく魅力ある広報誌の作成に努めました。今後はブランディングを意識した記事の選定を行い、本会の魅力を発信するとともに求人活動にも繋がります。

4. 指導検査・法人内部検査

① 東京都による指導検査

東京都による施設の適正運営のための指導検査は、下記により行われました。指導を受けた項目については、速やかに改善しました。

双葉園	11 月 20 日
-----	-----------

② 区市による指導検査

区市による施設の運営・サービスの実地検査は下記により行われました。指導を受けた項目については、速やかに改善しました。

ア. 港区

みなと保育園	1 月 16 日
--------	----------

イ. 板橋区

同援みどり保育園	1 月 17 日
----------	----------

ウ. 新宿区

原町グループホーム	1 月 30 日
-----------	----------

エ. 昭島市

グループホームかえで	2 月 12 日
------------	----------

オ. 杉並区

同援いぐさ保育園	2 月 13 日
----------	----------

③ 法人内部検査

経理規程及び内部検査実施要綱に基づき、事務局職員等による内部検査を下記のとおり実施しました。検査員からの指摘事項は速やかに改善しました。

むさしの保育園	6 月 18 日	昭島荘	6 月 20 日
双葉園	6 月 25 日	児童センターぱれっと	6 月 27 日
大山保育園	7 月 2 日	さくらんぼ	7 月 4 日
同援さくら保育園	7 月 9 日	ゆたか苑	7 月 16 日
つつじが丘保育園	7 月 18 日	事業局	7 月 22 日
同援はいじま保育園	7 月 23 日	原町ホーム	7 月 25 日
ひかり苑	7 月 30 日	小茂根福祉園	9 月 2 日
さやま園	9 月 3 日	同援みどり保育園	9 月 5 日
原町高齢者複合施設	9 月 10 日	フジホーム	9 月 17 日
昭和郷第二保育園	9 月 19 日	ニューフジホーム	9 月 24 日
昭和郷保育園	9 月 26 日	東村山生活実習所	10 月 1 日
サンライズ万世	10 月 3 日	自立ホームいこい	10 月 4 日

昭和郷高齢者複合施設	10 月 24 日	立川福祉作業所	10 月 29 日
さいわい福祉センター	10 月 31 日	サンホーム	11 月 5 日
みなと保育園	11 月 12 日	同援いぐさ保育園	11 月 14 日
昭島病院	11 月 19 日	サンライズ武蔵野	11 月 26 日

④ 会計監査人監査

定款第19条の定めにより、5月24日に、会計監査人による法人の計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書）並びにこれらの付属明細書及び財産目録の監査結果について報告が行なわれ、監査の結果は適正であると認められました。（無限定適正意見）

⑤ 監事監査

監事による監査は、法人事務局並びに昭島病院・事業局について月1回定期的に行われ、施設についても下記のとおり実施されました。指摘を受ける事項は認められませんでした、助言等を運営改善に活かしました。

なお、5月30日に定款第18条の定めにより法人の事業報告書及びその付属明細書、計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書）及びその付属明細書並びに財産目録の監査が行われ、監査の結果は適正であると認められました。

利用者預り金関係 6 月 16 日 ・ 6 月 20 日 ・ 6 月 24 日

サンライズ武蔵野	双葉園	昭島荘
万世敬老園	フジホーム	ニューフジホーム
原町ホーム	ゆたか苑	ひかり苑
さやま園	さくらんぼ	アミニティ富士見
夢オハナ	レヂオンス巣鴨	

施設運営関係

児童センターぱれっと	6 月 27 日	同援さくら保育園	7 月 9 日
ひかり苑	7 月 30 日	さやま園	9 月 3 日
昭和郷第二保育園	9 月 19 日	昭和郷保育園	9 月 26 日

VI 施設長会及び各種委員会

1. 施設長会議

原則として、毎月第1水曜日に、事務局からの報告、連絡及び提案等の協議を行うための施設長会議を開催しました。

第1回 2024年4月3日 於：小田急ホテルセンチュリーサザンタワー

- ・役員会(2024.3.13/3.25)報告/2024年度事業計画と当初予算について
- ・2024年2月分月次実績報告(施設・病院)
- ・GLTD(団体長期障害所得補償保険)制度について/労働契約について/障害者雇用について
- ・2024年度各委員会・施設長会日程
- ・本会における管理職員の再定義について/職員の処遇改善について

第2回 2024年5月8日 於：オンライン開催

- ・2024年3月分月次実績報告(施設)
- ・職場ハラスメントの相談及び対応、従業員メンタルヘルスケア状況について
- ・職員紹介制度の活用について
- ・選択制企業型確定拠出年金(ライフプラン手当)加入について

第3回 2024年6月5日 於：オンライン開催

- ・2023年度事業報告/決算報告
- ・永年勤続者表彰について/クールビズ実施期間について
- ・夏季賞与について/有給休暇及びリフレッシュ休暇について
- ・正規職員離職率について/副施設長等の労務管理の適正化について

第4回 2024年7月3日 於：オンライン開催

- ・役員会(2024.5.14/5.19/6.10/6.28/6.30)報告/2024年5月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び各種規程の改正について/昇給通知の交付方法の変更について
- ・ストレスチェックの実施について/個人情報の適切な取扱いについて
- ・長時間労働防止及び時間外労働の適正な取扱い/職員の事故防止対策について
- ・役員会名簿/安全推進者・衛生管理者等の選任について

第5回 2024年9月4日 於：オンライン開催

- ・2024年7月分月次実績報告(施設・病院)
- ・永年勤続者表彰式及び特別休暇取得について/正規転換・管理職候補者試験の実施について
- ・研修(人事考課研修等)について/2025年度4月採用内定状況について
- ・ストレスチェックの実施状況/休日等の他施設勤務(法人内副業)について
- ・事務局への事前・事後相談について

第6回 2024年10月2日 於：オンライン開催

- ・役員会(2024.9.10)報告/2024年8月分月次実績報告(施設・病院)
- ・人事関係(採用方針・2025年4月採用内定者状況・異動・正規転換等)について
- ・最低賃金引上げ及び物価高騰に対する対応について/通勤手当の適切な支給について
- ・特別雇用者(70歳超の職員)の契約について
- ・ストレスチェックの受検結果と活用方法について
- ・職員の業務災害(事故)報告について

第7回 2024年11月6日 於：オンライン開催

- ・役員会(2024.10.18／10.30)報告
- ・2024年9月分月次実績報告(施設・病院)
- ・2024年度第1次補正予算について
- ・賞与(冬季)支給について
- ・2025年度4月採用内定者数について
- ・各日程(管理職候補者等研修、人事考課研修、正規転換試験等)について

第8回 2024年12月4日 於：オンライン開催

- ・2024年10月分月次実績報告(施設・病院)
- ・利用者への虐待及び不適切支援の防止並びに職員への適切な指導について
- ・職員の自転車運転安全指導について／職員の健康管理の徹底について
- ・職場におけるハラスメント防止／カスタマーハラスメント防止について
- ・年末年始における施設運営管理について／10年間の整備計画の作成について
- ・Bizブリカカードアンケート実施について

第9回 2025年1月15日 於：小田急ホテルセンチュリーサザンタワー

- ・2024年11月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規程等の改正案について
- ・有給休暇の義務化について
- ・2025年度採用内定者研修・辞令交付式について
- ・ホームページ等における画像、イラストの使用について

第10回 2025年2月5日 於：オンライン開催

- ・2024年12月分月次実績報告(施設・病院)
- ・2025年度事業計画、当初予算ヒアリング日程
- ・就業規則等の一部改正について
- ・休日等勤務(法人内副業)について
- ・2025年度自転車保険について
- ・辞令交付式、定年退職者表彰等の日程について
- ・ユニセフ募金活動について

第11回 2025年3月5日 於：オンライン開催

- ・役員会(2025.2.17)報告
- ・2025年1月分月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程等各規則の改正／2024年度賞与(勤勉手当)の支給について
- ・2025年度副施設長等の人事異動について
- ・2026年度新規採用関係日程について
- ・職員の「心理的安全性」について
- ・介護保険施設、障害者支援施設及び児童厚生施設の臨時職員の退職共済制度について

2. 各種委員会

2024年度事業計画の定めにより、下記の委員会を設け業務を遂行しました。

(1) 総合企画委員会

委員： ○ 神田 祐一 魚津 亮太 岡本 勝巳 山川 浩一
唐澤 江里子 浅見 文隆 荒井 隆夫 田代 秀之

本会の事業全般にわたる企画、立案、計画等基本的な事項について調査、審議しました。総合企画委員会については本会の重要事項について議論し、理事長へ意見を進達する機関としました。また他の委員会の所掌事務について必要な進行管理を行いました。

第1回 2024年4月3日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2024.3.13/3.25)報告/2024年度事業計画と当初予算について
- ・2024年2月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職員の処遇改善について/労働契約について/障害者雇用について
- ・2024年度各委員会名簿について/本会における管理職員の再定義について
- ・DX推進について/GLTD(団体長期障害所得補償保険)制度について

第2回 2024年5月8日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2024年3月分月次実績報告(施設)
- ・職場ハラスメントの相談及び対応、従業員メンタルヘルスケア状況の報告

第3回 2024年6月5日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2023年度事業報告/決算報告
- ・永年勤続者表彰について
- ・賞与(夏季)の支給について
- ・正規職員離職率について/副施設長等の労務管理の適正化について

第4回 2024年7月3日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2024.5.14/5.19/6.10/6.25/6.28/6.30)報告
- ・2024年5月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び各種規程の改正について
- ・個人情報の適切な取扱いについて
- ・長時間労働防止及び時間外労働の適正な取扱い/職員の事故防止対策について
- ・役員会名簿/安全推進者・衛生管理者等の選任について

第5回 2024年9月4日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2024年7月分月次実績報告(施設・病院)
- ・永年勤続者表彰について
- ・休日等の他施設勤務(法人内副業)について
- ・社会福祉施設職員等退職共済制度の未加入の取扱いについて

第6回 2024年10月2日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2024.9.10)報告
- ・2024年8月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職員の異動と正規転換について
- ・最低賃金引上げ及び物価高騰に対する対応について
- ・特別雇用者(70歳超の職員)の契約について

第7回 2024年11月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2024.10.18／10.30)報告
- ・2024年9月分月次実績報告(施設・病院)
- ・2024年度第1次補正予算について
- ・賞与(冬季)の支給について

第8回 2024年12月4日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2024年10月分月次実績報告(施設・病院)
- ・利用者への虐待及び不適切支援の防止並びに職員への適切な指導について
- ・職場におけるハラスメント防止／カスタマーハラスメント防止について
- ・年末年始における施設運営管理について
- ・10年間の整備計画の作成について

第9回 2025年1月15日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2024年11月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規程等の改正案について
- ・有給休暇の義務化について
- ・ホームページ等における画像、イラストの使用について
- ・2025年度事業計画、当初予算ヒアリング日程

第10回 2025年2月5日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2024年12月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則等の一部改正について
- ・休日等勤務(法人内副業)について
- ・辞令交付式・定年退職者表彰等の日程について

第11回 2025年3月5日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2025.2.17)報告
- ・2025年1月分月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程等各規則の改正について／2024年度賞与(勤勉手当)の支給について
- ・2025年度副施設長等の人事異動について
- ・介護保険施設、障害者支援施設及び児童厚生施設の臨時職員の退職共済制度について
- ・社会貢献活動(子ども食堂)について

(2) 人事委員会

委員： ○ 魚津 亮太 神田 祐一 岡本 勝巳
唐澤 江里子 浅見 文隆 荒井 隆夫 田代 秀之

施設の幹部職員の任用・降格、職員の表彰・懲戒、採用、人材育成等、人事に関する必要事項を審議しました。

実施日		内 容	処 分 等
1	4月12日	・入職時の履歴書詐称	減給 1名
2	12月 4日	・利用者に対する虐待等(不適切な支援)について ・USBフラッシュメモリの紛失及び個人情報保護違反について	減給 1名 / けん責 3名 けん責 1名
3	2月28日	・利用者に対する虐待等(暴行事案)について	論旨解雇 1名

(3) 規程整備委員会

委員： ○ 魚津 亮太 神田 祐一 岡本 勝巳 山川 浩一
阿部 英子 柴田 聖子 工藤 かおる 山脇 啓子
田中 啓史 渡邊 朝紀 倉井 絵理子

本会の組織、人事、給与及びその他諸制度に関する規程について検討し整備しました。

第1回 2024年4月19日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

・令和5年度福祉・介護職員処遇改善支援事業に伴う一時金について
・令和6年度4月以降のベースアップ等の対応について
・管理職の再定義と管理職手当の再編について／通勤手当について

第2回 2024年5月16日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

・令和5年度福祉・介護職員処遇改善支援事業に伴う一時金について
・令和6年度4月以降のベースアップ等の対応について
・介護職員等に対する特別居住支援手当及び特別居住手当の支給について
・管理職の再定義と管理職手当の再編について／令和6年度の賞与について

第3回 2024年6月20日 於：オンライン開催

・理事会報告
・副施設長等の労務管理の適正化について／令和6年度6月施行の規程改正の問題点について
・56歳以上の賞与支給率の見直しについて／退職金について

第4回 2024年7月12日 於：オンライン開催

・56歳以上の賞与支給率の見直しについて／退職金について
・育児・介護休業に関する規則の改正について

第5回 2024年8月23日 於：資料の回覧による

・56歳以上の賞与支給率の見直しについて／令和7年4月改正「育児・介護休業等に関する規則」について
・介護保険施設等及び障害者支援施設の臨時職員の退職金について

第6回 2024年9月13日 於：オンライン開催

- ・9月理事会報告／10月理事会提出議案について
- ・56歳以上の賞与支給率の見直しについて

第7回 2024年9月27日 於：フジホーム いこいの広場

- ・10月理事会提出議案について
- ・56歳以上の賞与支給率の見直しについて／退職金について

第8回 2024年10月25日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・10月理事会の報告
- ・56歳以上の賞与支給率の見直しについて／特別調整手当の支給終了に伴うベースアップについて
- ・高齢者支援系グループの処遇改善について／事業局の規程について
- ・東京労働局の聞き取り調査について／育児・介護休業に関する規則の改正について

第9回 2024年11月15日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・56歳以上の賞与支給率の見直しについて／ベースアップ等について／初任給の引き上げについて
- ・高齢者支援系グループの処遇改善について／事業局の規程について
- ・育児・介護休業に関する規則の改正について
- ・介護保険施設等における臨時職員の退職共済制度加入について

第10回 2024年12月20日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・ベースアップ及び特別調整手当の支給終了について／56歳以上の賞与支給率の見直しについて
- ・高齢者支援系グループの処遇改善について／育児・介護休業に関する規則の改正について
- ・自立ホームいこい職員に対する令和6年度末一時金の支給について
- ・介護保険施設等における臨時職員の退職共済制度加入について／事業局の規程について

第11回 2025年1月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・ベースアップ及び特別調整手当の支給終了について／56歳以上の賞与支給率の見直しについて
- ・高齢者支援系グループの処遇改善について／育児・介護休業に関する規則の改正について
- ・介護保険施設等における臨時職員の退職共済制度加入について／事業局の規程について

第12回 2025年2月21日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2月理事会報告／3月理事会及び6月理事会における規程改正案提出について
- ・各グループの処遇改善への対応について(グループ報告)
- ・育児・介護休業に関する規則の改正について
- ・令和7年度事業計画について

第13回 2025年3月28日 於：リーフぽけっと 地域開放室

- ・3月理事会報告
- ・6月理事会における規程改正案提出について
- ・かえでの虐待事案について(報告)
- ・育児・介護休業に関する規則の改正について
- ・令和7年度事業計画について

(4) 研修委員会

委員： 魚津 亮太
○ 山口 慎二 鈴木 円香 清水 淳子 川村 純子 小金澤 康哲
宮本 浩史 片岡 由佳 山中 誠一 河野 直樹 飯島 一憲
原田 裕子

本会職員の研修に関し、企画・実施しました。

第1回 2024年5月10日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・年間の研修予定と分担の確認
- ・実施研修報告(1on1コミュニケーション研修①、メンタルトレーニング研修①)
- ・研修計画進捗確認(基礎研修、法人キャリアデザイン研修①、メンタルトレーニング研修②)

第2回 2024年6月7日 於：オンライン開催

- ・実施研修報告(基礎研修、法人キャリアデザイン研修①、メンタルトレーニング研修②)
- ・研修計画進捗確認(1on1コミュニケーション研修②)
- ・法務省矯正研修所見学の日程調整

第3回 2024年7月5日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・実施研修報告(1on1コミュニケーション研修②)
- ・研修計画進捗確認(メンタルトレーニング研修③、片付け研修、上級研修フォローアップ研修)
- ・内容確認(法人キャリアデザイン研修②)

第4回 2024年8月2日 於：昭和郷第二保育園 会議室

- ・研修計画進捗確認
(メンタルトレーニング研修③、片付け研修、1on1コミュニケーション研修③、上級研修フォローアップ研修)
- ・次年度以降の研修について
- ・地域向け公開講座について(内容、講師等の検討)

第5回 2024年9月6日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・実施研修報告(メンタルトレーニング研修③、片付け研修、1on1コミュニケーション研修③)
- ・研修計画進捗確認(上級研修フォローアップ研修、新任フォローアップ研修、法人キャリアデザイン研修②)
- ・矯正研修所見学会について
- ・地域向け公開講座について(内容、講師等の検討)

第6回 2024年10月26日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・実施研修報告(上級研修フォローアップ研修、新任フォローアップ研修、1on1コミュニケーション研修④)
- ・研修計画進捗確認(メンタルトレーニング研修④⑤、法人キャリアデザイン研修②)
- ・次年度以降の研修について
- ・地域向け公開講座について(内容、講師等の決定)

第7回 2024年11月8日 於：昭和郷第二保育園 会議室

- ・矯正研修所見学会(10/25)の報告
- ・研修計画進捗確認(メンタルトレーニング研修④⑤、法人キャリアデザイン研修②)
- ・次年度の研修について(新規研修の提案等)

第8回 2024年12月12日 於：昭和郷第二保育園 会議室

- ・実施研修報告(メンタルトレーニング研修④、1on1コミュニケーション研修⑤)
- ・研修計画進捗確認(メンタルトレーニング研修⑤、法人キャリアデザイン研修②)
- ・次年度の研修について(研修業者によるプレゼンテーション、虐待防止研修について)

第9回 2025年1月9日 於：昭和郷第二保育園 会議室

- ・研修計画進捗確認(法人キャリアデザイン研修②)
- ・次年度の研修の決定(地域向け公開講座見送り)

第10回 2025年2月7日 於：オンライン

- ・実施研修報告(メンタルトレーニング研修⑤、法人キャリアデザイン研修②、1on1コミュニケーション研修⑥)
- ・研修計画進捗確認(新任研修)
- ・今年度の反省と次年度に向けて

2024年度 法人研修実績

実 施 日	研 修 概 要	目 的
4月11日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00 5月9日(木) C班 09:30～12:30 D班 14:00～17:00	階層別「1on1コミュニケーション研修①」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参 加：4.11)28名 / 5.9)37名 内 容： ・メタ認知とは ・1on1の技術と実践 ・振り返り 講 師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・職員個々の能力や想いを引き出せるよう心理的安全のある関係性を築き、組織と職員の同時成長を促す技術を習得する。 ・年間を通じてロールプレイングを繰り返し行い、1on1ミーティングの技法やコーチングを学ぶ。
4月22日(月) 13:30～16:30	課題別「メンタルトレーニング研修①」 会 場：日本教育会館(中会議室) 対 象：新卒採用職員等 参 加：53名 内 容： ・ご機嫌の価値 ・ヒューマンリテラシーについて ・8つのライフスキル思考 講 師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	・学生から社会人となり生活環境が大きく変化する中で、公私ともにモチベーションアップを図る。 ・日常生活や私生活も含め、自己のパフォーマンスを最大化する。 ・ご機嫌「FLOW理論」を習慣化する。
5月23日(木) 10:00～17:00	階層別「基礎研修」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：1級職員・非常勤職員等 参 加：37名 内 容： ・社会福祉法人に求められる役割、背景 ・コミュニケーションとは ・LIFOの自己診断における強みの確認 講 師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	・自職場の役割認識、業務を円滑に遂行する「報連相」とコミュニケーションスキルの向上を図る。 ・人は必ずバイアス(信念、意見、心的態度、先入観等)の影響を受ける。自身と他者がどのようなバイアスを持っているか、自己理解と他者理解を促進する。
6月6日(木) 09:30～17:00	階層別「法人キャリアデザイン研修①」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：1級職員等 参 加：29名 内 容： ・本会のグループ長より、それぞれのグループで必要としている職員像と想いを伝える ・質疑応答 講 師：本会各支援系グループ長	職員にキャリアデザインをイメージしてもらい、自身に求められるスキルの認識につなげる。

実 施 日	研 修 概 要	目 的
6月6日(木) 13:30～16:30	課題別「メンタルトレーニング研修②」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：全職員 参 加：31名 内 容： ・ご機嫌の価値 ・ヒューマンリテラシーについて ・8つのライフスキル思考 講 師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	・職員が平常心で物事に臨み、自己のパフォーマンスを最大限に発揮できるような心の持ち方を学ぶ。 ・日々のメンタルトレーニングの実践方法について学ぶ。 ・ご機嫌「FLOW理論」を習慣化する。
6月13日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00 7月11日(木) C班 09:30～12:30 D班 14:00～17:00	階層別「1on1コミュニケーション研修②」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参 加：6.13)27名 / 7.11)34名 内 容： ・傾聴力、対話力を高める認知の4点セット ・1on1の技術と実践 ・コミュニケーションとは 講 師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・職員個々の能力や想いを引き出せるよう心理的安全のある関係性を築き、組織と職員の同時成長を促す技術を習得する。 ・年間を通じてロールプレイングを繰り返し行い、1on1ミーティングの技法やコーチングを学ぶ。
8月19日(木) 09:30～12:30	課題別「メンタルトレーニング研修③」 会 場：日本教育会館（第三会議室） 対 象：全職員 参 加：29名 内 容： ・ご機嫌の価値 ・ヒューマンリテラシーについて ・8つのライフスキル思考 講 師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	・職員が平常心で物事に臨み、自己のパフォーマンスを最大限に発揮できるような心の持ち方を学ぶ。 ・日々のメンタルトレーニングの実践方法について学ぶ。 ・ご機嫌「FLOW理論」を習慣化する。
8月19日(木) 09:30～16:30	課題別「片付け研修」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：全職員 参 加：36名 内 容： ・整理整頓が職場を劇的に変える ・仕組み化と習慣化、整理の4つのステップ ・確実に成果を得る3ステップ 講 師：(株)スッキリ・ラボ 片付け士 小松 易 氏	片付けを通して、安全に作業の効率化を図ること、チームのコミュニケーションを活性化させることを学び、仕事の質の向上につなげる。

実 施 日	研 修 概 要	目 的
8月22日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00 9月12日(木) C班 09:30～12:30 D班 14:00～17:00	階層別「1on1コミュニケーション研修③」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参 加：8.22)28名 / 9.12)30名 内 容： ・3つの承認(存在、経過、結果の承認) ・1on1の技術と実践 ・マネジメント技術としてのコミュニケーション 講 師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・職員個々の能力や想いを引き出せるよう心理的安全のある関係性を築き、組織と職員の同時成長を促す技術を習得する。 ・年間を通じてロールプレイングを繰り返し行い、1on1ミーティングの技法やコーチングを学ぶ。
9月11日(木) 10:00～17:00	階層別「上級研修フォローアップ研修」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：3級職員・主任・副主任 参 加：27名 内 容： ・上級研修後の振り返り ・リーダーシップの7つの役割 ・「チーム運営のガイドライン」演習 講 師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	・上級職員として、理念と目標を実現するために必要な環境整備やメンバー、他部署への働きかけができるようにリーダーシップを身に付ける。 ・リーダーとしてチーム内職員のフォローができる。 ・管理職の意向ををチームに反映させ、また管理者に提案ができる。
10月3日(木) 09:30～16:30	階層別「新任フォローアップ研修」 会 場：日本教育会館(中会議室) 対 象：2024年度採用職員 参 加：46名 内 容： ・職場でのコミュニケーションの振り返り ・自己のブラッシュアップと自己管理 ・双方向のコミュニケーションスキルの向上 講 師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)	配属後約6カ月の職場での自身を振り返り、現在の自分自身の棚卸しを行うとともに、次のステップへ向けた目標設定を行う。
10月10日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00 11月14日(木) C班 09:30～12:30 D班 14:00～17:00	階層別「1on1コミュニケーション研修④」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参 加：10.10)27名 / 11.14)26名 内 容： ・人を成長させるフィードバックの技術 ・1on1の技術と実践 ・振り返り 講 師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・職員個々の能力や想いを引き出せるよう心理的安全のある関係性を築き、組織と職員の同時成長を促す技術を習得する。 ・年間を通じてロールプレイングを繰り返し行い、1on1ミーティングの技法やコーチングを学ぶ。

実 施 日	研 修 概 要	目 的
11月28日(月) 13:30～16:30	課題別「メンタルトレーニング研修④」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：全職員 参 加：30名 内 容： ・ご機嫌の価値 ・ヒューマンリテラシーについて ・8つのライフスキル思考 講 師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	・職員が平常心で物事に臨み、自己のパフォーマンスを最大限に発揮できるような心の持ち方を学ぶ。 ・日々のメンタルトレーニングの実践方法について学ぶ。 ・ご機嫌「FLOW理論」を習慣化する。
12月12日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00 1月16日(木) C班 09:30～12:30 D班 14:00～17:00	階層別「1on1コミュニケーション研修⑤」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参 加：12.12)26名 / 1.16)27名 内 容： ・人を成長させるフィードバックの技術 ・1on1の技術と実践 ・場外(面談以外)での1on1コミュニケーション 講 師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・職員個々の能力や想いを引き出せるよう心理的安全のある関係性を築き、組織と職員の同時成長を促す技術を習得する。 ・年間を通じてロールプレイングを繰り返し行い、1on1ミーティングの技法やコーチングを学ぶ。
1月20日(月) 09:30～12:30	課題別「メンタルトレーニング研修⑤」 会 場：日本教育会館(第三会議室) 対 象：全職員 参 加：16名 内 容： ・ご機嫌の価値 ・ヒューマンリテラシーについて ・8つのライフスキル思考 講 師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	・職員が平常心で物事に臨み、自己のパフォーマンスを最大限に発揮できるような心の持ち方を学ぶ。 ・日々のメンタルトレーニングの実践方法について学ぶ。 ・ご機嫌「FLOW理論」を習慣化する。
1月20日(月) 14:00～16:30	階層別「法人キャリアデザイン研修②」 会 場：日本教育会館(第三会議室) 対 象：2級職員等 参 加：23名 内 容： ・各登壇者のキャリア報告、パネルディスカッション ・キャリアデザインとは ・個人ワーク、グループワーク 講 師：本会各支援系グループ職員5名	・職員の体験談を通じて本会におけるキャリアデザインの理解を深める。 ・職員にキャリアデザインをイメージしてもらい、自身に求められるスキルの認識につなげる。

実 施 日	研 修 概 要	目 的
2月13日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00 3月13日(木) C班 09:30～12:30 D班 14:00～17:00	階層別「1on1コミュニケーション研修⑤」 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参 加：2.13)26名 / 3.13)27名 内 容： ・対話(ダイアログ)とは ・1on1の技術と実践 ・場外(面談以外)での1on1コミュニケーション 講 師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・職員個々の能力や想いを引き出せるよう心理的安全のある関係性を築き、組織と職員の同時成長を促す技術を習得する。 ・年間を通じてロールプレイングを繰り返し行い、1on1ミーティングの技法やコーチングを学ぶ。
— 第1回目 — 3月6日(木) 09:30～16:30	階層別「新任研修」(全3回) 対 象：2025年度採用者・正規転換職員 会 場：日本教育会館(第二会議室) 参 加：24名 内 容： ・ビジネスコミュニケーションとしてのマナーの重要性 ・身だしなみの考え方、チェックリスト ・ビジネスコミュニケーションスキルを磨く 講 師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)	・本会のビジネスパーソンとしての意識改革を図り、基礎力を習得する。 ・組織人としてあるべき行動、基本的ビジネスマナースキルを体得する。
— 第2回目 — 3月7日(金) 09:30～16:30	会 場：日本教育会館(第二会議室) 参 加：26名 内 容： ・仕事の進め方(PDCAサイクルの明確化) ・事例研究 ・訪問・来客マナー、施設訪問をイメージした実践 講 師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)	・基礎力を定着させ応用力を身に付ける。 ・報告連絡相談、訪問来客対応マナーを体得する。
— 第3回目 — 3月10日(月) 09:30～16:30	会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 参 加：32名 内 容： ・職員の心得と諸規程について ・感染予防・腰痛予防 ・昭和郷内各施設の見学 講 師：東京都同胞援護会 役職員	・本会の諸規程を理解する。 ・感染症予防、腰痛予防を学ぶ。

2024年度 グループ別研修実績

・高齢者支援系

実 施 日	研 修 概 要	目 的
6月24日(金) 14:30～17:00	フレッシュマン研修 会 場：ひかり苑 多目的ホール 参 加：6名 講 師：東京都同胞援護会 職員	高齢者体験、虐待防止研修を通して同援職員としての意識や絆を深め、さらなる成長を促す。
9月30日(月) ～12月23日(月)	介護職員初任者研修 開 催：自宅学習26H、通学講習96H、実習8H 参 加：6名 講 師：東京都同胞援護会 職員	無資格の介護職員のレベルアップを図る。
12月13日(金) 15:00～17:00	中堅職員研修 会 場：原町高齢者複合施設 地域交流室 参 加：9名 講 師：(株)Professional Works 島田 孝一 氏	「介護の仕事をつづける人の気持ちのつくりかた」をテーマとした講義にて仕事を通じた自己実現について考える。

・障害者支援系

実 施 日	研 修 概 要	目 的
7月20日(土) 10:00～17:00	接遇研修 会 場：さくらんぼ 集会室 対象・参加：新任職員(8名) 講 師：コハラワークス・ソフィ 小原 智恵美 氏	・接遇マナー、ビジネスマナー、コミュニケーション技法を学ぶ。 ・職員間の交流を図る。
8月8日(木) 15:00～17:30	キャリア採用職員研修 会 場：さやま園 多目的ホール 対 象：中途採用職員 参 加：10名 講 師：東京都同胞援護会 総務部 部長 魚津 亮太 氏 グループ長 荒井 隆夫 氏	・本会の理念や方針を理解し、職員としての心構え、労働契約における労働者の義務と権利を学ぶ。 ・専門職としての使命と責任を身に付ける。
前期 6月～11月 後期 12月～2月 (3日間)	職員交流研修 会 場：各施設 対 象：リーダー層職員 参 加：前期(10名)／後期(8名)	他施設の事業を学ぶことで、支援技術・知識の向上を図り、リーダーとしての成長を促す。
通年	障害者虐待防止研修 会 場：各施設 対 象：全職員 講 師：東京都同胞援護会 職員	グループ目標に掲げた虐待防止の取組みの強化を図り、身体拘束ゼロを目指す。

・保育支援系

実 施 日	研 修 概 要	目 的
4月20日(土) 9:30～11:00	リスクマネジメント研修 「自分や他人のバイアスとの付き合い方」 会 場：IKE・Bizとしま産業振興プラザ 参 加：108名 講 師：(株)アイギス 脇 貴志 氏	・保育現場におけるリスクを知る。 ・働くということ、自分と異なる多様な価値観があることを柔軟に受け止め、仕事に活かす。
① 7月6日(土) ② 7月13日(土) 9:30～11:30	保育実践プレゼン研修 会 場：①昭和郷高齢者複合施設 さくらホール ②同援さくら保育園 参 加：①92名／②57名 計149名 内 容：保育グループの「目指す保育」に向けて これまでに各園が実践してきたことを発表 する	自園の取組みを振り返り、他園の取組みを知ることで、今後の保育へ活かす。
9月7日(土) 9:30～11:30	職員実践交流研修 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 参 加：62名 内 容：保育実践プレゼン研修での各園の発表 を受け、グループに分かれて意見交換を 行う	意見交換を通じてさらに学びを深め、職員の資質向上を図る。
11月16日(土) 9:30～11:30	保育研修 「保育に活かす権利条約」 会 場：IKE・Bizとしま産業振興プラザ 参 加：93名 講 師：白梅学園大学子ども学部 子ども学科准教授 牧野 晶哲 氏	・子どもに係る権利条約を学ぶ。 ・テーマについて、経験年数別のグループでディスカッションを行い、より良い支援につなげる。
① 6月20日(木) ② 8月20日(火) ③12月17日(火) ④12月18日(水) 14:00～17:00	職員交流研修 会 場：原町高齢者複合施設 地域交流室 参 加：①10名／②11名／③6名／④12名	様々なテーマに沿って意見交換を行う。他園の取組みを知ることで職員の資質の向上とモチベーションアップを図る。
通年	職員交換保育 会 場：各園 対 象：全職員	グループ内の園で見学や交換保育を行い、他園の環境や取組みについて学ぶことで、自園の保育や業務に活かす。

・児童・女性支援系

実 施 日	研 修 概 要	目 的
5月28日(火) 10:00～11:30	ハラスメント研修 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：全職員 参 加：17名 講 師：東京都同胞援護会 総務部 部長 魚津 亮太 氏	ハラスメントの定義と、スーパーバイザーとして指導を受ける姿勢を学び、適切な人材育成につなげる。
7月12日(金) 10:00～12:30	記録の書き方研修 会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対 象：全職員 参 加：15名 内 容：「記録の取り方マニュアル」に沿った適切な記録の基礎を学ぶ 講 師：田園調布大学人間福祉学部 社会福祉学科教授 村井 祐一 氏	自立支援計画およびケース事例を題材としてより良い記録の作成を実践し、求められる福祉人材の育成につなげる。
11月13日(水) 14:30～16:00	虐待防止研修 会 場：双葉園 集会室 対 象：全職員 参 加：16名 講 師：白梅学園大学子ども学部 子ども学科准教授 牧野 晶哲 氏	従来の虐待に関する内容ではなく、虐待が起きる仕組みや虐待生まない職員同士の関係の作り方について、体験的に理解する機会とする。

(5) 広報委員会

委員： 神田 祐一
○大越 亜希子 小堀 和子 清水 尚美 浅見 友博 坂庭 弘行
茂木 貴之 柿木 崇 茂木 康子 池田 康子 岡部 光良
森田 学

同援だよりの発行	ニューフェイス号(199号)	2024年 6月12日
	盛夏号(200号)	2024年 7月23日
	秋季号(201号)	2024年 10月29日
	新春号(202号)	2025年 1月11日

実 施 日		内 容	場 所 等
1	5月2日	・年間計画について(各号のテーマ等) ・ニューフェイス号について ・盛夏号について	原町高齢者複合施設 地域交流室
2	6月26日	・盛夏号校正	
3	8月21日	・盛夏号振り返り ・秋季号について ・新春号について	
4	10月9日	・秋季号校正	
5	11月13日	・秋季号振り返り ・新春号について	
6	10月31日	・新春号校正 ・ニューフェイス号について	
7	3月27日	・ニューフェイス号について(アンケートチェック等) ・今年度の振り返りと次年度へ向けて	

(6) リスクマネジメント委員会

委員： ○岡本 勝巳 神田 祐一 川畑 亮介
堀川 裕子 野田 泉子 薄井 正和 山田 卓磨 三瓶 達也
内田 憲 佐藤 孝夫

本会の施設における苦情、事故及び虐待防止の取組み並びに災害及び感染症等本会の施設運営に対するあらゆるリスク対策等について検討し、実施しました。

第1回 2024年4月30日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2024年度事業計画と重点項目について
- ・リスク管理規程について

第2回 2024年5月29日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・事故報告の集計結果と報告の際の基準について
- ・ファイルサーバ内の情報の不正使用について

第3回 2024年6月19日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・BCP研修(7/24)の内容について
- ・災害時の対策本部の体制の見直しについて
- ・各支援系グループのヒヤリハット報告の共有について

第4回 2024年7月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・BCP研修(講師:㈱フォックスブルー 早川氏)
- ・昭島荘の事故報告について
- ・Windowsの不具合について

第5回 2024年9月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・安否確認メールについて
- ・発災時の連絡体制について

第6回 2024年10月23日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・各支援系グループの防犯体制について
- ・BCP訓練について

第7回 2024年11月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・社内SNS「チャットワークス」について
- ・災害時の対策本部の体制について

第8回 2024年12月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・安否確認訓練について
- ・次年度の事業計画について

第9回 2025年1月22日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・安否確認訓練の実施報告について
- ・次年度の事業計画について

第10回 2025年2月26日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・Googleビジネスのプロフィールについて
- ・他法人における給食業者の不正について
- ・虐待防止マニュアルについて

第11回 2024年3月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・虐待防止マニュアルについて

(7)DX推進委員会

委 員： 岡本 勝巳
○ 池田 清彦 宮崎 明美
大堀 茂美 木下 美佳 堂園 昌美 河野 雄太 本間 仁
濱野 亜希子 坂本 貴弘 矢部 悠太 樽谷 志穂 上野 洋

デジタル技術を活用し利用者へのサービス向上並びに職場環境の整備等について検討し、実施しました。

第1回 2024年4月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・委員会設置要綱について(2024年度より組織化されたDX推進委員会の役割と運営方針の共有)
- ・これまでの取組みの振り返り
- ・DX推進基礎調査の報告／DX推進計画(案)作成について(趣旨及びスケジュール説明)

第2回 2024年5月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DX推進計画(案)及びグランドデザインの作成について
- ・今後の導入システムについて(施設ごとのハード面・ソフト面の状況の共有)
- ・セキュリティハンドブックのバージョン管理について

第3回 2024年6月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DX推進委員会設置要綱、DX推進計画、グランドデザインについての理事会報告
- ・システムを導入する対象施設の選定及び期日、評価方法について
- ・AI議事録作成ソフト、シフト作成ソフト等について

第4回 2024年7月29日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・AI議事録について(選定会社(3社)によるプレゼンテーション)
- ・システムを導入する対象施設及び評価方法の再確認

第5回 2024年8月26日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・AI議事録について(選定会社の報告(テスト施設からの報告))
- ・システム導入に係る費用対効果の調査方法について
- ・今後のシステムの導入方法について(導入順番等)
- ・施設長等の異動に伴うメールアドレスの設定について

第6回 2024年9月30日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・AI議事録の全施設展開に向けて(議事録作成マニュアルについて)
- ・今後のシステムの導入方法について(導入順番、必要なPCの準備について)
- ・今後の委員会の進め方について(ペーパーレス化／メールアドレスの紐づけ／IT研修について等)

第7回 2024年10月28日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・AI議事録について(全施設展開へ向けた経過説明及び次年度の継続使用について)
- ・システム関連の事故について
- ・WPS Officeについて／Windows11への移行／AIシステムの導入について

第8回 2024年11月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・AIシステムの導入について
- ・AI議事録の評価について
- ・Windows11への移行について(中間報告)

第9回 2024年12月23日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・Windows11への移行について
- ・PCの入替えについて／PCの不具合への対応について
- ・AIシステムの試験導入について
- ・AI議事録の評価と次年度の使用予定時間について

第10回 2025年1月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・法人(施設)所有のPCの状況とWindows11への移行について
- ・PCとOfficeの不具合について(Officeサポート終了と今後の対応について)
- ・AIシステムの導入について(導入範囲と対象者について)
- ・コミュニケーションツールの導入について

第11回 2025年2月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・Windows11への移行とPCの入替えについて／PCとOfficeの不具合について
- ・AIシステムの導入について
- ・次年度のAI議事録の使用予定時間と予算について
- ・次年度の研修について(セキュリティハンドブックの改定について)

第12回 2025年3月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・AIの利用に関する研修について
- ・AIシステムの導入について
- ・次年度に向けて

* 虐待防止委員会

委員： ○ 飯山 幸雄 横山 宏
 浅見 文隆 魚津 亮太 岡本 勝巳 山川 浩一
 唐澤 江里子 山口 慎二 荒井 隆夫 田代 秀之 小金澤 康哲

2025年3月27日に虐待防止委員会設置要綱を制定しました。

本会の基本理念の下、利用者の安全安心と権利擁護に資するため、本会施設における職員による虐待及び虐待が疑われる不適切支援を未然に防止し、また、虐待等が認められた場合に施設が調査した事実を検証するとともに、再発防止に係る取組みを推進します。

VII 業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要

本会は、2017年6月12日開催の理事会において、理事の職務執行が法令・定款に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、法令に基づき「内部管理体制の基本方針」を決定しており、その内容は次のとおりです。

1. 経営に関する管理体制
2. リスク管理に対する体制
3. コンプライアンスに関する管理体制
4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

基本方針に準拠するために、2017年10月25日開催の理事会において以下の規程を決定し整備しました。

1. 定款細則
2. 倫理規程
3. 情報公開規程

VIII 事業報告の付属明細書

2024年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する事業報告の付属明細書は作成していません。